

授業科目名	経営学入門				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ニュースや新聞などで見聞きする我々の身の回りで起きている現象の多くには企業や組織がからみ、ほとんどの問題は経営の問題として読み解くことができる。現代社会において極めて重要な役割を果たしている企業と、それを取り巻く様々な利害関係者の関係を取り上げる。経営学では、企業の経営資源や諸機能をどのようにしてマネジメントするのかという企業活動での事実の見方を学ぶ。本講義では、経営学の基本的な考え方や仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

- 経営学に関する知識
経営学に関する知識の応用

目標：

経営学の諸概念、その生成された背景および歴史について理解できる。
企業経営の現況を説明できる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験	50 %	： 講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20 %	： 課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10 %	： 講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20 %	： コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤田誠	・ 経営学入門	・ 中央経済社	・ 2015 年

参考文献等

味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編 (2017) 『【改訂版】業種把握読本—時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社. ISBN 9784904192719
 吉村典久・田中一弘・伊藤博之・稲葉祐之 (2017) 『企業統治』中央経済社. ISBN 9784502225116
 上林憲雄編著 (2016) 『人的資源管理』中央経済社. ISBN 9784502169618
 関口倫紀・竹内規彦・井口知栄編著 (2016) 『国際人的資源管理』中央経済社. ISBN 9784502180019

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3限

場所： 研究室

備考・注意事項：

- ・ 上記以外の場合、申し出て下さい。
- ・ 講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。
- ・ 講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	イントロダクション：講義の進め方の説明と経営学を学ぶ意義 本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「経営学」とはどのようなものなのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学の位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。	【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】経営学入門/マネジメント入門の講義概要を確認すること。	4時間
第2回	経営学の全体像 主として「企業」を研究対象とする経営学とはどのような学問であるのか、キーワードをもとに考え、企業の諸活動を概観する。	【予習】教科書の第1章(pp. 1-32)について読んでおくこと。【復習】第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第3回	制度の選択 (1) 企業と会社の制度的な特徴 現代社会を代表する会社形態である株式会社に焦点を当て、その特徴を考える。	【予習】教科書の第2章(pp. 33-47)について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第4回	制度の選択 (2) コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任 企業・会社は誰のものか、企業・会社はどのように統治されているのか、あるいは統治されるべきであるのかといった問題について、企業を取り巻く多様な利害関係者の存在や企業の社会的責任に関する考え方をもとに検討する。	【予習】教科書の第3章(pp. 48-74)について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第5回	戦略の形成 (1) 経営理念、目的と戦略 経営理念、ビジョン、経営哲学など経営を行うための考え方、価値観、規範に関して学習する。	【予習】教科書の第4章(pp. 75-95)について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第6回	戦略の形成 (2) 企業戦略 「経営組織における戦略とはどのような概念であるのか」ということについて、基礎的事項を学習する。	【予習】教科書の第5章(pp. 96-113)について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第7回	戦略の形成 (3) 競争戦略と事業システム 個々の事業分野での競争に勝ち抜いていくための戦略について基礎的事項を学習する。	【予習】教科書の第6章(pp. 114-129)について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第8回	組織の枠組み作り (1) 組織構造 組織における行動について、組織全体のルールや仕組みといった構造的な側面から考える。	【予習】教科書の第7章(pp. 131-154)について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第9回	組織の枠組み作り (2) 組織文化、コンフリクトのマネジメント 組織の中における個人と個人の間、部門と部門の間の争いが発生する原因とその対処方法、組織変革に関する考え方を学習する。	【予習】教科書の第8章と第9章(pp. 155-192)について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第10回	国際経営：海外進出企業の組織形態 複数の国にまたがって行われる経営について学習する。	【予習】日本企業の海外進出事例について調べておくこと。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間

第11回	組織における人間への対応：リーダーシップ、モチベーション	【予習】 教科書の第10章(pp.193-214)と第11章(pp.215-234)について読んでおくこと。 【復習】 第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第12回	人的資源管理の仕組み	【予習】 身近にある人材育成の方法について調べてくること。 【復習】 第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第13回	プロジェクトマネジメント	【予習】 身近にあるチームについて考えてくること。 【復習】 第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。	4時間
第14回	まとめ：経営学の展望	【予習】 教科書の第12章(pp.235-251)について読んでおくこと。 【復習】 講義内容について見直しをすること。	4時間

授業科目名	会計学入門				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

企業は、株主・債権者を含む利害関係者に対して、財務諸表を通し、自社の財政状態や経営成績の報告を行っている。また、利害関係者は、この財務諸表を用いて、投資や融資を含む企業に関する様々な意思決定を行っている。従って、財務諸表における情報を読み取り、その内容を理解することは、企業の状態を知る際に非常に重要とされる。本講義は、財務諸表を構成する貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書の意義および仕組みを理解し、これらの分析手法について学習および理解することを目的としている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	会計学の基礎知識	財務諸表の内容を理解し、分析することができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用		企業の財務諸表から財政状態や経営成績を読み取り、問題点を発見できる。
2. DP8. 他者とのコミュニケーション		与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
小テスト	： 授業内容の理解度を評価する。
30 %	
課題の提出	： 学習内容を理解し、課題の発見ができていないかを確認する。
30 %	
期末テスト	： 授業で得た会計学の基本知識である財務諸表の内容とその分析方法の理解度を確認する。
40 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大版商工会議所編	『ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級 (第5版)』	・ 中央経済社	・ 2023 年

参考文献等

谷武幸、桜井久勝、北川教央編著『1からの会計 (第2版)』碩学舎、2021年 (ISBN : 978-4-502-37151-6)。
桜井久勝『財務諸表分析 (第8版)』中央経済社、2020年 (ISBN : 978-4-502-34241-7)。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目
場所： 個人研究室（西館2F）
備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。アドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 財務諸表とは 講義の進め方に関する説明 財務諸表の意義 財務諸表の役割と種類	テキスト第1章「「財務諸表」とは」の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第2回 貸借対照表 (1) 貸借対照表のしくみ 貸借対照表とは 貸借対照表の様式および表示	テキスト第2章「貸借対照表」第1節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第3回 貸借対照表 (2) 資産 資産の概念と分類 資産の金額 流動資産、固定資産および繰延資産	テキスト第2章「貸借対照表」第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第4回 貸借対照表 (3) 負債 負債の概念と分類 流動負債および固定負債	テキスト第2章「貸借対照表」第3節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第5回 貸借対照表 (4) 純資産 純資産の概念と分類 株主資本、評価・換算差額等、株式引受権および新株予約権	テキスト第2章「貸借対照表」第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第6回 損益計算書 (1) 損益計算書のしくみ 損益計算書とは 損益計算書の5つの利益 損益計算書の様式 損益計算の3つのルール	テキスト第3章「損益計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第7回 損益計算書 (2) 5つの利益 売上総利益 営業利益 経常利益 税引前当期純利益 当期純利益	テキスト第3章「損益計算書」第3節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第8回 キャッシュ・フロー計算書 (1) キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書とは キャッシュ・フロー計算書と貸借対照表・損益計算書との関係	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第1節および第2節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第9回 キャッシュ・フロー計算書 (2) キャッシュ・フロー計算書のしくみ キャッシュ・フロー計算書のしくみおよび読み方	テキスト第4章「キャッシュ・フロー計算書」第3節および第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第10回 財務諸表分析 (1) 財務諸表分析とは 財務諸表分析の関係者と対象情報 財務諸表分析の基本体系 分析結果の判断のための基準	テキスト第5章「財務諸表分析」第1節～第4節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第11回 財務諸表分析 (2) 百分比財務諸表分析・成長性分析 百分比財務諸表分析 成長性および伸び率の分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第5節～第7節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第12回 財務諸表分析 (3) 安全性分析 流動比率 正味運転資本 当座比率 自己資本比率	テキスト第5章「財務諸表分析」第8節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第13回 財務諸表分析 (4) 収益性分析 資本利益率 総資本経常利益率 自己資本利益率	テキスト第5章「財務諸表分析」第10節の復習および次回講義内容のテキスト予習	4時間
第14回 財務諸表分析 (5) 1株当たり分析および1人当たり分析	テキスト第5章「財務諸表分析」第11節および第12節の復習	4時間

1株当たり当期純利益
株価収益率
1株当たり純資産
株価純資産倍率
1人当たり分析

授業科目名	ビジネス会計				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

簿記とは、企業が行う経済活動を貨幣額で認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成するための技術のことを指す。簿記の目的は、企業の経済活動を記録することおよび企業の財政状態および経営成績を明らかにすることである。簿記システムから得られた情報は、企業経営者が経営管理を行う場合、債権者が企業への融資を判断する場合等、様々な場面で利用され、利害関係者が意思決定を行う際に非常に重要な役割を果たしている。従って、このように重要な情報がどのような仕組みを通して作成されているのかを本講義では学習していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

企業の財務諸表を作成するまでの簿記の一連の手続きに関する知識

目標：

企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができる。

汎用的な力

1. DP6. 課題解決への主体的・積極的な取組み

与えられた課題をやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

課題は主として問題集からページを指定して与えます。授業時間内に巡回し、個人の進捗を確認します。また、授業中に確認テストも行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題の期限内提出	30 %	：	課題の期限内の提出とその内容により評価を行う。
小テスト	30 %	：	授業中内に行う小テストにより、授業中に学んだことへの理解に対する評価を行う。
期末テスト	40 %	：	企業が行う経済活動を認識、測定し、帳簿に記録した上で、財務諸表を作成することができるかどうかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 商業簿記 Ver. 14.0』	・ TAC株式会社 出版事業部	・ 2023 年
TAC株式会社（簿記検定講座）編著	『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 商業簿記 Ver. 14.0』	・ TAC株式会社 出版事業部	・ 2023 年

参考文献等

滝澤ななみ『みんなが欲しかったシリーズ みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第12版』TAC株式会社 出版事業部、2024年（ISBN：9784300110065）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目
場所： 個人研究室（西館2F）
備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、簿記の意義 会計の原理および簿記の仕組みについて理解する。	貸借対照表と損益計算書の役割、ひな形を覚える。勘定科目とグループを理解し、暗記する。テキストおよびトレーニングのテーマ01を読み、問題を解く。	4時間
第2回 財務諸表と簿記の5要素、日常の手続き 簿記上の取引を理解し、仕訳ができるようにする。総勘定元帳への転記と試算表、貸借対照表と損益計算書の作成までの簿記の一巡の手続きを理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ02および03を読み、問題を解く。	4時間
第3回 商品売買I（三分法） 商品売買について、掛けによる売買、手付金、内金および商品券に関する仕訳について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ04を読み、問題を解く。	4時間
第4回 商品売買II（返品、諸掛り、商品有高帳）、現金・預金 商品売買取引における返品、商品の移動にかかる費用などの仕訳について学習する。また、売掛金元帳、買掛金元帳および商品有高帳の作成方法について理解する。当座取引については当座借越の処理を理解し、仕訳ができるようにする。預金の種類および複数銀行口座の所有の場合の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ05および06を読み、問題を解く。	4時間
第5回 小口現金、クレジット売掛金 小口現金の帳簿のつけ方とタイミングを把握する。また、クレジット払いした場合の処理を理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ07および08を読み、問題を解く。	4時間
第6回 手形取引、電子記録債権・債務 受取手形・支払手形の処理を理解する。また、電子記録債権・債務の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ09および10を読み、問題を解く。	4時間
第7回 その他の取引I（貸付金・借入金、利息等） 金銭の貸付けと借入れ、利息について理解し、仕訳ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ11を読み、問題を解く。	4時間
第8回 その他の取引II（有形固定資産の取得・売却・賃借） 有形固定資産の種類、有形固定資産の取得・売却・賃借、および差入保証金に係る処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ12を読み、問題を解く。	4時間
第9回 その他の取引III（仮払金・仮受金、給与） 仮払金及び仮受金の処理について理解する。従業員に対する一時的な立替払いや預り金の処理について理解する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ13を読み、問題を解く。	4時間
第10回 さまざまな帳簿の関係 当座預金出納帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳、売掛金元帳などの様々な帳簿の記帳方法を学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ14を読み、問題を解く。	4時間
第11回 証ひょう 取引の事実を証明する資料である証ひょうの種類およびその仕訳について学習する。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ31を読み、問題を解く。	4時間
第12回 伝票 伝票会計の理解と仕訳日計表ができるようにする。	テキストおよびトレーニングにおけるテーマ32を読み、問題を解く。	4時間
第13回 試算表 仕訳、総勘定元帳への転記、試算表の作成という一連の手続きについて学習する。	テキストにおけるテーマ15を読み、トレーニング問題を解く。	4時間
第14回 主要な財務指標の種類と使い方 財務諸表の基本と読み方、および流動比率、当座比率、自己資本比率等の主要な財務指標の種類と使い方について学習する。	配布資料より各指標の算定方法とこれらの指標により企業の財政状態や経営成績におけるどのようなことを知るができるかを再度確認し、理解しておく。	4時間

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員名	尾崎文則				
学年・コース等	1年・2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告会社、コンサルティング会社、非営利組織におけるマーケティング実務経験。消費者調査を含む市場分析、マーケティング戦略の立案と実行に従事。(全14回)				

授業概要

企業によるマーケティングは、顧客にとって価値のあるものを創造し、伝達し、提供し、交換するために行われる一連の活動です。この授業科目では、こうしたマーケティングの基本的なフレームワークやコンセプトを学んでいきます。具体的にはマーケティングの定義、マーケティングプランニングの一連のプロセス（環境分析、STP、4P:製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、コミュニケーション戦略等）をテーマに講義とディスカッションを行っていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

グローバル産業や観光関連産業のビジネスやマネジメントの知識の習得
マーケティングに関する体系的知識の習得

目標：

マネジメント及びビジネスの仕組みの理解

企業や地域における基本的なマーケティング施策の立案ができる

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

企業や地域が抱える課題を発見し、解決策を立案することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不合格となることがある。
成績評価は毎回の授業での発言、毎回の授業の小レポート、期末レポートで評価する。
なお、レポートは、独自のルーブリックに基づいて評価する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の授業での発言	30 %	：	授業中の積極的なディスカッションへの参加を発言回数に基づいて評価する
毎回の授業の小レポート	30 %	：	毎回の授業時に提出を求める小レポートの内容を選択式の問については正誤、自由記述式の問については独自のルーブリックに基づいて評価する
期末レポート	40 %	：	学習した内容に関する理解度を独自のルーブリックに基づいて評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
恩蔵直人・三浦俊彦・芳賀康浩・坂下玄哲	・ベーシック・マーケティング(第2版)	・同文館出版	・2019年

参考文献等

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人「コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理」（丸善出版、2014年、

ISBN9784621066225)

恩蔵直人 監訳「コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント〔原書16版〕」（丸善出版、2022年、ISBN9784621307472）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業中は、マナーを守り他の学生の迷惑にならないように留意すること。授業での積極的な発言が期待される。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション：マーケティングとは？ この授業では、マーケティングの定義、マーケティングの対象、マーケティングミックス(マーケティング4P/マーケティング4C)の概要について理解を深めていきます。	<予習>なし <復習>教科書の序章を読み、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第2回	戦略的マーケティング この授業では、戦略的マーケティングをテーマに企業の成長戦略とポートフォリオマネジメント、事業のドメインと競争戦略について理解を深めていきます。	<予習>教科書の第1章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第3回	マーケティングにおける環境分析 この授業では、マーケティングにおける環境分析をテーマにSWOTフレームワークに基づき、外部環境分析と内部環境分析について理解を深めていきます。	<予習>教科書の第2章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第4回	マーケティング・マネジメントの基礎 この授業では、マーケティング・マネジメントの基礎をテーマに、マーケティングSTPの枠組みに基づく形で、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて理解を深めていきます。	<予習>教科書の第3章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第5回	マーケティング・リサーチ この授業では、マーケティング・リサーチをテーマに、マーケティング・リサーチの目的、プロセス、手法について理解を深めていきます。	<予習>教科書の第4章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第6回	消費者行動分析 この授業では、消費者行動分析をテーマに消費者の購買意思決定プロセスについて理解を深めていきます。	<予習>教科書の第5章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第7回	製品戦略 この授業では、製品戦略をテーマに製品の定義・分類、製品開発のプロセス、製品ライフサイクルについて理解を深めていきます。	<予習>教科書の第6章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第8回	ブランド戦略 この授業では、ブランド戦略をテーマにブランドの定義、ブランド・エクイティとアイデンティティ、ブランドビルディング、ブランドコミュニケーションについて理解を深めていきます。	<予習>教科書の第7章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第9回	価格戦略 この授業では、価格戦略をテーマに価格戦略の意義と価格設定アプローチについて理解を深めていきます。	<予習>教科書の第8章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第10回	コミュニケーション戦略 この授業では、コミュニケーション戦略をテーマにコミュニケーション戦略とコミュニケーションミックスについて理解を深めていきます。	<予習>教科書の第9章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間
第11回	チャネル戦略	<予習>教科書の第10章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましょう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましょう。	4時間

	この授業では、チャネル戦略をテーマに流通の機能と構造、マーケティングチャネルの設計と管理について理解を深めていきます。		
第12回	サービス・マーケティング この授業ではサービス・マーケティングをテーマに製品とは異なるサービスの特性とマーケティング戦略、そして製品とサービスの統合について理解を深めていきます。	<予習>教科書の第11章を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましよう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましよう。	4時間
第13回	デジタル・マーケティング この授業ではデジタル・マーケティングをテーマに、デジタル環境下のマーケティングミックスについて理解を深めていきます。	<予習>事前配布資料を読み、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましよう。 <復習>教科書と講義資料を読み返し、小レポートに取り組みましよう。	4時間
第14回	まとめ この授業では、最終回として、これまで学んできた内容を全体的に振り返りながら、包括的な体系立てを行いながら、マーケティングに対する全体的な理解を深めていきます。	<予習>教科書のうち、理解が不十分と考えられる箇所を読み返し、事前に提示された問いに対する回答を簡条書きにしてみましよう。 <復習>期末レポートに取り組みましよう。	4時間

授業科目名	経営統計入門				
担当教員名	海野大・上阪彩香・關戸啓人・前田博美・岡本有加				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得することを目指す。統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目標とする。

前半では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。後半では、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。本講義を通じて、社会での実例を含むいくつかの例を用いて理解を深めることで、統計学によって様々な現象を理解する一つの視点を獲得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

統計的なものの見方、記述統計（クロス集計、ヒストグラム、平均・分散、相関関係）、確率論、推測統計（区間推定、仮説検定）等の基本的な統計理論

目標：

データから情報や知見を得るための考え方や手法、データの可視化、代表値や相関係数の概念と計算方法、区間推定や仮説検定の概念、目的、計算方法について理解し、実際に計算できるようになる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

データから統計的な手法を用いて課題を発見し、分析することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・eラーニング、反転授業

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

： 毎回授業の後に、小テストを実施します。

70 %

定期試験

： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教養としてのデータサイエンス（内田 誠一 他著、ISBN：978-4-06-523809-7、講談社）2021年
 確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年
 データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

講義資料やその他の資料は適宜配布する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワーを活用してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業に関するガイダンスと社会における統計学・データサイエンスの意義 記述統計と推測統計、社会における統計学及びデータサイエンスの重要性について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第2回 データからの情報抽出 (1) 尺度水準、量的データの要約 統計データの分類及び量的データの整理・要約について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第3回 データからの情報抽出 (2) 質的データの要約 質的データの整理・要約について、具体的な例を挙げて紹介する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第4回 データからの情報抽出 (3) データの可視化 データの可視化を取り上げ、適切なデータの見せ方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第5回 データからの情報抽出 (4) 変数の変換 標準化などの変数の変換及びその意義について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第6回 データからの情報抽出 (5) 相関と因果 相関関係と因果関係の違いについて説明し、散布図及び相関係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第7回 データからの情報抽出 (6) 回帰 回帰直線及び決定係数について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第8回 データからの情報抽出 (7) まとめと補足 第1回から7回目までのまとめ及び補足を行う。	第1回目から7回目までの復習を行う。	4時間
第9回 統計的推測の考え方 (1) 推測統計の基礎 標本抽出及び推測統計の基礎的な事項・考え方について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第10回 統計的推測の考え方 (2) 標本分布と信頼区間 標本分布及び信頼区間について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第11回 統計的推測の考え方 (3) 統計的検定の基礎 統計的検定の基礎的な事項・手続きについて講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第12回 統計的推測の考え方 (4) t検定 対応のないt検定及び対応のあるt検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第13回 統計的推測の考え方 (5) カイ二乗検定 適合度の検定及び独立性の検定について講義する。	小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。	4時間
第14回 統計的推測の考え方 (6) まとめと補足 第9回から13回目までのまとめ及び補足を行う。	第9回目から13回目までの復習を行う。	4時間

授業科目名	人文地理				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業のテーマは、人文地理学とはどのような学問か。どのような見方・考え方で、どのようなことに、どのようにアプローチするのかということを出発点として、人文地理学を学ぶと何がわかり、どんなことの役に立つのかという問いに様々なテーマの事例を通して答えることである。そのため、まず人文地理の資料・表現方法として最も重要な地図の基礎的事項を学ぶ。次に、環境、資源、観光などのテーマについて、様々な情報を駆使して地域を読み解き、事象の分布やまとりにみられる空間的な規則性・傾向性とその要因を考察する人文地理学の知恵と技を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地理学の学問体系（系統地理学、地誌学、自然地理学、人文地理学などの関係）、地域の特徴を理解するための読図技能 人文地理学の用いる基礎的な専門用語とその概念	人文地理学の学問的な位置付けを説明できる。 人文地理学に関する基礎的な用語の使用法を区別できる。 地図の読図に関する基礎的な作業ができる。
汎用的な力		
1. DP8. 他者とのコミュニケーション		人文地理学の見方・考え方をを用いて、地域の事象について自らの考えを述べるができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業時に取り組む課題	： 読図作業は、作業への取り組み度合、記述適切さ・具体性・独自性などから評価する。 地域の事象に対する自らの考えは、人文地理学の見方・考え方の使用の有無および記述の具体性・独自性などから評価する。
定期試験	： 人文地理学の学問体系については、地理学における人文地理学の位置付けを論理的に説明できるかを評価する。 人文地理学に関する基礎的な用語については、その使用法を区別できるかを評価する。
	40 %
	60 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『みわたす・つなげる人文地理学』（上杉和央・香川雄一・近藤章夫編、古今書院(2021)、ISBN:9784772281218）
『現代人文地理学の理論と実践 - 世界を読み解く地理学的思考』（ハバード、フィル・キチン、ロブ・パートレイ、ブレンダン・フラウ、ダンカン著、山本正三・菅野峰明訳、明石書店(2018)、ISBN:9784750347417）
『人文地理学への招待』（竹中克行編、ミネルヴァ書房(2015)、ISBN:9784623072293）
『現代社会の人文地理学』（稲垣 稜、古今書院(2014)、ISBN:9784772231626）
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 4 限
場所： 西館 4 階研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 イントロダクション：人文地理学とは何か 地理学の学問体系における人文地理学の位置付け、人文地理学の見方・考え方について学びます。	予習：シラバスを通読しておいてください。復習：イントロダクションの配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第2回 地図表現とその活用 メンタルマップ、世界地図、地球儀など世界を大観する方法の違いを学びます。	予習：大陸、海洋、主要な国・都市などの地表の構成を確認しておいてください。復習：「地図表現とその活用」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第3回 地図が創り上げた世界観と歴史 地図の発達とそれらが創り上げた世界観を概観し、世界を大観する際の注意点について考えます。	予習：あなたが最も適切だと考える世界地図を用意し、その理由を考えてください。復習：「地図が創り上げた世界観と歴史」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第4回 地形図の読図 地形図に関する基礎的事項を確認し、その読図作業を通じて、地域的特色を見出す視点を学びます。	予習：国土地理院のHPで地形図を閲覧し、自身の居住地周辺の地形図表現を確認しておいてください。復習：「地形図の読図」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第5回 環境論 文化地理学の環境論の視点から、人間活動と環境の関係について考えます。	予習：世界にはなぜ「豊かな地域」と「貧しい地域」が存在するのか自身の考えをまとめておいてください。復習：「環境論」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第6回 環境問題 人間と自然環境との関わりを考える基礎的概念の地球環境システムについて学び、環境問題の整理の方法について学びます。	予習：「環境問題」と聞き最初に思いついたものについて調べておいてください。復習：「環境問題」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第7回 エコロジーの実践と葛藤 環境保全型農業成立のしくみからエコロジー実践の条件について、地域固有の資源の議論からエコロジーの葛藤について考えます。	予習：環境保全を目指した農業の例を調べておいてください。復習：「エコロジーの実践と葛藤」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第8回 地域資源 地域資源管理の問題および食文化の地域資源化のもたらす結果について考えます。	予習：「資源」と聞いて思いつくものをなるべく多くリストアップしておいてください。復習：「地域資源」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第9回 観光と地域 ツーリストの分類とその特徴、観光地のライフサイクルモデルから、観光と地域の関わりについて学びます。	予習：ツーリストの定義について調べておいてください。復習：「観光と地域」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第10回 地域イメージ形成と地域の変容 地域イメージ形成過程およびその影響など、地域イメージのもたらす役割について学びます。	予習：これまでに訪れたことのない国・地域をあげ、それらにどのようなイメージを持っているかを整理しておいてください。復習：「地域イメージ形成と地域の変容」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第11回 余暇・観光における空間的行動（ゲスト） 余暇活動・観光行動の空間的特性から、ツーリスト空間、集客圏、観光地間の関係について学びます。	予習：ここ数年で余暇活動・観光で訪れた場所をリストアップしておいてください。復習：「余暇・観光における空間的行動（ゲスト）」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第12回 余暇・観光における空間的行動（ホスト）	予習：web等でパッケージツアーのパンフレットを一読し、そこであげられている観光地にどのような特徴があるのかを考えておいてください。復習：「余暇・観光における空間的行動（ホスト）」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間

	旅行商品の供給体系の変遷から、観光地間の空間的な相互関係の特徴について学ぶ。		
第13回	観光空間の形成 ディズニー化という視点から、近年の観光空間形成の原理や特徴について考えます。	予習：ディズニー・テーマパークが顧客を引き付ける理由を考えておいてください。復習：「観光空間の形成」の配布資料からキーワードを抽出して記入してください。	4時間
第14回	授業のまとめ 授業全体のまとめを行い、人文地理学の見方・考え方で事象を考える意義を確認します。	予習：シラバスと配布資料を通読し、これまでの授業資料からキーワードを抜き出し、整理しておいてください。復習：これまでの講義資料の整理、キーワードリストの作成など試験の準備学修をしてください。	4時間

授業科目名	国際観光概論				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、旅行、宿泊、運輸業をはじめとするさまざまな観光ビジネスと地域との関わりやその果たす役割について包括的に理解を深めることを目標とする。わが国では、観光を通して交流人口を増やすことによる地域活性化や経済波及効果への期待が高まっている。一方、地方では外国人旅行者の受け入れ体制づくりが行われているが、観光産業における経営の後継者不足や若者の地方離れによる人手不足が顕著である。こうしたわが国の観光ビジネスの可能性と課題について理解を深め、解決策を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

- 観光の歴史・専門用語・仕組みの理解
観光に関する知識

目標：

観光とは何かについて、観光の専門用語・現代社会における観光の仕組みについて基礎知識を得る。
インターネットや書籍の情報をもとに、観光業界の特徴的な動向を理解できる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

常に観光現象に興味を持ち、新聞、雑誌、テレビなどのマスコミの情報から国内外の観光動向を把握することによって、観光における課題や今後のあり方について考察することが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
「試験（小テスト、中間テスト、定期試験）」

成績評価の方法・評価の割合

小テスト・受講態度

20 %

中間テスト

40 %

定期試験（筆記）

40 %

評価の基準

： 毎回の授業内容から出される小テストの答えを提出してもらい、平常点として成績に反映する。

： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。

： 観光学の基礎知識を用いて自身の意見を述べる問題。次の観点から評価する。1. 観光学の基礎知識の正しい理解、2. 現代の観光における問題点を指摘し、その解決のための方案を探ることまでつなげられるのか

使用教科書

指定する

著者

国枝よしみ・岡田晃編著

タイトル

・ 新しい観光学

出版社

・ 千倉書房

出版年

・ 2023 年

参考文献等

前田 勇 編著（2015）『新現代観光総論』学文社（ISBN9784762029172）

岡本 伸之 編著 (2001) 『観光学入門』有斐閣 (ISBN4-641-12130-3)
 岡本 伸之 編著 (2013) 『観光経営学 (よくわかる観光学)』朝倉書店 (ISBN978-4-254-16647-7)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
 場所： 研究室（西館2階）
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
 アドレス： kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
 メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション・広がりつつある観光産業 学習内容や評価方法、受講においての注意事項などについて説明したうえで、広がりつつある観光産業について学びます。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回 「観光」の概念/歴史 「観光」および観光に関連することばの意味と現代観光の基本的構造と構成要素について学びます。また、現代の観光がどのような社会的背景の中で発展してきたかについて観光の歴史を通して学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅行、マストツーリズム）	4時間
第3回 観光資源とニューツーリズム/持続可能な観光 観光対象の基本的性格や観光対象の類型、対象の素材としての観光資源の定義や分類について学びます。また、ニューツーリズムの概念やそれぞれの定義について理解し、ニューツーリズム推進に関する取組について学びます。さらに、持続可能な観光とは何かについて理解してもらいます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニューツーリズム、持続可能な観光、デ・マーケティング）	4時間
第4回 旅行ビジネスの過去・現在・未来 旅行がビジネスとして確立してきた歴史と背景について学びます。また、旅行ビジネスがもたらす交流創造（人的交流・地域交流）について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：トーマス・クック、FIT）	4時間
第5回 観光とテクノロジー 観光関連分野の企業がテクノロジーを導入する目的やテクノロジーの急速な進化による観光関連産業や観光地での活用状況について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：テクノロジー、OTA）	4時間
第6回 航空ビジネス 航空運送事業の特性や航空会社の組織と仕事について概観したうえで、航空業界の現状や将来について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：航空輸送事業、航空ネットワーク）	4時間
第7回 ホテルビジネスの現状と今後の展望 ホテルビジネスの概要と仕事の基本知識について理解するとともに、それぞれの職種で求められる知識やスキル、資格を明らかにし、ホテルを職業として選択した場合のキャリアパスについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旅館業法、ホテルマネジメント）	4時間
第8回 今までの授業内容のReviewと中間テスト 今迄の授業内容を振り返り、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回 テーマパークとイベント事業 テーマパークの定義や遊園地との違い、その特性について学びます。また、観光におけるイベントの役割とイベントツーリズムについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：テーマパーク、イベント）	4時間
第10回 ホスピタリティ ホスピタリティとは何か、なぜ重要なのかについて理解し、サービスとホスピタリティの違いについて学びます。さらに、航空運送事業の特性とホスピタリティの関係について理解したうえで、航空会社（ANA）の実践例を通して航空業界におけるホスピタリティを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピタリティ、接客過程モデル）	4時間
第11回 観光マーケティング 経営学分野であるマーケティング理論を観光に応用し、観光業界に携わる企業の観光マーケティング活動について解説します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、SWOT分析）	4時間
第12回 観光政策/観光まちづくり 観光分野において国や地方公共団体が、政治や行政を行う上での考え方や方針のことである観光政策について学びます。また、観光まちづくりとは何かについて理解したうえで、アフターコロナ時代に一層注目される観光まちづくりの考え方について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：DMO、体験交流型観光）	4時間

第13回	ブランドと観光 ブランドについて理解し、観光におけるブランドの使われ方、そしてプレイスのブランドがその国、地域、場所にどのように貢献するのかについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード： ブランディング、ブランド・イメージ）	4時間
第14回	食と地域振興 食とツーリズムに関連する、フードツーリズム、ガストロノミーツーリズム、アグリツーリズム、ワインツーリズム、スローフード、地産地消などのコンテンツについて学びます。また、食の地域資源を利用したまちづくりによる地域振興の事例を通して、食と地域振興との関連性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード： フードツーリズム、地方創生）	4時間

授業科目名	旅行ビジネス論				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	1・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営マネジメントを担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。(全14回)				

授業概要

将来において経済成長を担うとされている観光産業において、日本と世界、地域と社会、人と人を結ぶ旅行業はその中心的役割を持っている。その旅行業について、旅行会社が果たしてきた役割や社会的価値に注目し、経営の面からその特性を明らかにする。グループワークでは、具体的な旅行商品造成に挑戦しその成果を共有する。また、最近注目の着地型観光、地域交流ビジネスについて、そして旅行業に求められる人材についての講義も含まれる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

旅行産業におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解する
旅行産業における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につける

目標：

新しい時代の旅行産業を考察することができる。
旅行業の職務に係る問題解決のためにその専門性を応用できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

旅行ビジネスの課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

国内、海外旅行企画のグループ発表において、評価、コメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	30 %	：	試験の素点に基づいて到達度を評価する。
授業への参加	20 %	：	毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
グループワークとプレゼンテーション	30 %	：	グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
リアクションペーパー	20 %	：	毎回の授業の終わりに提出のレポートで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

立教大学観光学部旅行産業研究会編著（2019）『旅行産業論（改訂版）』日本交通公社。
ISBN-10:4902927829/ISBN-13:978-4902927825

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・日々のニュースから、観光に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限（13:10～14:50）

場所： 西館4階 松田研究室

備考・注意事項： メールで質問等も受け付けます（matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp）。その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の進め方：旅行業とは 授業の進め方、目標を説明する。「旅行」と「観光」の定義を踏まえた上で、旅行業の範囲を理解する。さらに旅行業の将来の姿を考察し、旅行業に求められる能力を理解する。	教科書、第1講、1章、2章、3章を読み、旅行業について基本的な定義と範囲を理解しておく。	4時間
第2回 旅行業の社会的役割と存在意義 旅行業の歴史を踏まえ、旅行業の社会的役割と存在意義を理解する。以降毎回の授業の後半30分で行う旅行商品を企画するグループワークについて説明する。	教科書、第2講、1章、2章を読み、旅行業の産業としての自立過程を理解しておく。実際に旅行会社の店舗を訪問し、自身の興味ある国内旅行商品が入ったパンフレットを次回授業に持ち寄る。	4時間
第3回 旅行契約形態と企画旅行商品について 旅行会社の企画する旅行商品を理解する。旅行商品とそのバリューチェーンを理解する。旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第1回）	教科書、第3講、1章、2章を読み、旅行会社にとっての企画旅行商品を理解しておく。グループワークの準備。	4時間
第4回 旅行業の経営について 旅行商品の特性と旅行会社の経営特性を理解する。旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第2回）	教科書、第4講、1章、2章を読み、旅行会社の創る商品とその経営の特性を理解する。グループワークの準備	4時間
第5回 旅行マーケットについて 時代とともに変化する国内旅行、海外旅行におけるそれぞれのマーケットと旅行商品を理解する。旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第3回）	教科書、第5講、1章、2章を読み、国内、海外旅行のマーケットの変遷と現状を理解しておく。国内旅行企画発表会の準備をする。	4時間
第6回 旅行マーケットの成長、成熟後の現代の抱える問題点について 旅行マーケットの時代を追っての変化と、旅行者の旅行形態の変化を理解し、その変化をもたらした要因を探る。旅行商品企画グループワーク（国内旅行：第4回）	教科書、第6講、1章、2章、3章を読み、旅行マーケットの現状と問題点を理解しておく。国内旅行企画発表会の準備をする。	4時間
第7回 旅行会社のビジネス展開について（販売ルート） 旅行会社が具体的にどのような販売ルートを持っているかを理解する。旅行商品企画グループワーク（国内旅行企画成果発表会）	教科書、第7講、1章、2章、3章を読み、旅行会社の店頭販売、メディア販売、インターネット販売について理解しておく。	4時間
第8回 外部講師による講義：旅行業における公正競争規約（表示規約）企画商品の変遷 旅行業法と景品表示法の関連について理解し、実際の景品表示法違反などの事例から学ぶ。	実際に旅行会社の店舗を訪問し、旅行商品についての気づきを400字程度のレポートにまとめ発表できるようにしておく。授業後提出要。	4時間
第9回 旅行会社のビジネス展開について（販売ターゲット） 旅行会社が具体的にどのようなターゲット設定、販売方法を取っているかを理解する。企画旅行商品の変遷を踏まえ、現在と将来の戦略について理解する。また、後半の旅行企画のグループワークについての課題を考える。	教科書、第8講、1章、2章、3章を読み、旅行会社が販売のターゲットとする出張ビジネス、法人・教育旅行、MICEについて理解しておく。グループワークの準備。	4時間
第10回 インバウンド事業について	教科書、第9講、1章、2章を読み、インバウンドビジネスについて理解しておく。グループワークの準備。	4時間

	<p>昨今急激な伸びを示すインバウンドマーケットについて、その変遷と現状、ビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第1回）</p>		
第11回	<p>旅行会社の予約販売システムについて</p> <p>旅行会社の予約販売システムと、世界の旅行関連システムを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第2回）</p>	<p>教科書、第10講、1章、2章を読み、旅行会社の予約販売システムの変遷と、航空会社の予約システム等の世界の旅行関連システムを理解しておく。 グループワークの準備。</p>	4時間
第12回	<p>旅行マーケットのグローバル化について</p> <p>グローバルな視点での旅行産業の動向と、世界の旅行会社のビジネスモデルを理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画：第3回）</p>	<p>教科書、第11講、1章、2章、3章を読み、旅行会社のグローバル化について理解しておく。グループワークの準備。</p>	4時間
第13回	<p>地域観光について</p> <p>着地型観光、地域交流ビジネスにおける旅行会社の役割を理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画成果発表会/前半）</p>	<p>教科書、第13講、1章を読み、地域における観光による6次産業化の概念を理解しておく。海外旅行企画成果発表会の準備をしておく。</p>	4時間
第14回	<p>旅行産業の危機管理と社会的価値について</p> <p>観光における危機管理の特徴と、旅行会社の役割を理解する。旅行産業の教育的・社会的価値について理解する。 旅行商品企画グループワーク（インバウンド企画成果発表会/後半）</p>	<p>教科書、第13講、2章、3章を読み、旅行産業における危機管理と、社会的価値について理解しておく。海外旅行企画成果発表会の準備をしておく。</p>	4時間

授業科目名	観光政策論				
担当教員名	原田弘之・中野毅				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

授業概要

国や当該地域の観光を振興するための観光政策について学びます。前半は基礎編として、国や地方の観光政策の変遷や現状、実例を学んだ上で、近年の重要トピックスとして食・お土産、宿泊、案内人等に関する政策や取組施策等について学びます。後半は、それらの学びを踏まえて、複数の受講者によるグループワークで、教員が選定する地域を対象として、観光情報のリサーチや分析等を踏まえて、観光戦略プランを検討し、発表を行います。それらにより、自分事として観光政策について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

観光政策の基礎知識と立案方法

目標：

観光政策に関する歴史や多様な姿等を学び、グループワークを通して、観光政策の目的やめざすあり方について考える力を身につけることができる。

2. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解

観光は運輸、宿泊、飲食、物販など非常にすそ野の広い産業分野と関連しており、それら産業との連携の視点からも観光政策を学ぶ

観光が非常に多分野多岐にわたる産業と関係していることを学ぶとともに、自分の将来のキャリア発見の参考にできる

汎用的な力

1. DP5. 課題解決に向けての方策の企画・立案

自分の身の回りや地域社会、メディア等を通して、地域の課題を発見し、地域にふさわしい観光のあり方を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を不可とする。ふりかえりシートの提出、中間テスト、グループワーク、期末テストで評価します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ふりかえりシート・受講態度	40 %	：	前半は毎回ふりかえりシートを提出してもらい、その提出状況と、通期の受講態度で評価します。
グループワーク	40 %	：	後半のグループワークに対する取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。
期末テスト	20 %	：	講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著 (2022) 『新しい観光学』千倉書房、ISBN978-4-8051-1275-5
 NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編 (2016) 『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社、
 ISBN978-4-7615-2635-1
 国土交通省『観光白書』（最新版）※webにも掲載

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
 授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限
 場所： 個人研究室
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えませんが、メールでも対応します。
 アドレスは、授業で伝えます。
 メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、観光政策を進める意義や日本における問題点等について考えます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回 国の観光政策 国の観光政策や観光に関係する政策（国土計計画、自然公園、文化財等）の歴史的経過や現状や抱える問題等について学び、これからのインバウンド政策や国内旅行政策、地方創生、さらには世界的に要請されるサステイナブルツーリズム等について考えます。	国の観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第3回 都市部の自治体における観光政策 都市部の自治体における観光に関する課題や観光政策、DMO等を中心とする観光ガバナンスについて学ぶとともに、事例を通して、観光政策の立案方法や立案プロセスについて学びます。	都市部の自治体における観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第4回 地方部の自治体における観光・地域活性化政策 過疎地域など地方部の自治体においては、観光に関する期待が非常に高くなっています。そうした地域における問題や観光政策、活性化政策、ガバナンス等について学ぶとともに、事例を通して、政策等の立案方法や立案プロセスについて学びます。	地方部の自治体における観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第5回 食やお土産と観光政策 食やお土産は旅行における魅力の大きな部分を占めます。ミシュランやB級グルメ等の食、いちご狩りなどの観光農業、秘密のケンミンショウなどに見られる特産品などです。それらの現状や産み出す取組等について学びます。	食やお土産と観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第6回 宿泊と観光政策 ホテルや旅館以外に、民泊や農泊、まち宿、キャンプ、車中泊など観光における宿泊は多様化しています。またネットによる予約システムが主流になってきており、それらについて学び、その問題点や今後のあり方について考えます。	宿泊と観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第7回 案内ガイドと観光政策 旅行や観光の質を高める大きな要素に、その資源や地域を案内するガイドやインタープリターの存在があります。テレビ番組でも地域のスポットや人を訪ね歩くプログラムが流行っています。また、近年はスマートフォンを活用した音声ガイドやVR、ARも含めた案内が出現しつつあります。さらに、インバウンドに対応する通訳ガイドの役割も大きくなっています。これら旅行や観光における案内ガイドの意義や現状、問題点、今後のあり方について考えます。	案内ガイドと観光政策に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第8回 観光政策の推進と体制・人材 観光政策の推進に関わる人材や体制について学びます。観光政策は一般に、行政が事務局を担いつつ、観光協会などの観光団体、商工会議所や商工会、関連する事業者、そして市民等が連携しながら進めています。また近年設立が広がっているDMO（観光地域づくり法人）や、地方で活躍する人材候補となる地域おこし協力隊制度についても学びます。	観光政策の推進と体制に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第9回 観光政策立案演習のガイダンス 第9回～第14回に実施する観光政策立案演習の内容と進め方の解説を行います。対象自治体はあらかじめ選定します。グループワークとして取り組むため、グループ決めを行います。	グループメンバーにおける役割分担や連絡手段等の検討。	4時間
第10回 対象自治体の観光に関するリサーチ 配布するシートを活用し、対象自治体の観光に関するリサーチ（観光データ、観光資源、取組等）、をインターネット等を使って行います。	事前に対象地域について地域の概要や観光資源について下調べしておく。必須ではないが、グループで対象自治体の視察を行う。	4時間

第11回	<p>観光戦略の検討（現状データ等からみた課題の発見・設定）</p> <p>配布するシートを活用し、SWOT分析等により、観光戦略について検討します。講義中に、適宜、質問を受け付け、必要に応じて助言を行います。</p>	関連する事例等を調べてみる。	4時間
第12回	<p>観光戦略の検討（事例等を踏まえた観光戦略の立案）</p> <p>第11回を踏まえて、観光戦略についてまとめ、プレゼン資料を作成します。</p>	発表の練習をしておく。	4時間
第13回	<p>発表会（前半）</p> <p>観光戦略について、グループごとに発表を行います。自分のグループの発表だけでなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。</p>	自分と他グループの発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第14回	<p>発表会（後半）とまとめ</p> <p>第13回の続きを行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。</p>	自分と他グループの発表及び講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

授業科目名	観光資源論				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

授業概要

観光する場合の動機や目的の中心的存在である「観光資源」について学びます。前半は基礎編として、観光資源の種類や変遷を学んだ上で、主要な伝統的及び近年注目される観光資源について学びます。また観光資源の調査・発掘方法や活用など磨き上げの方法について学びます。後半は、それらの学びを踏まえて、受講者による個人ワークで、本人が選定する地域を対象とした観光資源の発掘や活用についてのプランを検討し、発表を行います。それらにより、自分事として観光資源について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

観光資源の多様な捉え方と発見方法

目標：

観光資源に関する歴史や多様な捉え方等を学び、自分の視点で観光資源を発掘し、活用さらには地域振興について考える力を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

自分の身の回りや地域社会、メディア等を通して、観光資源を見出し、それに関する課題等について考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ふりかえりシート・受講態度	20 %	：	前半は毎回ふりかえりシートを提出してもらい、その提出状況と、通期の受講態度で評価します。
中間テスト	20 %	：	前半の講義に関する理解度を測るテストを実施し、その結果で評価します。
個人ワーク	40 %	：	後半の個人ワークに対する取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。
期末テスト	20 %	：	講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2022）『新しい観光学』千倉書房、ISBN978-4-8051-1275-5
 NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編（2016）『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社、ISBN978-4-7615-2635-1
 JTB総合研究所編（2021）『観光学基礎-観光に関する14章』JTB総合研究所
 酒井順子著（2003）『観光の哀しみ』新潮文庫、ISBN4-10-398503-8

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
 授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限
 場所： 個人研究室
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
 アドレスは、授業で伝えます。
 メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、観光資源の定義及び観光と自分との関わりを考えてもらいます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回	観光資源の種類とその変遷 観光の歴史とともに注目されてきた観光資源の種類について学び、注目されてきた理由について社会動向等も踏まえて考えます。	観光資源の種類と変遷に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第3回	伝統的な観光資源 日本三景や世界遺産などに代表される、自然や歴史・文化、温泉など長年人々に好まれてきた観光資源について学び、その抱える問題や今後のあり方について考えます。	伝統的な観光資源に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第4回	近年注目されてきた観光資源 近年注目されてきたニューツーリズム等の観光資源について学び、その理由や今後のあり方について考えます。	近年注目されてきた観光資源に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第5回	これから注目される観光資源 グローバル化や情報技術の進展の中で、現在注目されている観光資源について学び、今後のあり方について考えます。	これから注目される観光資源に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第6回	観光資源の調査・発掘方法 観光資源の調査・発掘について、地域の探検や聞き取りなどを含む、多様な視点による地域における「宝探し」の方法について学びます。	観光資源の調査・発掘方法に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第7回	観光資源の磨き上げと活用方法 発掘した観光資源（場所、体験、食、お土産等含む）について、活用や商品化など磨き上げに向けた方法について学びます。	観光資源の磨き上げと活用方法に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第8回	中間テストとふりかえり 第1回～第7回までの講義の理解を図るための中間テストを行い、解答の解説を行いながら、ふりかえります。	中間テストに関するふりかえりシートを作成する	4時間
第9回	観光資源発掘・活用演習のガイダンス 第9回～第14回に実施する観光資源発掘・活用演習の内容と進め方の解説を行います。受講者が住んでいる地域やゆかりのある場所などを選定し、個人ワークとして取り組みます。	演習の対象地域の決定	4時間
第10回	観光資源の発掘と整理・評価 受講者本人の対象地域について、配布するシートを活用し、多様な視点から観光資源の発掘・整理を行います。それらの評価を行い、注目する観光資源を選定します。	事前に対象地域について地域の概要や観光資源について下調べしておく。	4時間
第11回	観光資源活用の検討（対象地域と事例調査） 配布するシートを活用し、観光資源の活用について検討します。講義中に、適宜、質問を受け付け、必要に応じて助言を行います。	関連する事例等を調べてみる。	4時間
第12回	観光資源活用の検討（活用プランの検討・作成） 第11回を踏まえて、観光資源の活用プランについてまとめ、プレゼン資料を作成します。	発表の練習をしておく。	4時間
第13回	発表会（前半） 観光資源の発掘・活用プランについて、各自、発表を行います。自分の発表だけではなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。	自分及び他者の発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

第14回	発表会（後半）とまとめ	自分及び他者の発表と講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第13回の続きを行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。			

授業科目名	国際経営総論				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA）、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種業務を担当（全14回）。				

授業概要

現代においては、企業活動が国境を越えさらにグローバルな視点から経営と事業活動を行い成果を挙げることが、多くの企業の重要な経営の目標や課題として重要性を増しています。本講義は、企業活動のグローバル化に関する企業経営のあり方について、国際経営に関する基礎的な知識・理論を学び、最新の動向やトレンドにも焦点を当てて重要点を解説し、国際経営に関する基本的な理解を深めます。国際経営の基礎的な知識は、海外市場での企業活動だけでなく、国内で海外からの顧客をターゲットとするホテル等観光関連の企業、日本市場で活動する外資系企業や、外国人幹部や社員が活躍する日本企業の活動にも大きな関りがあります。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を分かりやすく解説するとともに質疑応答を行います。教室での対面授業を基本にしますが、知識・情報の理解の定着、充実した内容のビデオ教材の視聴などに有効なオンデマンド授業を月1回程度併用する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

国際経営に関連する基本的な事項・知識を理解する。

目標：

国際経営に関する基本的な事項・知識について説明できる。

汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取組み

国際経営に関わる基本的な課題につき、文献含む各種情報を主体的に収集・分析し活用する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

授業方法はクラスの規模等に応じて適宜変更する。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。特別な事情のある場合を除き、全授業回数の過半以上の出席（オンライン授業は、リアクションペーパーの提出を出席とみなします）がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。積極的な発言等授業への貢献は歓迎しその内容に応じて加点評価します。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意しますが、改善が見られない場合はイエローカードを渡し警告、次いでレッドカードを渡し減点対象とします。特に授業の進捗と、周囲の受講者の迷惑行為となる私語・携帯電話の通話には厳しく対応します。リアクションペーパーの提出期限は原則として毎回の授業後1週間とし、それ以降の提出は各回1点減点となります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小レポート（リアクションペーパー、毎回）	：	授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述や極端に少ない記述の場合は0点とします。期限後の提出は1点減点。
	30 %	
テキスト各章の発表	：	テキストの各章を分担し、単独で発表していただきます。満点を10点で評価、発表なしの場合は0点です。
	10 %	
期末試験	：	国際経営に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。
	60 %	

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

参考文献等

大木清弘 (2017) 『コア・テキスト国際経営』新世社 ISBN:978-4-88334-266-7

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習（課題の解答案の作成を含む、以下同じ）をすること。本講義の内容を深く理解する上で、国際的な企業の活動、それに関連する国際政治・経済・社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するように心がけてください。Google Classroomの本講義の項で、授業の情報・資料を掲示し、テキストの各章別の分担発表、毎回のリアクションペーパーや課題等の掲示・提出を行います。その他は第1回目の授業で説明します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限
場所： 西館3階44研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス、国際経営とは何か 国際経営とはどのようなものかについて、国際経営が日中化している状況や、国際経営の難しさ、企業が国際経営を行う理由などについて学びます。	教科書の第1章を読んで、国際経営に関するイメージや興味、知りたい点などをまとめて授業に臨んでください。	4時間
第2回 海外直接投資の理論 海外直接投資とは何か（間接投資との違い）、その定義、日本企業の海外直接投資の動向や目的について概観し、その後、典型的な理論についての基本を学びます。	講義の内容を、教科書の第2章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、海外直接投資やその理論に関する理解を深めます。	4時間
第3回 多国籍企業による国際競争の歴史 国際経営の主たる担い手である多国籍企業について、その歴史的な変遷を振り返り学びます。そこでは、米国企業、欧州企業、日本企業による競争環境の変化などを取り上げます。	講義の内容を、教科書の第3章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、日本企業も含む多国籍企業の歴史的な変遷や競争環境の変化に関する理解を深めます。	4時間
第4回 多国籍企業の国際経営の事例 代表的な多国籍企業を例にして、その国際経営の特徴や重要点を学びます。	講義の内容を、教科書の第1-3章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、多国籍企業と国際経営についての理解をより深めます。	4時間
第5回 国際経営のタイプとトランスナショナル経営 国際経営のタイプや、その進んだ形であるトランスナショナル経営とはどのようなものであるか、国際経営で重要なグローバル統合とローカル適応という考え方を学びます。	講義の内容を、教科書の第5章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、国際経営のタイプとトランスナショナル経営や、グローバル統合とローカル適応に関する理解を深めます。	4時間
第6回 海外子会社の経営 海外の子会社を経営する上での重要な課題、子会社の設立の方法・形態、子会社の役割などについて学びます。	講義の内容を、教科書の第6章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、海外の子会社の経営やその設立などに関する理解を深めます。	4時間
第7回 国際マーケティング マーケティングとは何か、国際マーケティングと国内マーケティングの違い、国際マーケティングの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書の第7章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、国際マーケティングの重要点に関する理解を深めます。	4時間
第8回 国際マーケティングの企業事例 前回の授業で学んだ国際マーケティングに関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。	講義の内容を、教科書の第7章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、国際マーケティングについての理解をより深めます。	4時間
第9回 海外生産と国際拠点展開 海外での生産の意義・目的、拠点設立と運営の重要点、国際的な生産ネットワークについて学びます。	講義の内容を、教科書の第8章と講義中の解説内容、参考資料（映像資料や配布資料を含む）で復習し、海外生産の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第10回 海外生産の企業事例 前回の授業で学んだ海外生産に関し典型的な多国籍企業の事例で学びます。	講義の内容を、教科書、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、海外生産についての理解をより深めます。	4時間

第11回	研究開発の国際化	講義の内容を、教科書の第9章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際的な研究開発の重要点に関する理解を深めます。	4時間
	研究開発の国際化とは何か、その動向や目的・動機、どこに進出するのか(立地の選択)、研究開発拠点のマネジメントなどについて学びます。		
第12回	国際的な人的資源管理	講義の内容を、教科書の第10章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、グローバル人材や国際的な人的資源管理の重要点に関する理解を深めます。	4時間
	グローバル人材や国際的な人的資源管理とは何か、企業の国際化と人的資源管理の重要点、駐在員と外国籍社員のマネジメントの重要点について学びます。		
第13回	日本企業の国際経営	講義の内容を、教科書の第12章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本の経営の重要点に関する理解を深めます。	4時間
	日本企業の国際経営の現状と課題、今後の発展に求められる重要事項について、分かりやすい事例も紹介して学びます。		
第14回	本講義のまとめ	本講義の重要点を復習し、講義全般に関する理解を深めます。	4時間
	本講義で取り上げた重要事項について講義全般を振り返ってさらなる理解を深めます。		

授業科目名	国際機関論				
担当教員名	田中翔				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

現代の国際社会では、安全保障や人権、経済、貧困、環境、文化、技術など幅広い政策分野において、国際機関が重要な役割を果たしています。約200年に及ぶ国際機関の歴史には戦争が深く影響してきた側面がある一方、共通の利益や脅威など人々の認識も関わってきました。特に急速かつ広範なグローバル化が進んだ現代においては、国際機関の営みが私たち個人に与える影響を無視することはできません。本授業では、国際機関とは何かを歴史、特徴、役割など様々な視点から学ぶとともに、その活動内容を通して現代の国際社会を考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

国際機関の歴史、特徴、役割、活動内容についての理解

目標：

国際機関はどのような歴史的背景の中で誕生したのか、国際機関にはどのような種類のものがあるのか、国際機関の果たす役割は何か、国際機関の活動内容にはどのようなものがあるのか、重要なキーワードを用いながら自分の言葉で説明できるようになる。

汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取り組み

現代の国際社会におけるテーマについて、自分が興味を持った理由、関連する国際機関の活動内容、そのテーマについての自分の主張を自分の言葉で説明できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。原則として規定以上出席が無ければ評価しない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各授業でのリアクションペーパー	：	毎回の授業終わりに講義内容についてまとめたリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーの内容から、講義の理解度を評価します。
授業内ミニテスト（2回）	：	授業内でミニテストを2回実施し、講義内容の理解度と論述を評価します。
期末レポート	：	期末レポートを1回実施し、講義内容の理解度と論述を評価します。
	30 %	
	40 %	
	30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 山田哲也『国際機構論入門 第2版』（東京大学出版会、2023年）ISBN: 978-4-13-032236-2
 吉村祥子、望月康恵編著『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）ISBN: 978-4-87791-305-2

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の直後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 事前にメールでアポイントメントを取っていただくとスムーズです。
質問はメールでも受け付けます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 イントロダクション：国際機関論とは何か 本講義の目的や進め方、評価方法を説明します。また、国際機関論とは何かについて、学問的な射程範囲と、授業で取り扱う内容の射程範囲を説明します。	国際機関に関連するニュースを各自で調べてみてください。	4時間
第2回 国際政治とは何か：主権国家体制と現代の国際政治 国際機関を理解する上での基礎となる現代の国際政治について「主権国家体制」をキーワードに学びます。	主権国家体制とはどのようなものであり、どのような経緯で生まれたのかについてまとめてください。	4時間
第3回 国際機関の歴史①：戦争と共通利益 国際機関の成り立ちについて、戦争や共通利益の観点から学びます。	国際機関の成り立ちについて、戦争や共通利益の観点からまとめてください。	4時間
第4回 国際機関の歴史②：国際連盟と国際連合 国際連盟の成り立ちと失敗、それを踏まえての国際連合の成り立ちについて歴史的時系列に沿って学ぶとともに、国際連盟と国際連合の何が異なるのかについて学びます。	集団安全保障とは何かについてまとめてください。	4時間
第5回 国際機関の歴史③：冷戦期と冷戦後 冷戦期と冷戦後の国際連合の活動の変化と、その要因となった政治的背景について学びます。	国際連合の活動の観点から、冷戦期と冷戦後の何が異なるのかについてまとめてください。	4時間
第6回 国際連合とは何か：国際連合の組織構造について 国際連合の条約、組織構造、意思決定プロセス、財政といった国際連合の組織論について学びます。	国際連合や関連機関がどのような組織構造で成り立っているのかについてまとめてください。	4時間
第7回 地域機構とは何か：EUとASEANの事例から 欧州統合や東南アジア諸国連合（ASEAN）の事例から、国際連合と地域機構は何か異なるのか、また地域機構の間でも異なる点があることを学びます。	国際連合と地域機構の何が異なるのかについてまとめてください。	4時間
第8回 国際機関とは何か：非国家主体による機関 個人や企業といった、国家ではない構成員によって成り立つ国際機関について学びます。	国家以外の構成員によって成り立つ国際機関の特徴についてまとめてください。	4時間
第9回 国際機関の活動①：紛争 紛争に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	紛争に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第10回 国際機関の活動②：経済 経済に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	経済に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第11回 国際機関の活動③：環境 環境に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	環境に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第12回 国際機関の活動④：難民 難民に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	難民に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第13回 国際機関の活動⑤：観光 観光に関するテーマについて、どの国際機関が、どのように取り組んでいるのかについて学びます。	観光に関するテーマを取り扱う国際機関は何かについて調べ、自分が興味のある論点についてまとめてください。	4時間
第14回 本講義のまとめ 本講義全体を通しての要点をまとめ、本講義を通して学んできた国際機関についての知識や考え方をどのように現代社会を理解する上で活かすことができるのかを考えます。	本講義全体を通しての要点を復習してください。	4時間

授業科目名	ミクロ経済学				
担当教員名	本間哲也				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ミクロ経済学は、経済活動に関わる個々の「登場人物」（たとえば消費者や企業など）に注目し、生産・販売・消費といった行動がなぜ、どのように行われるかを理解しようとする学問である。本科目では、ミクロ経済学の基本的な考え方や分析の方法を学ぶ。それにより、社会を見る「道具」としての「経済学の考え方」を身につけ、その有用性を実感してもらうことを目指す。学んだ内容は今後、日常の消費生活や、社会人として実際のビジネスに携わる際、現状把握や意思決定を助けるであろう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

経営や市場に関わる諸現象を捉え、意思決定する際に有効な、経済学的分析概念の知識を得る。

目標：

消費者行動・経営活動・企業行動・政府の政策の原理やメカニズムを科学的に理解し、説明できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

経済学の考え方や接近方法を自らが関わる具体的場面に援用し、適切な現状理解ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

試験

40 %

課題

40 %

授業への貢献

20 %

評価の基準

： 学習内容の理解、適切な説明ができる文章力。※表面的な用語知識よりも概念やメカニズムの理解を重視する。

： 授業内容の理解、諸事例に対する応用力。※提出資料の体裁や読みやすさも評価の対象。

： 質問・発言などの「参加」状況。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・ N. グレゴリー＝マンキュー 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編(第4版)』 東洋経済新報社, 2019年, ISBN:978-4-492-31519-4
- ・ N. グレゴリー＝マンキュー 『マンキュー入門経済学(第3版)』 東洋経済新報社, 2019年, ISBN:978-4-492-31521-7
- ・ 安藤至大 『ミクロ経済学の第一歩 新版』 有斐閣, 2021年, ISBN:978-4-641-15085-0
- ・ その他必要に応じ適宜示す。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・履修開始前の特段の予備知識は不要。
- ・授業中の発言・質問等の積極的な参加は高く評価する。
- ・本講義で紹介する諸概念・分析フレームワークは、経営戦略論・管理会計・企業財務など、経営学部で開講されるいろいろな科目の基礎になっていることが多い。したがって本科目の履修はこれらの経営学諸科目の理解を深めるのにも役立つであろう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4時限目
場所： 研究室（西館4階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業ガイダンス・経済学の道具立て 講義の目的・内容・授業の進め方・評価方法など 財・サービスの概念、希少性、機会費用など	シラバスを読み直し、内容を確認する。復習用教材等を用い、授業内容（経済学独特の基礎的諸概念）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第2回 経済学とミクロ経済学、消費者の理論(1)：消費と効用 社会科学における「経済学」の位置づけ、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、マンキューの「経済学の十大原理」など 効用、限界効用、需要曲線など	復習用教材等を用い、ミクロ経済学の特徴などを再確認する。次回授業（前回授業の復習部分）で授業内容（消費行動と効用など）を説明できるようにしておく。	4時間
第3回 消費者の理論(2)：需要 消費者余剰、需要曲線のシフト、需要の価格弾力性など	復習用復習用教材等を用い、授業内容（需要関数など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第4回 生産者（企業）の理論 企業とは何か、利潤、供給曲線、生産者余剰など	復習用教材等を用い、授業内容（企業行動の経済学的理解など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第5回 市場均衡と効率性 市場均衡、均衡の安定性、均衡の効率性、厚生経済学の定理	復習用教材等を用い、授業内容（価格メカニズムなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第6回 市場介入と効率性 価格規制、課税や補助金の影響、死荷重の発生など	復習用教材等を用い、授業内容（政府の役割など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第7回 独占と寡占 完全競争と不完全競争、独占利潤など	復習用教材等を用い、授業内容（不完全競争市場の特徴など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第8回 外部性 外部効果、外部効果の内部化、コースの定理など	復習用教材等を用い、授業内容（外部経済／不経済など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第9回 公共財 公共財の概念、政府の役割と限界など	復習用教材等を用い、授業内容（公共財と市場の関係など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第10回 経営と経済学 競争優位、差別化、広告、評判、取引費用、競争政策など	復習用教材等を用い、授業内容（企業の諸活動の経済学的理解など）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第11回 ゲームの理論(1)：非協力標準形ゲーム 非協力ゲームの考え方、標準形ゲームにおけるナッシュ均衡など	復習用教材等を用い、授業内容（ゲーム理論の基礎的枠組みなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第12回 ゲームの理論(2)：展開形ゲーム 展開形ゲーム、ゲーム理論の応用例	復習用教材等を用い、授業内容（逐次手番ゲームなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第13回 不確実性と情報 期待効用とリスク態度、逆選択、モラルハザードなど	復習用教材等を用い、授業内容（不確実性の経済学）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第14回 まとめ 授業の振り返りとまとめ、試験情報	定期試験準備：全14回の授業内容を総復習する。	4時間

授業科目名	欧米地域研究				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、欧米の地域研究を通じて、現代のヨーロッパとアメリカにおける、政治、経済、外交、移民、民族、宗教、言語、思想、文化などを多角的に捉えながら、各地域の経済と多様性、帰属意識等について理解を深めることを目標とする。また、それぞれの国における主要都市を取り上げて、各都市の成立から発展を通じた都市の構成や特徴についても詳解していく。さらに、欧米諸国が現代において抱えている諸課題について議論するとともに、地域の特性を踏まえた今後の可能性についても考察を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	グローバルな視野から地域・文化の知識	欧米が抱える課題に対する取り組みについて理解する
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用		欧米の社会を理解することで多様性を養うことができる
2. DP5. 課題解決に向けての方策の企画・立案		得られた知識や情報の分析から、地域の課題を捉えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席です。
規定回数以上の出席がなければ成績評価の対象になりません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50 %	： 授業内容の正確な把握、ならびに自らの考えを正確かつ簡潔に表現する能力。
小テスト	20 %	： 授業内容とその重要な点の正確な把握。
授業内レポート	30 %	： 授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2020年（ISBN:9784623087785）。
指昭博編『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2012年（ISBN:9784623063765）。
遠藤泰生、小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023年（ISBN:9784623094059）。
その他、関連文献については各回の授業で随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習してください。また授業中の私語は慎んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜：4限

場所： 研究室（西館2階）

備考・注意事項： Google Classroom や Gmail でいつでも連絡してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 欧米地域をどのように学ぶのか 授業の概要と目的について説明します。 欧米各国の地理的境界線を把握します。	世界地図で海外諸国の地理を確認してください	4時間
第2回 第二次世界大戦以降の欧米の発展 欧米における近代市民社会が成立した以降の近現代史を概観します。 欧米の地域に関する先行研究の傾向から、各国が発展してきた過程を理解します。	欧米の近現代史を調べてください	4時間
第3回 欧米の工業 アメリカの代表的な工業都市である、ピッツバーグ（鉄鋼業）、デトロイト（自動車工業）、ヒューストン（宇宙産業）、シリコンバレー（IT産業）の事例を取り上げ、地域が発展した過程を把握します。世界の貿易にどのような影響をもたらしたのかを考えます。	欧米の工業地域を調べてください	4時間
第4回 欧米の農業 ヨーロッパで農業が盛んであるフランス、スペイン、ドイツ、イギリス、イタリアを事例に、地域産業について把握します。地域ごとの持続可能な農業への取り組みについて学びます。	欧米の農業地域を調べてください	4時間
第5回 欧米の地域文化 国家 各国の行政組織を理解します。 欧米地域の地理的特性や文化的特徴を通して地域資源を活かした取り組みを学びます。	欧米の地域文化の特徴を調べてください	4時間
第6回 欧米の民族 欧米の人口変動を捉えるとともに、国籍、民族、移民に関して考えます。 多民族と称される欧米が国家内の住民に、ナショナリズムを通してどのように国民形成を行ったのかを学びます。	欧米の移民についての歴史を調べてください	4時間
第7回 欧米の宗教 欧米では多民族が共存するなか、地域と宗教がどのように関わってきたのかを把握します。 フランスの中学校で起こった「スカーフ事件」の事例について考えます。	世界における宗教を調べてください	4時間
第8回 欧米の言語 欧米の言語政策を通して、地域の帰属意識を考えます。 国語と地域語、あるいは隣接する国の言語との関りを学びます。	欧米にはどのような言語が用いられているのか調べてください	4時間
第9回 欧米の都市 ニューヨーク、ロンドン、パリ、ローマを事例に都市が抱える課題を考えます。 都市機能の確保に向けて、住宅環境や都市交通の取り組みを理解します。	欧米の大都市、地方都市の発展について調べてください	4時間
第10回 イギリスの地域 産業革命以降のイギリス地域の発展を把握します。 イギリスの地域概念にもとづき、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの地域の特徴を学びます。	イギリスの都市について調べてください	4時間
第11回 フランスの地域 20世紀以降のフランス地域の発展を把握します。 フランスの18の地域圏について、それぞれの歴史文化を理解しつつ特徴を学びます。	フランスの都市について調べてください	4時間
第12回 アメリカの都市計画 アメリカの都市システムの形成を概観します。 ニュータウンの計画によって発展した都市やコンパクト・シティの取り組みを進める事例を理解します。	アメリカの都市について調べてください	4時間
第13回 欧米の外交 欧米と世界各国との関係について、姉妹都市を結ぶ地域を取り上げ文化外交を理解します。 姉妹都市間でどのような活動が行われているのか、事例を把握します。	姉妹都市を結ぶ地域を調べましょう	4時間
第14回 まとめ 欧米における課題と対策 第二次世界大戦以降、急速に発展した欧米の地域について、これまでの学びを振り返ります。欧米が抱える課題とその対策を考えます。	欧米の情勢と課題について調べてください	4時間

授業科目名	オーストラリア地域研究				
担当教員名	国枝よしみ				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社を経て同系列のホテル会社で企画・広報・マーケティング、人事等管理職を経験。その後公募により広域自治体で広報、地域戦略等を担当を経験している。(全14回)				

授業概要

本授業は、大学で観光教育が盛んに行われているオーストラリアと日本を比較しながら、国の成り立ちと地理的特徴、社会・経済、教育と言語（文化的多様性に対応した学校教育や先住民教育）、観光政策、大学での観光教育などについて理解を深めることを目標とする。自然に恵まれている反面、災害が多いことも日本と共通している点であり、災害と観光といった視点でも学びを進めていく。日本でも人気のオーストラリアに興味・関心を持って受講して欲しい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

事業別観光経営及び地域・文化の理解を具体的な事例を通して習得する

目標：

国際および観光分野の専門的知識の理解

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP 5. 課題解決に向けての方策の企画・立案

学習を通して地域における課題を発見することができる

課題解決に向けての方策の企画・立案ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業への参加

10 %

プレゼンテーション

30 %

課題

30 %

期末レポート

30 %

評価の基準

： 授業に対する参加度を独自のルーブリックにより評価します。

： プレゼンテーションは独自のルーブリックにより評価します。

： 授業の中で課題に取り組みます。課題は基本的にGoogle classroomに提出します。大学で活用されているルーブリックにより評価します。

： 大学で活用されているルーブリックにより評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

D. ウィーバー, L. ロートン, 国枝よしみ監訳坂井・樫本・デイヴィス翻訳 (2022) 『観光マネジメント』、千倉書房 ISBN-10 : 4805112492 (国際観光特別科目の指定教科書) を参考文献とする

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定の出席回数に満たない場合は成績評価をしないことがありますので気をつけて下さい。積極的に議論に参加、発言することを期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜4時限
 場所： 研究室（西館3階）
 備考・注意事項： 上記の時間以外の場合、アポイントをお願い致します。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オーストラリアと日本 最初は、授業のオリエンテーションを行います。オーストラリアは、南半球に位置する国で、人口は約2,589万人です。国土面積は769万2,024平方キロメートルで、英語が公用語です。同国は、イギリス系移民によって作られ、18世紀頃から移民が移り住みだし、1901年に独立国家となりました。オーストラリアは、自然環境豊かな国で、日本との共通点が多くあります。オーストラリアでは、アウトドアな生活を送る方が多く、日本にインバウンドとして来られる場合、トレッキングやスキーなどスポーツを楽しむ方が多くいます。	事前にオーストラリアの地理を予習しておくこと	4時間
第2回 オーストラリアの地理的特徴 オーストラリアは、世界最小の大陸であり、国土の3分の2が乾燥地帯である砂漠気候が広がっています。また、ゴンドワナ大陸から1億年前に分離し、独自の動植物相を持っています。オーストラリアの地形は、安定陸地で構成されており、西部台地や楕円状地帯が広がっています。また、オーストラリアは、世界最大のサンゴ礁であるグレート・バリアリーフが見られることで知られています。このような多様性をもつオーストラリアの地理を理解します。	先住民について予習しておくこと	4時間
第3回 オーストラリアの社会・経済 オーストラリアは、多文化主義を掲げる国家であり、移民国家として知られています。オーストラリアの歴史は、先住民であるアボリジナルの文化と、イギリスの植民地支配による文化の融合によって形成されました。国内では多様な文化や宗教が共存しており、人々はお互いを尊重し、寛容な社会を築いています。2020年に新型コロナウイルスの影響で約30年ぶりの景気後退を経験しました。しかし、2021年以降は正常化が進み、底堅い成長が期待されています。オーストラリアは、1992年以降28年連続でプラス成長を達成しており、強靱な経済を維持しています。	多文化主義について予習しておくこと	4時間
第4回 オーストラリアの教育と言語政策 オーストラリアの教育制度は、州ごとに異なっており、外国語教育が盛んであることが特徴です。日本語を含めたLOTE (Languages Other Than English) と呼ばれる外国語教育が行われており、日本語学習者は初等教育と中等教育段階に多い特徴があります。また、オーストラリアでは、1987年に「言語に関する国家の政策」が公表され、多文化主義における「多様性」と「統一性」の揺らぎと共存を目指した言語教育政策が推進されています。	オーストラリアと日本の教育の違いについてまとめる	4時間
第5回 先住民教育 オーストラリアの先住民教育には、大きな格差があるとされています。政府は、先住民教育プログラムを改訂するなど、近年大きな変化が見られています。政府の先住民教育プログラムは、学力の向上を目的としたプログラムに重点を置いています。しかし、先住民の文化や自立性に十分に配慮せず、学力向上に重点的な教育の視点がおかれるならば、かつての同化教育を先住民に思い起こさせる危険があることが示唆されています。先住民教育の成功の鍵は、単に学力を向上させるのみではなく、先住民生徒が先住民としてのアイデンティティを確立しながら豊かな学校生活を送ることができるかにあるとされています。	先住民教育について感じたことをまとめる	4時間
第6回 オーストラリアの観光資源 オーストラリアは、美しい自然景観や文化的な観光資源が豊富です。オーストラリアの観光資源の中でも、特に人気があるのは、グレートバリアリーフ、シドニーオペラハウス、ウルル、ブルーマウンテンズなどがあります。また、オーストラリアは、世界的に有名なワイン産地でもあります。南オーストラリア州のパロッサ・バレーやマクラーレン・ヴァレー、西オーストラリア州のマーガレットリバーなどが知られています。	人気の観光地域を予習しておくこと	4時間
第7回 オーストラリアの観光政策（1） 産業の成長を促進するため、オーストラリア政府は、観光業に対する投資を増やすことを決定した。2021年には、オーストラリア政府は、観光業に対して約2億ドルの支援を行いました。この支援は、観光業の復興を促進するために、観光業者に対して資金提供や税制優遇措置を行うことを目的としています。また、オーストラリア政府は、観光業における環境保護にも注力しています。オーストラリア政府は、観光業における環境保護に関する取り組みを強化するため、観光業者に対して環境保護に関するガイドラインを提供しています。	観光政策の特徴をまとめること	4時間
第8回 オーストラリアの観光政策（2）	観光資源の特徴をまとめること	4時間

	<p>オーストラリアは、豊富な自然景観や文化的な観光資源がある。しかし、森林火災や洪水などの自然災害にも見舞われている。2019年から2020年にかけて、オーストラリアは過去最大級の森林火災「ブラック・サマー」に襲われ、多くの野生動物や植物が被害を受けた。また、2021年、オーストラリア政府は、観光業に対して約2億ドルの支援を行っている。この支援は、観光業の復興を促進するために、観光業者に対して資金提供や税制優遇措置を行うことを目的としている。</p>		
第9回	<p>オーストラリアの魅力</p> <p>グループワークでオーストラリアの観光の魅力をまとめる。自然、歴史、文化、食、スポーツ等さまざまな視点から考察し、プレゼンテーションを制作する。</p>	<p>プレゼンテーションで指摘されたところを修正しておく</p>	4時間
第10回	<p>オーストラリアの学校教育</p> <p>オーストラリアの教育制度は、幼児教育（就学前）と初等教育（小学校）、中等教育（高校）、高等教育（大学と登録訓練機関（RTO））があり、学生の約65%が公立学校、約35%が非公立学校で教育を受けている。初等・中等教育では、4歳、5歳、または6歳から15歳、16歳、または17歳の間で義務教育化されている。小学校はプライマリー・スクールと呼ばれ、男女共学で6年生または7年生まで、中等教育機関はセカンダリー・スクールと呼ばれ、中高一貫で12年生までが通う。大学は州立大学が大半で、国立が1校、私立が数校ある程度である。大学は留学生の比率が非常に高く、約25%となっており世界最高水準だ。職業訓練の要素が強いTAFE（州立）やVET（私立）を選択することもできる。</p>	<p>学校教育を日本と比べて違いをまとめておくこと</p>	4時間
第11回	<p>オーストラリアで働く・学ぶ</p> <p>オーストラリアのワーキングホリデーは、若い旅行者が長期休暇を取り、旅をしながら短期雇用で収入を得ることができる、文化交流を目的としたプログラムである。ワーキングホリデービザを取得することで、通常1年間オーストラリアに滞在することができる。費用は、渡航費、語学学校への入学金、授業料、食費、滞在費、などを用意する必要がある。最近は条件が厳しくなっているのに注意が必要である。オーストラリアの大学には、公立大学と私立大学があり、公立大学は、学費が安く、研究に力を入れている大学が多い。私立大学は、学費が高い代わりに、より個性的な教育を提供している大学が多い。</p>	<p>大学教育について興味があった分野と取り上げる</p>	4時間
第12回	<p>日本とオーストラリアの国際関係</p> <p>オーストラリアと日本は、19世紀末に日本からの移民がオーストラリアに渡り、石炭や羊毛の輸入が始まったことから交流が始まった。第二次世界大戦後、両国関係は進展し、貿易や観光、教育といった分野での協力関係が緊密化している。2021年、オーストラリアにとって日本は世界第2位の貿易相手国であり、651億豪ドルの輸出額を記録している。また、オーストラリアは、人口当たりの日本語学習者の数が最も多い国であり、日本からの留学生も多く在籍している。日豪関係は、民主主義や人権、法の支配に対するコミットメントの共有、国際安全保障に対する共通のアプローチに支えられている。</p>	<p>オーストラリアのスポーツを予習しておくこと</p>	4時間
第13回	<p>日本とオーストラリアの文化・スポーツ比較</p> <p>オーストラリアは、6万年以上の歴史と現代的文化が混ざり合う「古くて新しい国」である。古代と最先端の芸術の融合こそが、今日のオーストラリアを、ダイナミックで革新的な社会へと作り上げている。スポーツ文化も深く根づいているのも特徴である。草の根レベルのコミュニティプログラムや、国際舞台で活躍するトップ選手へのサポートからも、国民がスポーツを愛していることがわかる。オーストラリアには様々なルーツ・文化を持つ人々が集まっており、国民をひとつに結びつける上で、スポーツは大きな力を発揮している。</p>	<p>オーストラリアの文化をまとめる</p>	4時間
第14回	<p>日本とオーストラリアの今後とまとめ</p> <p>日本とオーストラリアの間には、実に107もの姉妹州・都市関係（101自治体・6都府県）がある。交流内容は多岐にわたり、市民団の訪問をはじめ、教育、文化、スポーツ、経済など、それぞれの自治体で特色を活かした交流が行われている。地域と交流することによってさらに理解が深まることを考え、最後にまとめを行う。</p>	<p>これまでの振り返りを行うこと</p>	4時間

授業科目名	ホスピタリティと異文理解				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	8回目と12回目の外部講師による特別講座 (ANA総合研究所)				

授業概要

現代社会は「心の時代」と言われている。また、現代の社会において企業が激しい競争の中で勝ち残るためには、他企業との差をつけなければならないが、その差をつけるには、究極的には、模倣しがたいヒューマンウェアの部分しかない。ヒューマンウェアこそが、差別化、差異化を図る基盤であり、このヒューマンウェアがホスピタリティを体現する。本講義では「ホスピタリティ」についての理解を深めると同時に、「ホスピタリティ」についての理解が社会生活上不可欠であること、そしてその活用の重要性について考えていく。さらに、異なる文化背景を持った人々の異文化コミュニケーションの場において、異文化を受容し適切に対応しながら、相互の理解を深めるために必要な知識を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

ホスピタリティの意義・文化の起源、異文化理解

目標：

ホスピタリティに関する理念及び諸理論の習得と異文化を受容し適切に対応しながら、相互の理解を深めるために必要な知識を身に付ける。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

常にホスピタリティや異文化に興味を持ち、様々な媒体を通して収集した資料から、関連業界や異文化理解における課題を検討できる。

2. DP10. 忠恕の心

相手の立場に立って、考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
「試験（小テスト、中間テスト、定期試験）」

成績評価の方法・評価の割合

小レポート・受講態度

20 %

中間テスト

40 %

定期試験（筆記）

40 %

評価の基準

： 教材の理解力、および課題意識について評価する。

： 次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。

： ホスピタリティの基礎知識を用いて自身の意見を述べる。1. ホスピタリティの基礎知識を正しく理解し、2. ホスピタリティの重要性や最高のホスピタリティ実践方法について提案できるのかの観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 服部 勝人 (2004) 『ホスピタリティ・マネジメント入門』丸善株式会社 (ISBN4-621-07441-5)
海老原 靖也 (2005) 『ホスピタリティ入門』大正大学出版会 (ISBN4-924297-32-1)
ホスピタリティ・サービス研究会 (2007) 『事例でわかるホスピタリティ・サービス』日本能率協会マネジメントセンター (ISBN978-4-8207-4479-5)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室（西館2階）
備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス&ホスピタリティの意義、重要性 学習内容や評価方法、受講におけるの注意事項について説明したうえで、ホスピタリティとは何か今の時代なぜホスピタリティが重要なのかについて学びます。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回 ホスピタリティ文化の起源 ホスピタリティ文化の起源、とりわけ西洋におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：共飲共食、ホスピタル、ホスピス）	4時間
第3回 ホスピタリティ文化の起源（東洋・日本） 東洋と日本におけるホスピタリティ文化の起源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：社会的倫理の範疇、もてなす、ご馳走）	4時間
第4回 ホスピタリティとサービスの語源 ホスピタリティとサービスの語源について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピス、セルバス）	4時間
第5回 ホスピタリティとサービスの概念比較 ホスピタリティとサービスの概念について学び、相違点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：双方向、一方通行）	4時間
第6回 東京ホテル戦争1（ホテルのマーケティング） 2002年以降、外資系高級ホテルの多数の東京進出により起こった社会現象「東京ホテル戦争」を取り上げ、その背景や影響などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：旧御三家、新御三家ホテル）	4時間
第7回 今までの授業内容Reviewと中間テスト 今迄の授業内容を振り返り中間テストを実施します。	今までの授業内容を復習しておく。	4時間
第8回 外部講師による特別講座 外部講師をお招きし、ホスピタリティ業界をめぐる現状や課題についてお話を聞きます。	ホスピタリティ産業の動向を調べておく。	4時間
第9回 東京ホテル戦争2（ジョブホップ） 「東京ホテル戦争」がもたらした弊害について学んだ後、ホテルにおけるのヒューマンウェアの重要性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ジョブホップ）	4時間
第10回 東京ホテル戦争3（場所のホスピタリティ、高級ホテルの基準） リゾートホテルの「場所のホスピタリティ」、高級ホテルの基準、社会を感じさせない高級ホテルの特性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：場所のホスピタリティ、高級ホテルの基準）	4時間
第11回 ホスピタリティの本質（相手の器に全てを合わせる、マニュアルには落とし込めない） 相手が考えている一歩先をリードする、相手の器に全てを合わせていく、マニュアルには落とし込めないなどのホスピタリティの本質について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：相手の器、マニュアル）	4時間
第12回 外部講師による特別講座 外部講師をお招きし、ホスピタリティ業界をめぐる現状や課題についてお話を聞きます。	ホスピタリティ産業の動向を調べておく。	4時間
第13回 ホスピタリティ・マネジメントの定義 TQSやインターナルマーケティングなどの理論に基づいた、ホスピタリティ・マネジメントの定義について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：TQS、相互依存型の産業形態）	4時間
第14回 ホスピタリティのある観光を作る 観光に求められるホスピタリティやホスピタリティを育むことの意味、ホスピタリティのある観光実現の指針などについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ホスピタリティを育む教育のポイント、ホスピタリティある人間の育成）	4時間

授業科目名	観光マーケティング論				
担当教員名	金蘭正				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

観光は人々の楽しみに大きく関与するものなので、その期待に応えていくためには、他の一般商品以上にお客様の視点に立ったマーケティングの発想が不可欠であります。本講義では、観光ビジネスではどのようなマーケティングが実践されているのかを理解するために、マーケティングの基本的な理論とケーススタディを中心に学びます。観光客を受け入れる都市や地域は集客のためにどのような取り組みをしているかについても理解してもらいます。本授業は、教員による一方的な講義ではなく、受講者による学習・発表が主になります。発表内容に基づき、教員が補足説明することによって、学習内容の理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

- マーケティングの基礎理論と観光マーケティングの実践方法の理解
- 観光産業のマーケティングに関する知識

目標：

- マーケティングを学ぶ上で必要な理論の理解とそれに対応する観光のケーススタディを通して、実践で発揮する力を身に付ける。
- インターネットや書籍の情報をもとに、観光産業のマーケティングの特徴的な動向を理解できる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
「試験（小テスト、中間テスト、期末テスト）」

成績評価の方法・評価の割合

発表・受講態度

40 %

中間テスト

30 %

定期試験（筆記）

30 %

評価の基準

1. 与えられた課題に対してポイントを適切にまとめ、分かりやすく発表できたのか。2. 毎回実施する小テスト点数の平均。

次の観点から評価する。1. 授業内容をどの程度理解しているか、2. 理解したことをわかりやすく適切に表現できているか。

次の観点から評価する。1. マーケティングの基礎知識を正しく理解、2. 観光マーケティングのケーススタディを通して、集客戦略やリピーター率向上のための取り組みについて自身で考察できるのか。

使用教科書

指定する

著者

森下 晶美編著

タイトル

・ 新版 観光マーケティング入門

出版社

・ 同友館

出版年

・ 2016 年

参考文献等

ホスピタリティ・ビジネス研究会訳 (Philip Kotler 外2人) 『ホスピタリティと観光マーケティング』 東海大学出版部 1997年 (ISBN4486014030)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室（西館2階）
備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス： kim-r@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか
かる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かる目安の時間
第1回 オリエンテーション・マーケティングとは 学習内容や評価方法、受講におけるの注意事項などについて説明したうえで、マーケティング・観光マーケティングとは何かについてQuiz形式で確認します。	事前にシラバスを熟読しておく	4時間
第2回 ホスピタリティと観光のマーケティングについて マーケティングの定義について確認したうえで、ホスピタリティ・ツーリズムのマーケティングの特徴について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：マーケティング・ミックス、4P, 7P）	4時間
第3回 商品購買と人間ニーズの充足 マーケティングは、「お客の思い」を正しく理解するための活動であることを学び、本当のニーズをつかむことが大事であることを学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ニーズ、ウォンツ）	4時間
第4回 購買意思決定のプロセス 商品の購買に至る一連の行動について理論と事例を通して理解します。また、購買に影響を与える消費者の特性について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：AIDMA法則、AISAS理論）	4時間
第5回 お客とはだれなのか。市場細分化、ポジショニング 消費者を“ある尺度”で共通したグループに分類するとの市場細分化についてその理由や基準等について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：セグメンテーション、ターゲット・マーケティング）	4時間
第6回 マーケティング環境分析：SWOT分析 マーケティング環境分析の必要性和ツールとしてのSWOT分析について学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：Strength, Weakness, Opportunity, Threat）	4時間
第7回 マーケティング・リサーチ マーケティング・リサーチの企画・設計の進め方やデータ収集のための尺度・質問文作成における注意点などについて学ぶ。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PDCA、定量的データ、定性的データ）	4時間
第8回 今までの授業内容のReviewと中間テスト 現在までの授業内容をまとめた上で、中間テストを実施します。また、中間テストの解説を実施し、第7回までの授業を総合的に振り返ります。	現在までの授業ノートを取りまとめる	4時間
第9回 プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント手法を理解し、プロダクト・ライフサイクルの概念と観光地のライフサイクルにおける特徴や問題点について確認します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：PPM、プロダクト・ライフサイクル）	4時間
第10回 旅行商品流通チャネル 旅行商品の種類と特徴について理解したうえで、旅行商品の流通チャネルについて理解します。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：パッケージツアー、ホールセール）	4時間
第11回 マーケティングで価格戦略を策定 競争優位の基本戦略を理解し、価格決定方法や競争市場戦略の4つの位置づけについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：スケールメリット、競争市場戦略）	4時間
第12回 ブランドマーケティング ブランド・イメージの定義やブランド構築のプロセスなどについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：ブランド・アイデンティティ、永続性）	4時間
第13回 観光地ブランドと地域づくり 観光地におけるブランド構築や地域づくりにおけるのポイントについて学びます。	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：コンセンサス、ディマーケティング）	4時間
第14回 カスタマー・リレーションシップ・マーケティング	まとめノートの作成（作成のためのキーワード：CRM、データベース・マーケティング）	4時間

CRMの概念やCRMが重視されるようになった背景について理解したうえで、実践事例を通じてその考え方を理解します。

授業科目名	レベニューマネジメント				
担当教員名	島雅則				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。(全14回)				

授業概要

レベニューマネジメントは、1985年にアメリカのエアラインが導入した、需要予測に応じて料金を操作するイールドマネジメント(Yield Management)を原点に、現在ではホテルを始めとするホスピタリティ産業で幅広く採用されている売上の管理手法である。本講義では、具体的に様々な例題やケーススタディに取り組むことにより、レベニューマネジメントが緻密なデータの分析と管理をベースにしながらも、担当責任者(レベニューマネジャー)が自身の幅広い知識や洞察力、経験、直感を適用し戦略的に価格を決定する方法を学ぶ。複雑で様々な要素を整理し、多面的に課題の解決に取り組む力を養うことにより、将来社会人として企業の業績向上に寄与できる人材の基礎を築く。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

ホスピタリティ産業におけるレベニューマネジメントの知識と技術を学ぶ。
レベニューマネジャー業務の基本的知識と具体的なスキルを理解する。

目標：

与えられた増収課題に対して、顧客満足度を維持・向上を図りながら利益重視の方策を提案することができる。
ケーススタディに取り組むことにより、基本的なレベニューマネジャーの実務作業を実践することができる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP 9. 他者との協調・協働

ケーススタディから本質的な課題を発掘し、検討できる。

与えられた課題に関して自身と他者の考えの接点を見出すことにより、チームとしての問題解決策を提案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設ける。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、授業放棄と見なす。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験(筆記)	50 %	基礎知識が習得でき、授業内容が良く理解できていること。記述問題については、論理的文章作成力を評価する。
授業外課題	30 %	取り組み度(課題提出期限遵守を含む)と理解度、論理性について、独自のルーブリックに基づき3段階で評価する。
授業への参加度	20 %	授業やグループワークでの教員、メンバーとのやり取りを科目独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

中谷秀樹訳『レベニュー・マネージメント概論』（流通経済大学出版会, 2016年, ISBN978-4947553690）、佐藤公俊・澤木勝茂著『レベニューマネジメント』（共立出版, 2020年, ISBN978-4320096509）、徳江潤一郎・長谷川恵一・吉岡勉著『数字でとらえるホスピタリティ』（産業能率大学出版部刊, 2014年, ISBN978-4382057074）、国枝よしみ・岡田晃編著『新しい観光学』（千倉書房, 2023年, ISBN978-4805112755）、徳江潤一郎著『ホテル経営概論』（同文館出版, 2019年, ISBN978-4495382629）、菅野誠二著『価格支配力とマーケティング』（クロスメディア・パブリッシング, 2023年, ISBN978-4295408468）、松村大貴著『新しい「価格」の教科書』（ダイヤモンド社, 2021年, ISBN978-4478112939）、その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。また、教科書の代用とする資料は、授業前にコピー、あるいはGoogle Classroom上でデータ配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。業種業界を問わずホスピタリティマインドとサービス産業の経営知識を武器にグローバルに活躍できる人材の要件を明らかにし、その育成の足掛かりとする。また、経営管理には不可欠な計数感覚を身に付けるために、各講義、各グループワークの場で常にデータと数字を意識し、企業の管理会計に必要な基礎知識を修得する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 2・3限目

場所： 島研究室（西館2階）

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。
(shima-m@osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション/その歴史と全体像 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認する。レベニューマネジメントの誕生から現状、そして今後予想される展開について俯瞰し、この仕事が、企業、特にホスピタリティ産業の経営にとって必要不可欠な手法（技術）であることを理解する。	課題動画を視聴し、その時点での自身のレベニューマネジメントについての理解をレポートにまとめ、提出する。	4時間
第2回 ホテルの宿泊部門KPI（重要業績評価指標） 専門のレベニューマネジャーが価格設定と在庫管理を効果的に行う上で必須となる様々な道具とその活用方法を学ぶ。	宿泊部門KPIに関する計算問題に取り組み、提出する。	4時間
第3回 レベニューマネジメントの原理 価格の概念、顧客価値、そして多様な価値観に対応した様々な販売価格を提供することにより企業の売上を最大化するために用いられる階層価格手法を学ぶことにより、レベニューマネジメントの基本的原則を理解する。第4回の授業への橋渡しとして、「ホスピタリティ商品とサービスの販売において、効果的な価格設定と管理に関する特別な知識は必要であるか？」という単純な疑問について考えてみる。	授業で習得したレベニューマネジメントの基本原則に関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間
第4回 企業におけるレベニューマネジャーの役割 レベニューマネジャーの典型的な仕事を学ぶ。その上で、ホスピタリティ産業の特異性がレベニューマネジャーの仕事に特別なものになっていることを理解し、またその業務を拘束する法律的、倫理的な側面についても考える。	授業で習得したレベニューマネジャーの仕事に関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間
第5回 需要予測 正確な需要の予測が宿泊産業のレベニューマネジャーにとって重要であることを理解する。需要予測に用いられる特定ツールを紹介し、それらのツールが作成するデータをどのように分析し、対応するかを学ぶ。	授業で習得した需要予測ツールに関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間
第6回 在庫と価格管理 ホテルのレベニューマネジャーがどの様に販売可能な客室の在庫状況を把握し、それらの客室の販売価格を監視しているかの基本理念を学ぶ。また、ホテルにとって最も大きな問題である、オーバーブッキング（空売り）の収支や法規制、倫理、道徳上の問題の研究についても理解する。	授業で習得したレベニューマネジャーが心得るべき基本理念に関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間
第7回 流通経路管理 予約の流通経路は電子的経路（インターネット）とホテルのセールス担当者が直接顧客に販売する非電子的経路に分けられる。その主な流通経路すべてについての知識を得ること、それらすべての流通経路をいかに使い分け、管理するかを理解すると同時に、売上の最適化のため各々の流通経路を管理する根本的理念を学ぶ。	授業で習得した具体的な流通経路に関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間
第8回 レベニューマネジメントの実績評価	授業で習得したレベニューマネジャーの評価方法に関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間

	<p>ホテルがどのような方法でレベニューマネジャー、あるいはそのチームの業績を評価するかを理解する。第2回で学んだKPI(重要業績評価指標)にくわえて、新たに業界標準の売上実績評価ツールについても紹介し、売上の拡大をいかにして利益の拡大に結び付けていくかという極めて重要な能力をどのように査定するかを学ぶ。</p>		
第9回	<p>ホテルでのレベニューマネジャーの実務(学外講師)</p> <p>学外講師とのコラボレーションによる特別授業。大手シティホテルで長年マーケティング部門やレベニューマネジャーとして携わった講師から、実際の現場での成功や失敗の事例についてお聞きするとともに、IT化が急速に進む現在の、そして今後のレベニューマネジャーに求められるスキルや仕事の在り方についていっしょに考える。 ※本授業は講師のスケジュールの都合で日程が変わることがあります。</p>	学外講師から出された授業外課題について自身の考えをまとめる。	4時間
第10回	<p>料飲部門のレベニューマネジメント</p> <p>料飲関連のレベニューマネジメント専門家がどのような戦略的価格設定を行っているのかを知る。料飲事業にとって原価は販売価格を決定する伝統的な手法であるが、顧客にとって、また同時に売上の最適化にとっては原価以外に様々な要素が重要な影響を及ぼすことを学ぶ。</p>	授業で習得した料飲部門のレベニューマネジメントの特異性に関する練習例題に取り組み提出する。(次回の授業冒頭で解答について解説する)	4時間
第11回	<p>宴会・団体レベニューマネジメント</p> <p>ホテル業の3つのプロフィットセクターの1つである宴会部門のレベニューマネジメントが依然定着していないのは、宿泊と違い対象が複雑であるため、そのアプローチ方法をまったく変える必要があるためである。その要素をわかりやすく整理し、最終ゴールである、“トータル・ホテル・レベニューマネジメント”について理解を深める。</p>	次週のケーススタディⅠのテーマについて読み込む。	4時間
第12回	<p>ケーススタディⅠ(①需要予測、②在庫と価格管理)</p> <p>第5回と第6回授業のテーマに関するケーススタディにグループワークで取り組み、発表する。</p>	次週のケーススタディⅡのテーマについて読み込む。	4時間
第13回	<p>ケーススタディⅡ(③流通経路管理、④RM実績評価)</p> <p>第7回と第8回授業のテーマに関するケーススタディにグループワークで取り組み、発表する。</p>	13回の授業を振り返り、気付きと感想、自身の目標についてレポートにまとめ提出する。	4時間
第14回	<p>まとめと振り返り</p> <p>前回の授業外課題の各自の振り返りに対する講評とコメントを実施する。授業を総括し、定期試験のポイントについて解説する。</p>	シラバスの到達目標に照らして自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習し正しく理解し、定期試験に備える。	4時間

授業科目名	サービス&テクノロジー				
担当教員名	三浦玉緒				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	製造企業で、海外営業業務に従事。海外の大手製造企業向け営業業務を通じ、技術革新に伴う新製品開発にも参画。				

授業概要

本授業は、利便性の広がりに伴って展開されてきた様々なサービスにおける技術的取組みについて理解を深めることを目標とします。インターネットの進展に伴い展開されたさまざまなサービスによって、大量かつ多様な情報がやりとりされたり蓄積されたりしてきました。様々な技術革新が産業構造や一般生活にもたらした影響と変化についても事例をもとに理解を深め、様々なサービスモデルの創成と人々のITスキルの向上が今後の社会をどのように変化させていくのか、E-ビジネスの観点から考察します。

今後も、デジタル革命は社会や世界経済により大きな影響を与えると考えられており、E-ビジネスはさらに進化し、殆どすべての商業に影響を与えるとされています。本授業では、E-ビジネスを形成する技術とビジネスに注目し、E-ビジネスを理解するための枠組みを学びます。また、パソコンよりもスマートフォン、タブレットなどのモバイル機器からインターネットにアクセスするユーザーのほうが多いことから、モバイルE-ビジネスにも注目します。講義を中心に行いますが、Google Classroomを活用することにより、受講生の考えを共有し、フィードバックするアクティブラーニングもとりいれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

インターネット技術とサービス創出に関する知識

目標：

インターネット技術の特徴と新しいサービスビジネスとの関係を理解できる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

インターネット技術の特徴を理解することにより、新しいサービスの創出と課題を検討できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

受講生の人数によっては、グループワークを実施する場合があります。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト	：	授業内容の復習と理解の確認のために、小テストを実施します。提出された解答の素点で評価します。
	50 %	
授業への積極的参加	：	授業内で提示した質問に対するコメントの回数によって評価します。
	25 %	
定期試験（レポート）	：	授業で学んだ概念や考え方をを用いた考察ができていかどうかを評価します。
	25 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

幡鎌博著『eビジネスの教科書』（創成者、2020年、ISBN9784794425683）。
奥谷孝司・岩井琢磨著『世界最先端のマーケティング』（日経BP社、2018年、ISBN9784822255589）。
西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタル・マーケティング』（碩学舎、2021年、ISBN9784502289910）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
状況に応じ、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける。
メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 サービス&テクノロジーの概要 インターネットの技術革新とサービスの関係について、E-ビジネスの観点から学ぶ背景と重要性について理解する。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第2回 E-ビジネスのビジネスモデル E-ビジネスのビジネスモデルを構成する要素と分類を学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第3回 E-ビジネスを支える技術 新しいサービス創出の原動力となる技術の概要について学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第4回 ケーススタディ：Uberの事例 Uberの事例について、これまでの授業で学んだ様々な視点から考察する。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第5回 E-ビジネスの存在感を構築する 新しいサービスの存在感をサイトとアプリで構築するための要因について学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第6回 オンラインの消費者行動 新しいサービスが対象とするインターネット上の消費者行動について学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第7回 E-ビジネスのマーケティング戦略 インターネット技術によって収集されたデータを活用したマーケティング戦略について学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第8回 ケーススタディ：ANAの事例 ANAの事例について、これまでの授業で学んだ様々な視点から考察する。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第9回 ソーシャル、モバイル、ローカルマーケティング ソーシャルネットワークマーケティング、モバイルマーケティング、位置情報ベースのローカルマーケティングについて学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第10回 オンラインの小売とサービス オンラインの小売業とサービス業のビジネスモデルと課題について学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第11回 ケーススタディ：Airbnbの事例 Airbnbの事例について、これまでの授業で学んだ様々な視点から考察する。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第12回 ケーススタディ：tripadvisorの事例 tripadvisorの事例について、これまでの授業で学んだ様々な視点から考察する。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第13回 ソーシャルネットワーク、オークション、ポータル ソーシャルネットワークが形成するコミュニティと新しいサービスについて学ぶ。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間
第14回 ケーススタディ：メルカリの事例 メルカリの事例について、これまでの授業で学んだ様々な視点から考察する。	講義資料は事前に読み、わからない言葉は調べて理解しておく	4時間

授業科目名	国際観光研究特別科目				
担当教員名	国枝よしみ・Jリング				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社を経て系列のホテルで企画・広報・マーケティング等管理職を経験、公募により県庁職員となり広報、地域戦略等を経験し現在に至る。				

授業概要

本授業は、国連の世界観光機関（UNWTO）との連携のもと、国際的な観光政策の動向に関する最新の知見を得ることを目標とする。2003年「観光立国宣言」を契機として観光政策が国づくりの柱として位置づけられ、訪日外客数を飛躍的に増大させることを主要な政策目標として近年大きな成果を上げてきた。しかし、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大により、観光産業は世界的に大きな試練にさらされた。現在急速な回復を遂げているが、これを機に観光の果たす役割をグローバルな視点で捉え国際観光の在り方について考察を深めていく。ケーススタディとして米国の観光資源を例に旅行プラン企画等にグループで取り組む予定である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容：

目標：

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

事業別観光経営及び地域・文化の理解を具体的な事例を通して習得する

国際観光分野の専門的知識の理解

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

学習を通して地域における課題を発見することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

提出物に関して、クラスルームで個別にコメントすることがあります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Presentation

：プレゼンテーションは独自のルーブリックにより評価します。
Presentation will be assessed according to the professor's original rubric.

20 %

課題

：授業の中で課題に取り組みます。課題は基本的にGoogle classroomに提出します。

20 %

小テスト

：簡単なクイズを授業内で行います。The quiz will be provided in order to test students' knowledge about the materials provided in lectures and assessed according to our university's standard rubric

20 %

期末レポート

：期末レポートは独自のルーブリックにより評価します。
Final report will be assessed according to our university standard rubric.

30 %

Active Learning Skills

：週間アクティブラーニングノートやディスカッションサマリについて独自のシラバスにより評価します。Weekly active learning notes, class discussion summaries, active research notes will be assessed by the pr

10 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
国枝・坂井・樫本・デヴィス	・ 観光マネジメント	・ 千倉書房	・ 2022 年

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2023）『新しい観光学』，千倉書房 ISBN:978-4805112755

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定の出席回数に満たない場合は成績評価をしないことがありますので気をつけて下さい。積極的に議論に参加、発言することを期待します。なお、授業外時間にすべき内容を記載していますので、必ず学習しておくこと。Students are required to participate and discuss proactively in every class.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金3限
 場所： 西館3F
 備考・注意事項： 上記は、国枝のオフィスアワー、リング先生はメールで問い合わせてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 観光マネジメント序論 Introduction of Tourism Management ・ ガイダンス ・ 観光学の進化と成熟の過程を知る。 ・ 海外での観光教育と訓練を行う大学、職業教育等を学び、日本と比較する	観光学システムを事前に予習しておくこと	4時間
第2回 観光システム Tourism Systems ・ 観光システムの基本的な構造について知る ・ 観光客についての定義とタイプ ・ 観光システムにおけるの発源地、経由地、目的地を理解する	観光産業の発展と成長を予習しておくこと	4時間
第3回 観光産業の発展と成長 Development and Growth of Tourism Industries ・ 観光の歴史から観光の特徴を理解する ・ 産業革命の果たした役割と戦後の国際観光到着数の増加を学ぶ ・ 観光需要と経済発展を結びつける	オーストラリアの観光の特徴を予習しておくこと	4時間
第4回 観光目的地 Tourism Destinations ・ 観光目的地としての先進国と新興国の相対的な状況を理解する ・ 観光客を引き付ける魅力とは何か、その特徴を見極める ・ 世界の主要な地域の魅力について評価する ・ オーストラリアの観光の特徴を知る	観光商品とは何かを調べておくこと	4時間
第5回 観光商品 Tourism Products ・ 観光名所の4つの主要タイプとサブタイプに分ける ・ 観光産業の主要セクターの基本的な特徴を学ぶ ・ 観光製品の多様化とグローバル化について議論する ・ Presentation preparation and materials introduction ・ Project-based learning.	与えられた観光市場について予習しておくこと	4時間
第6回 観光市場 Tourism Markets ・ 観光客の行動のプロセスを理解する ・ 市場のセグメンテーションの必要性とそれに関する基準を学習する ・ 心理的セグメントにおけるタイプ別特徴を理解する ・ 事前に米国のメイン州のマーケティング戦略を学習しておき、グループで日本人向けの誘致戦略を考察する ・ Presentation preparation/Project-based learning.	予め与えられた観光マーケティングについて予習しておくこと	4時間
第7回 ケーススタディ 観光マーケティング Tourism Marketing ・ サービスマーケティングの特徴と理解する ・ 観光マーケティングの需要、市場の失敗、マーケティングミックスに関して理解する ・ 価格戦略について学習し、観光振興で活用するメディア戦略を考える ・ メイン州への日本人の誘致戦略に関して、英語のフォーマットを活用しプレゼンテーションに落とし込む	プレゼンテーションを完成させ、発表の練習をしておく	4時間
第8回 プレゼンテーション Presentation ・ 各グループでケーススタディのプレゼンテーションを行う ・ 米国からの評価と自分たちの評価を行う ・ プレゼンテーションの振り返りと改善点を話し合う	観光のプラス面とマイナス面を考えておくこと	4時間
第9回 観光における経済への影響 Economic Impact of Tourism ・ 観光に伴うプラスとマイナスの影響を理解する ・ 観光地がマイナスの影響を受けるメカニズムを知る ・ 観光産業に特徴的な需要の変動パターンとそれがもたらす経済の影響を学ぶ	観光の社会・文化に及ぼす影響をを考えておくこと	4時間

第10回	観光の社会文化と環境への影響 Impact of tourism toward social culture and environmnt <ul style="list-style-type: none"> ・観光がもたらす社会的・文化的恩恵を挙げる ・商品化とそのプラスマイナスの影響を説明する ・観光と犯罪の間に存在する関係性について考える ・環境への影響を測る手段としてのエコロジカルフットプリントについて学ぶ 	観光地開発とはどのようなことを予習しておくこと	4時間
第11回	観光地開発と持続可能な観光 Tourism Development and Sustainability <ul style="list-style-type: none"> ・目的地のサイクルという概念を理解する ・観光地サイクルに変化をもたらす要因を理解する ・国家規模で行われる観光開発パターンにどのように適合するかを考える 	持続可能な観光の事例を挙げておくこと	4時間
第12回	持続可能なツーリズム Assessing Global Market Opportunities <ul style="list-style-type: none"> ・マストツーリズムのメカニズムを理解する ・持続可能な観光とはどのようなものを理解して応用できるようになる 	国際観光機関の活動を事前に調べておくこと	4時間
第13回	ケーススタディ : Case Study 世界観光機関の講師より、具体的な事例を解説いただき、持続可能な観光に必要な要素、人材、体制など講義を聞いた後、まとめと自身ができることを考えてレポートにする	ケーススタディのレポートをまとめ提出する	4時間
第14回	観光調査 : Tourism Research <ul style="list-style-type: none"> ・主たるタイプの調査を紹介し、それぞれの重要性を理解します ・一次・二次調査に関する手法について解説します ・調査プロセスの基本的な段階について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのまとめと振り返りを行う 	これまでの振り返りを行うこと	4時間

授業科目名	航空・運輸事業論				
担当教員名	辛川敬				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	40年近く大手航空会社に勤務、グループ会社社長、役員等を歴任。マーケティング、営業、空港、海外等で幅広い実務経験あり（第1～5, 7～14回）。航空会社の経営企画、総合研究所社長等を歴任（第6回）。				

授業概要

航空事業は現在国際的な交通運輸産業の中心的な役割を担い、国際観光のみならず社会インフラとして、極めて重要な役割を果たしている。その航空事業の歴史、発展、背景等から基礎的な知識を持ち、航空ビジネスの現状、課題を理解する。また、経営学の面からも、航空事業戦略を分析し理解する。講義だけでなく、グループワークにより、様々な航空会社の事例からその経営戦略を分析し発表する機会を作り、その能動的な学びを通じ、学生が航空ビジネスにより興味を持つことを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

具体的内容：

航空事業の幅広い領域について、その基本的な役割や内容を理解する。
航空事業の各領域における専門的な業務内容に関する知識を深める。

目標：

講義の情報をもとに、航空事業の各領域が担う内容、相互関連性、必要性、重要性を理解できる。
航空事業の各領域における専門的な業務内容に関する知識を深める。

様々な角度からのアプローチを通じて、航空産業が抱える課題を多面的に発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

航空会社の経営戦略に関するグループ発表において、評価、コメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	:	14回の授業終了後に期末レポートの提出を求める。学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて評価する。	20 %
授業への参加意欲	:	毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて評価する。	40 %
グループワークとプレゼンテーション	:	グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて評価する。	20 %
リアクション・ペーパー	:	毎回の授業の終わりに提出のリアクション・ペーパーで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて評価する。	20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(株) ANA総合研究所	・ 航空産業入門 第2版	・ 東洋経済	・ 2017 年

参考文献等

株式会社ANA総合研究所編集『エアラインオペレーション入門』改訂新版 イカロス出版 2022年 ISBN978-4802211437
井上 泰日子『最新航空事業論』(第3版) 日本評論社 2019年 ISBN978-4535559486

他、随時参考文献等を紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・日々のニュースから、航空事業に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
- ・事例研究のグループワークでは積極的に協働することが求められる。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日4限
場所：	西館4階
備考・注意事項：	メールで質問等も受け付けます。 その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の進め方、航空事業の特徴と他の交通事業との違い 14回の授業の内容、進め方、評価について解説をする。 航空運輸業の特徴を他の運輸業との比較において明らかにする。	教科書を読み、航空輸送について基本的な特徴を理解しておく。	4時間
第2回 航空産業の歴史 航空運輸業の歴史と、それぞれの時代における役割を理解する。	教科書を読み、航空の歴史の全体像をつかんでおく。	4時間
第3回 日本における航空産業の歴史 日本における航空運輸業の歴史と、他国との違いを理解する。 期末のグループ発表についての説明。 (グループワークについての説明、課題提供等)	教科書の日本の歴史に関する箇所をまとめておく。	4時間
第4回 航空会社の経営戦略 (レバニュー・マネジメント) 収益を最大化するレバニュー・マネジメントの仕組みを理解する。	教のレバニュー・マネジメントの項目を読みまとめておく。	4時間
第5回 航空会社の経営戦略 (ネットワーク戦略) 航空会社の路線網における戦略を理解する。	教科書、第2部第8章を読み、航空会社のネットワークの実例からその戦略を理解しておく。	4時間
第6回 外部講師による特別授業 (航空会社の経営戦略について) 航空会社のケーススタディー モデルケースとしてANAを取り上げ、航空事業の歴史、経営戦略の変遷を理解する。 与えられた事前課題について討議する。	ANAについて事前配布資料を読み、まとめておく。 事前提供の課題について自身の意見をまとめておく。	4時間
第7回 航空会社の経営戦略 (マイルージ戦略) 航空会社のマイルージ・プログラム (FFP) が航空会社の経営にどのような影響を及ぼすか理解する。また、その基礎となるデータベースマーケティングを理解する。	教科書を読み、FFPについて理解しておく。	4時間
第8回 航空会社の経営戦略 (ブランド、商品開発) 航空会社のブランド、商品開発戦略について理解を深める。	教科書を読み、ブランド、商品開発について理解をしておく。	4時間
第9回 LCC (格安航空会社) のビジネスモデル LCC (Low Cost Carrier) の経営戦略について理解する。 また、LCCと従来の航空会社(FSC: Full Service Carreir) の経営戦略における違いを明らかにする。	教科書を読み、LCC戦略について理解をしておく。	4時間
第10回 航空貨物について 航空貨物を、ビジネス、オペレーション両面から理解する。	教科書を読み、貨物についての理解をもつ。	4時間
第11回 空港の役割 (旅客サービス、グランドハンドリング等について) 航空事業における空港の役割と空港での主業務である旅客サービスとグランドハンドリングについて理解する。	「エアラインオペレーション入門」を読み、空港の役割の基本を理解しておく。	4時間
第12回 航空機製造産業 航空機製造産業についてその特色、特殊性を理解する。 グループワーク1回目	グループ発表の準備、リハーサルをしておく。	4時間
第13回 グループワーク グループワーク2回目	グループ発表の準備、リハーサルをしておく。	4時間
第14回 グループ発表	グループ発表の準備、リハーサルをしておく。	4時間

授業科目名	MICE&イベント企画論				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年イベントに携わり、イベントの企画・立案および運営マネジメントを担当。一般社団法人日本イベント産業振興協会認定である。(全14回)				

授業概要

本授業では、観光立国戦略の手段であるMICEについて学びます。MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。また、一般社団法人日本イベント産業振興協会認定授業でもあり、イベント企画・提案・制作が出来る基本的なスキルを体系的に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容:	目標:
1. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	イベントとMICE業務の専門知識	イベントとMICE業務の基礎的な企画・提案・制作ができる。
汎用的な力		
1. DP5. 課題解決に向けての方策の企画・立案		企業や組織の課題解決に埋めて、イベントやMICEを使った方策を企画・立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
定期試験(筆記)を必ず受けること。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度・演習	30 %	: 授業態度および演習を独自のルーブリックに基づいて30点満点で評価します。
振り返り	30 %	: 前回授業の振り返り。授業内容を踏まえた必要知識が理解を30点満点で評価します。
定期試験	40 %	: イベントの必要知識を40点満点で評価します。イベント検定試験合格相当の知識があれば40点とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
一般社団法人日本イベント産業振興協会	・ イベント検定公式テキスト 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント	・	・ 2020 年

参考文献等

一般社団法人日本イベント産業振興協会『イベント検定公式テキスト 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント』
ISBN-10:4901173286/ISBN-13:978-4901173285

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・一般社団法人日本イベント産業振興協会「イベント検定公式テキスト 基礎からわかるイベント」を必ず購入してください。このテキストは書店での在庫が少ないため、必ず教科書販売期間にて事前購入してください。
- ・一般社団法人日本イベント産業振興協会認定「イベント検定」試験を必ず受検してください（受験料別途）。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 金曜日3時限（13:10～14:50）
- 場所： 西館4階 松田研究室
- 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス・観光立国とイベント イベントを学ぶ意義について考えます。	観光とイベントの現状について調べておきます。	4時間
第2回 イベントの概念と全体像（1）イベントの定義 イベントの概念と分類	イベントの概念（テキスト第1章第1節）を理解しておきます。	4時間
第3回 イベントの概念と全体像（2）社会の発展とイベント イベントの歴史	イベントの歴史（テキスト第1章第2節）を理解します。	4時間
第4回 イベントの概念と全体像（3）イベントの役割 メディアとしてのイベント	イベントのメディア的価値を理解しておきます。	4時間
第5回 イベントの企画と計画（1）企画の意味と本質 イベントの企画	イベント企画（テキスト第2章第4節）とはなにか理解しておきます。	4時間
第6回 イベントの企画と計画（2）計画の意味と本質 イベントの計画	イベント計画（テキスト第2章第5節）とはなにか理解しておきます。	4時間
第7回 イベントの企画と計画（3）イベント企画の構成要素 イベント企画書とプレゼンテーション	イベントの実際の企画書（配布資料）を調べておきます。	4時間
第8回 イベントの制作推進（1）制作と製作 イベントの制作推進と管理	イベントの制作と管理（テキスト第3章第7節）について調べておきます。	4時間
第9回 イベントの制作推進（2）イベントの4大管理 イベントの会場制作	イベントの会場制作（テキスト第3章第8節）について調べておきます。	4時間
第10回 イベントの制作進行（3）イベントプログラムの概念 イベントのプログラム制作	イベントのプログラム制作（テキスト第3章第9節）について調べておきます。	4時間
第11回 イベントの制作進行（4）告知・集客の考え方 イベントの告知・集客、参加者・来場者・協力者募集	イベントの告知と集客方法（テキスト第3章第10節）を調べておきます。	4時間
第12回 イベントの運営とマネジメント（1）広義の運営と狭義の運営 イベント運営の全体とイベント会場の運営業務	各自イベントに参加して運営の流れについて調べておきます。	4時間
第13回 イベントの運営とマネジメント（2）イベント実施時の運営と会場管理業務 イベント運営業務のポイントおよびリスクマネジメントと安全管理	イベントの運営業務のポイントを調べておきます。	4時間
第14回 イベントの運営とマネジメント（3）ユニバーサルイベント これからのイベントマネジメントで必要とされるユニバーサルの概念と具体的な対応を学ぶ	イベントを自分ならばどう企画運営するか考えておきます。	4時間

授業科目名	ホテル・ブライダル経営論				
担当教員名	島雅則				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテルの運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。(全14回)				

授業概要

サービス産業の中核に位置するホテルの事業経営の両輪であるホスピタリティとマーケティングの本質を学ぶとともに、その特異な経営手法も身に付ける。ホテルとブライダル現場の運営知識の習得にくわえ、様々な事例にケーススタディ形式で触れ学ぶことにより、ホテルとブライダルのマネジメントへの興味と自己啓発意欲を高める。併せてこのビジネスを運営と経営の両視点から理解することにより、業界のグローバル化と生産性向上にマネジメントレベルで取り組める高度経営人材の育成を目指す。また、学修成果の確認のため、厚生労働省所管の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」3級にもチャレンジできるように指導する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

- ホテル・ブライダル業界に関する知識
- ホテル・ブライダル経営に関するケーススタディに取り組み、自らの考えをまとめ記述できる力

目標：

- 厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の3級「学科試験」合格レベルの知識が習得できる。
- 厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の3級「実技試験」合格レベルの知識が習得できる

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP 5. 課題解決に向けての方策の企画・立案

ケーススタディから本質的な課題を発掘し、検討できる。

課題に対して、柔軟な条件設定ができ、具体的な改善、解決策を提示できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設ける。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、授業放棄と見なす。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験(筆記)	:	基礎知識が習得でき、授業内容が良く理解できていること。記述問題については、論理的文章作成力を評価する。
	50 %	
授業外課題	:	取り組み度(課題提出期限遵守を含む)と理解度、論理性について、独自のルーブリックに基づき3段階で評価する。
	30 %	
授業への参加度	:	授業やグループワークでの教員、メンバーとのやり取りを科目独自のルーブリックに基づいて評価する。
	20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『ホテル・マネジメント概論Ⅰ』（一般社団法人宿泊産業マネジメント技能協会, 2023年）、国枝よしみ・岡田晃編著『新しい観光学』（千倉書房, 2023年, ISBN978-4805112755）、徳江潤一郎著『ホテル経営概論』（同文館出版, 2019年, ISBN978-4495382629）、仲谷秀一著『新・総支配人論』（嵯峨野書院, 2006年, ISBN978-4782304273）、田尾佳子著『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』（白桃書房, 2016年, ISBN978-4561266860）、『数字でとらえるホスピタリティ』（産業能率大学出版部刊, 2014年, ISBN978-4382057074）、沼上幹著『プライダル産業～デプレッション下における需要構造分析』（東洋経済新報社, 2017年）、【論文】徳江順一郎『プライダルにおける市場の変化とホスピタリティ』（高崎経済大学論集第54巻第2号, 2011年）、河内山深、石川夕起子『プライダル企業のケーススタディーワタベウエディング株式会社をケースとして』（関西国際大学研究紀要12巻, 2011年）、その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。また、教科書の代用とする資料は、授業前にコピー、あるいはGoogle Classroom上でデータ配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。ホテルやプライダル業界にキャリアを求める学生はもとより、業種業界を問わずホスピタリティマインドとサービス産業の経営知識を武器にグローバルに活躍できる人材の要件を明らかにし、その育成の足掛かりとする。また、経営管理には不可欠な計数感覚を身に付けるために、毎回の授業の冒頭を使い企業の管理会計に必要な基礎知識を学ぶ。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 2限目

場所： 島研究室（西館2階）

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。
(shima-m@osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、ホテル業界は今 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。動画も使いホテル業界の現状と課題を共有し、ホテルマネジメントスキルの修得のための道筋を示す。	授業で視聴した動画に関する課題についてレポートにまとめて提出する。	4時間
第2回 ホテルの歴史と基本知識 ホテルの語源と起源を学び、観光産業を構成する重要な業種の一つであるホテル業の発展の歴史を世界と日本で概観する。基本知識としては、分類の仕方や商品の特性を学ぶ。	世界あるいは日本の主要ホテルチェーン3つを選び、その発祥と発展の経緯並びに特徴についてまとめ、次回の授業の理解に備える。	4時間
第3回 世界と日本のホテルチェーン 現在の主要な世界ホテルチェーンを多面的に分類し、それぞれの生き残りのためのグローバル戦略について考える。あわせて日本の主要ホテルチェーンとその置かれている現状を学び、外資系とのホテル競争をどう乗り切るかを考え、その仮説について議論する。	事前知識として、次回授業のテーマであるKPIについて調べ、レポートにまとめる。（推奨する資料や動画は授業で提示する）	4時間
第4回 組織目標達成のための重要指標（KPI） 客室部門の客室稼働率(Occupancy Rate)や平均客室料金(Average Daily Rate)など、ホテル産業の収入の基本指標を学ぶ。ホテルに限らずどの業界においても、過去の実績と成功のデータはある。ホテル業界も例外ではなく、ホテルのパフォーマンスを分析・評価する際に最も役に立つのがKPI (Key Performance Indicator)データである。	授業で習得した知識に関する練習例題に取り組み提出する。（次回の授業冒頭で解答について解説する）	4時間
第5回 ホテル産業におけるマーケティングの理解 マーケティング戦略の立案においては、顧客に関する側面のみならず、競合について理解を深めなければ自社の競争優位性、そしてその持続性を実現することは難しい。この授業では、ホテルのマーケティングを取り巻く経済やテクノロジーなどの環境、また脅威や戦略地位などの競争環境に関して、市場構造の視点をくわえて解説する。	授業で習得したフレームワーク思考に関する課題に取り組み提出する。（次回授業冒頭のグループワークで理解を共有する）	4時間
第6回 ホテルの経営形態 ホテルの運営方式は大きく独立型とチェーン型に分けられる。現在の主流であるチェーン展開方式である代表的な形態について、それぞれのメリットとデメリットを学び、今後日本のホテルが主要外資系ホテルチェーンと伍してグローバルに展開し、生き残るための条件について考える。	次回の授業で講義いただくホテルのプライダル責任者に対する事前質問事項をまとめてくる。	4時間
第7回 プライダルビジネスの基本（学外講師） ホテルのプライダル部門の責任者にプライダルビジネスの基本と昨今のマーケットの事情について講義いただく。※この第7回授業、並びに関連する第8回は講師のスケジュールにより日程が変わることがあります。	一般的な事業の多角化について関連書籍やネットで調べ基礎知識としてレポートにまとめる。	4時間
第8回 プライダル専業会社の多角化を考える 出生率の低下が少子化を招き、ジミ婚やナシ婚も増える昨今、プライダル業界は厳しい事業経営にさらされている。特にプライダルを専業とする会社を例に、今後の事業（ポートフォリオ）の多角化について考える。	次回の授業で取り上げるクレーム・苦情対応に関する事例問題に取り組み提出する。（次回の授業内で解答について解説する）	4時間

第9回	ホスピタリティ産業のクレーム・苦情対応	<p>今回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。 (キーワードは指定する)</p>	4時間
第10回	ホテル会計と収益管理	<p>今回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。 (キーワードは指定する)</p>	4時間
第11回	ホテル関連の法規	<p>今回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。 (キーワードは指定する)</p>	4時間
第12回	ホテル投資とファイナンス	<p>今回の講義内容の理解を深めるために、授業で学ぶ主要キーワードについて事前に調べまとめる。 (キーワードは指定する)</p>	4時間
第13回	ホテル経営の課題と経営戦略の再構築	<p>1～13回の授業を振り返り、気付きと感想、自身の目標についてレポートにまとめ提出する。</p>	4時間
第14回	授業の振り返りと総括	<p>シラバスの到達目標に照らして自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習し正しく理解し、定期試験に備える。</p>	4時間
	<p>授業外課題の各自の振り返りに対する講評とコメントを実施する。授業を総括し、定期試験のポイント、並びに本授業の目的の一つである、厚生労働省所管の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」3級の受検にあたっての注意点についても確認する。</p>		

授業科目名	旅行業務取扱管理者演習				
担当教員名	松田充史・松野麻里子				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営を担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。				

授業概要

本授業では、観光における唯一の国家試験である旅行業務取扱管理者資格の問題演習を通じて、旅行実務等について体系的に学ぶ。JR・航空・バス・フェリー・宿泊で構成される5分野の運賃・料金の知識、国内観光資源（＝地理）といった旅行会社のみならず、あらゆる観光関連事業者に必要なとされる知識を体系的に学び、観光における唯一の国家試験である「旅行業務取扱管理者資格」を習得することを目標としている。9月上旬に実施される旅行業務取扱管理者試験を受験する学生が履修すること。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容：

目標：

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用 旅行実務への理解

旅行業務取扱管理者資格に関する知識を得ることで、旅行実務の理解を深める。

汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取組み
2. DP 7. 実践の完遂

理解した知識で課題解決できる。

知識を実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。
(出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合成績処理を行わない)
定期試験

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

演習	60 %	：	授業で行う演習を独自のルーブリックに基づいて60点満点で評価します。
定期試験	40 %	：	国内旅行業務取扱管理者資格の必要知識を40点満点で評価します。合格相当の知識があれば40点とします。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

ユーキャン

・ 旅行業務取扱管理者・速習レッスン (国内・総合)

・ 自由国民社 (ユーキャン)

・ 2024 年

参考文献等

必ず使用教科書を購入すること。『旅行業務取扱管理者・速習レッスン (国内・総合)』2024年最新版

『ユーキャン 旅行業務取扱管理者 過去問題集 (国内)』自由国民社 (ユーキャン)

ISBN-10:4426613817/ISBN-13:978-4426613815

『ユーキャン 旅行業務取扱管理者 観光資源 (国内・海外) ポケット問題集&要点まとめ』自由国民社 (ユーキャン)

ISBN-10:4426612896/ISBN-13:978-4426612894

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・必ず使用教科書を購入すること。
 - ・国家試験「旅行業務取扱管理者試験」を必ず受験すること。
 - ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 - ・旅行業務取扱管理者資格試験の科目は広範囲におよび、本授業の学習だけでは不足である。授業外においても自主的かつ積極的に予習・復習を行うこと。
 - ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。
 - ・対面での講義を補足するためにGoogle Classroomを活用する可能性もあり。
 - ・教育研究支援センター「旅行業務取扱管理者試験（国内）対策講座」も併せて受講すること。
- ①5/14 (火) 4限 ②5/21 (火) 4限 ③5/28 (火) 4限 ④6/4 (火) 4限 ⑤6/11 (火) 4限 ⑥6/18 (火) 4限
⑦6/25 (火) 4限 ⑧7/2 (火) 4限 ⑨7/9 (火) 4限 ⑩7/16 (火) 4限 ※模擬試験実施
⑪⑫8/27 (火) 3-4限 ⑬⑭8/28 (水) 3-4限 (予定) 試験概要・公示後に確定します

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3時限 (13:10～14:50)

場所： 西館4階：松田研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と学籍番号を書くこと。

松野講師への質問等はmatsuno-m@g.osaka-seikei.ac.jp へお願いします。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、「運賃・料金」「観光資源(=地理)」の全体像 今後の授業の進め方について、「運賃・料金(JR、航空、バス、フェリー、宿泊)」及び「観光資源(=地理)」の概略を含め、旅行業務取扱管理者試験について理解する。	振り返りシートの作成。JR概要の該当する箇所の通読等。	4時間
第2回 JR運賃・料金(1) JRの概要 JRの概要(運賃と料金の違い、年齢区分等)及び運賃の基本等について学ぶ。	振り返りシートの作成。JR運賃の該当する箇所の通読等。	4時間
第3回 JR運賃・料金(2) JR運賃 運賃の例外、割引(往復、学生、重複)及び発売日、有効期間、途中下車等について学ぶ。	振り返りシートの作成。JR特急料金の該当する箇所の通読等。	4時間
第4回 JR運賃・料金(3) 特急料金 特急料金の基本、新幹線8路線と運行列車に関する知識等について学ぶ。	振り返りシートの作成。新幹線運賃・料金の該当する箇所の通読等。	4時間
第5回 JR運賃・料金(4) 新幹線(その1) 特急料金：新幹線内乗継等について学ぶ。	振り返りシートの作成。新幹線内乗継の該当する箇所の通読等。	4時間
第6回 JR運賃・料金(5) 新幹線(その2) 特急料金：新幹線内乗継等について学ぶ。	振り返りシートの作成。JRグリーン料金の該当する箇所の通読等。	4時間
第7回 JR運賃・料金(6) グリーン料金等 その他の料金(グリーン、寝台、個室)、山形・秋田新幹線等について学ぶ。	振り返りシートの作成。払戻・変更、団体に該当する箇所の通読等。	4時間
第8回 R運賃・料金(7) 払戻・変更、団体 運賃・料金に関する払戻・変更、団体の取り扱い等について学ぶ。	振り返りシートの作成。国内航空に該当する箇所の通読等。	4時間
第9回 国内航空 年齢区分、予約、購入期限、有効期間、運賃概要、取消・払戻等について学ぶ。	振り返りシートの作成。バス、フェリー、宿泊に該当する箇所の通読等。	4時間
第10回 バス、フェリー、宿泊 年齢区分、運賃・料金の詳細、購入期限、有効期間、取消・払戻等について学ぶ。	振り返りシートの作成。北海道、東北地方の予習。	4時間
第11回 国内観光資源(1) 北海道、東北地方	振り返りシートの作成。関東、中部地方の予習。	4時間

	それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。		
第12回	国内観光資源（2）関東、中部地方 それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。中部、近畿、中国地方の予習。	4時間
第13回	国内観光資源（3）中部、近畿、中国地方 それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。四国、九州、沖縄地方の予習。	4時間
第14回	国内観光資源（4）四国、九州、沖縄地方 それぞれの地域の観光地、特に世界遺産に登録されているものを学習する。その他、祭り、名産品、文学作品、民謡などその地域に関連して観光資産になるものを中心に学習する。 特に、半島、岬、湖の正しい位置を把握する。	振り返りシートの作成。学習内容の復習、例題の理解等。	4時間

授業科目名	地域観光マネジメント				
担当教員名	松田充史				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年旅行会社にて着型観光および地域イベントの企画・立案・商品造成および運営マネジメントを担当。また自治体プロモーションなどをおこなってきた。(全14回)				

授業概要

地域経営は経済効果や雇用創出の面から日本の最も重要なテーマの一つです。この授業では地域における政策・制度と企業のビジネスについて学びます。また近年重視される観光について、特に近畿圏のインバウンドの最新事例を取り上げ、その背景にある地域の課題と意義を発見します。また持続可能性について、国や地方自治体だけではなく、民間や地域住民の参加や協働から議論します。そして、一連の講義と事例研究を通し、自ら積極的、主体的に学ぶ力を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地域をマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の面から学ぶ	地域の仕組みを理解できる。
2. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	地域における事業体の環境適応性を理解する	適切に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる力を身につける。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用		地域に関する課題解決に向けて方策を企画・分析・活用できる
2. DP8. 他者とのコミュニケーション		課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、コミュニケーションをとることができる。
3. DP9. 他者との協調・協働		授業に取り組む意欲を持ち続け、積極的にかかわることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。グループワーク・定期試験を受けること。

成績評価の方法・評価の割合

授業での取り組み

評価の基準

： 独自のルーブリックに基づいて、合計60点満点で評価します。

60 %

定期試験

： 試験の素点に基づいて到達度を評価します。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・「観光白書令和5年版」(国土交通省) ISBN-10:4907343264/ISBN-13:978-4907343262
観光庁ホームページからも見ることができます。 <https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・グループワークがあります。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
- ・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日3時限（13:10～14:50）
場所：	西館4階 松田研究室
備考・注意事項：	質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。 アドレス：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 授業の目的と方法について説明をします。前半では地域観光について基本的なことを学び、後半ではグループワークをおこないます。	Google Classroomで振り返りシートをつくる	4時間
第2回 日本における人口減少と高齢化 国内の人口減少・少子高齢化について理解します。そのうえで地方における観光の意義について考えます。	観光における地方の取り組みについて調べておくこと。	4時間
第3回 地方と地域のガバナンス 都市圏と地方圏（三大都市圏と東京一極集中）を理解します。そのうえでインバウンド政策など「観光立国」日本の政策について理解します。	観光組織について調べておくこと。	4時間
第4回 地域観光の組織と主体（ケイパビリティ） 地域観光の組織と主体を理解します。DMOの事例などから理解します。さらに、地域活性化としての観光からケイパビリティの概念など組織の在り方を多角的に理解します。	戦略とは何か調べておくこと。	4時間
第5回 地域観光の戦略（ブランディング） 地域が目的を達成するために必要となる打ち手を観光から考えます。さらにブランディングの概念など多角的に地域観光を理解します。	日本で開催されるイベントについて調べておくこと。	4時間
第6回 地域観光の振興（MICE・イベント） イベントや国際会議などの国家的な取り組みを通して、地域活性化との関連を理解します。	地域観光の閑散期対策やオーバーツーリズムについて調べておくこと。	4時間
第7回 地域観光の課題（閑散期・オーバーツーリズム） 変化の激しい環境下での地域観光の現状を理解します。地域を取り巻く課題と視点を観光から考えます。閑散期やオーバーツーリズムなど多角的に課題を考えます。	調査対象について調べておくこと。	4時間
第8回 大阪の事例調査①（調査対象を選ぶ） 調査の下調べをします。調査の目的、方法を理解したうえで調査対象を選びます。さらに資料をどのように入手するか、資料がどの程度あるかを調べます。	調査内容について調べておくこと。	4時間
第9回 大阪の事例調査②（調査内容を定める） 下調べによってわかったことをふまえて、調査内容を決めます。さらに、観光資源とは何か、資源の発掘から観光資源への開発などの理解を深めます。	フィールドワークの技法について調べておくこと。	4時間
第10回 大阪の事例調査③（フィールドワーク） フィールドワークでの観察をおこないます。より効果的な調査となるように、各グループで個々の役割を主体的かつ積極的に担います。	グループでのフィールドワークの観察内容をまとめておく。	4時間
第11回 大阪の事例調査④（調査） 学生同士の協働による調査を通して、地域観光の現状を理解します。	各自で発表の準備をおこなう	4時間
第12回 発表会（1日目） 地域観光の調査内容をまとめ・発表します。パワーポイントを用いてプレゼンテーションをおこないます。	各自で議論の準備をおこなう	4時間
第13回 発表会（2日目） 発表した内容に対して質疑応答をします。グループで課題解決の方向性を確認します。	議論の準備をしておく。	4時間
第14回 調査内容の分析と議論 調査を全員で振り返ります。本授業でのフレームワークを使い、調査内容を分析し議論したものを可視化します。	Google Classroomでまとめておく	4時間

授業科目名	公園・景観論				
担当教員名	原田弘之・東出加奈子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

授業概要

本授業は、観光コンテンツにおいて伝統的に、また近年のインバウンド増加の中で、自然豊かな国立公園や里地里山の風景、歴史的町並みの風景が注目されている。さらに、都市部においては官民連携により公園自体を魅力化し、商業施設の立地誘導や民間運営により、集客拠点として位置づけ、周辺地域との連携も広がりがつつある。本授業においては、上記のような状況も含めて、公園及び景観について基本的な知識を身に付けることを目的とする。また、公園及び景観に関する具体的な対象を設定し、グループワークによるフィールド調査を行った上で、そのあり方について検討し、プレゼンテーションすることによって、観光振興の観点から、実際の知識や方法論を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

公園・景観に関わる基礎知識とあり方提案の構想力

目標：

公園・景観に関わる基礎知識を学んだ上で、実践演習として公園と景観を対象としたフィールドワークを行い、そのあり方に関して現実的な提案ができる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

事前に調査し、現場のフィールドワークを行い、それらの分析・考察によるあり方提案と発表により、あらゆる分野に必要な調査・分析・提案力を身に付けることができる。

学外連携学修

有り(連携先：奈良県内の自治体及び兵庫県内の自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

ワークシート・受講態度	15 %	：	講義におけるワークシートの提出状況や内容、授業態度で評価します。
グループワークへの参加態度	70 %	：	グループワークにより現場演習を2セット行いますが、その事前調査、現場での対応、事後のまとめ、発表における態度や内容を評価します。
期末テスト	15 %	：	講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 原田：木曜2限 東出：水曜3限
 場所： 原田・東出とも西館2階個人研究室
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。アドレスは、授業で伝えます。メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、観光における公園及び景観の概念や重要性について説明し、先進事例等を参照し、公園及び景観の今後のあり方イメージについて理解を深めます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回 観光における公園論 インバウンドから関心の高く、日本の美しい風景を保全している国立公園があります。またおもに都市圏の公園で官民連携により商業機能などの立地や民間による運営により、公園自体の集客性が高まり、周辺地域と連携した魅力づくり、活性化が進められています。これらのおもに2つの公園について、制度や仕組みについて学ぶとともに、事例を通して、活用について理解を深めます。	観光における公園論に関するワークシートの作成・提出	4時間
第3回 観光における景観論 インバウンドから関心の高い里山風景や伝統的建造物群保全地区などの歴史的町並みなどの美しい風景の保全について、その制度や保全の仕組みについて学びます。また事例を通して、景観保全の取組や活用について理解を深めます。	観光における景観論に関するワークシートの作成・提出	4時間
第4回 現場リサーチ（景観保全編）・事前調査と準備 授業の5回分を使って、景観保全を対象とした現場リサーチの演習を、奈良県内の自治体と連携し実施します。数名のグループを形成し、グループワークの形で進めます。この回では、事前準備として、その景観保全方策等に関する情報収集と整理を踏まえて、現場リサーチを想定して、そのために必要な観察シートの作成やヒアリングシートの作成などを行い、現場リサーチの準備を行います。	事前調査と準備に関するワークシートの作成・提出	4時間
第5回 現場リサーチ（景観保全編）・現地調査 第4回を踏まえて、第5回と第6回の2回分の授業時間を使い、対象となる景観保全の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。 第4回を踏まえて、第5回と第6回の2回分の授業時間を使い、対象となる景観保全の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。	現地調査に関するワークシートの作成・提出	4時間
第7回 現場リサーチ（景観保全編）・分析と考察 第5回と第6回の2回分で行った現場リサーチの結果をまとめるとともに、分析・考察を行い、発表資料を作成します。	分析と考察に関するワークシートの作成・提出	4時間
第8回 現場リサーチ（景観保全編）・発表と意見交換 第7回に作成したプレゼン資料をもとに、各グループによる発表を行い、現場リサーチのあり方について全員で意見交換を行います。	発表評価シートの作成・提出	4時間
第9回 現場リサーチ（公園活用編）・事前調査と準備 授業の5回分を使って、公園活用を対象とした現場リサーチの演習を、兵庫県内の自治体と連携し実施します。数名のグループを形成し、グループワークの形で進めます。この回では、事前準備として、その公園活用等に関する情報収集と整理を踏まえて、現場リサーチを想定して、そのために必要な観察シートの作成やヒアリングシートの作成などを行い、現場リサーチの準備を行います。	事前調査と準備に関するワークシートの作成・提出	4時間
第10回 現場リサーチ（公園活用編）・現地調査 第9回を踏まえて、第10回と第11回の2回分の授業時間を使い、対象となる観光施設等の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。 第9回を踏まえて、第10回と第11回の2回分の授業時間を使い、対象となる観光施設等の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。	現地調査に関するワークシートの作成・提出	4時間
第12回 現場リサーチ（公園活用編）・分析と考察 第10回と第11回の2回分で行った現場リサーチの結果をまとめるとともに、分析・考察を行い、発表資料を作成します。	分析と考察に関するワークシートの作成・提出	4時間
第13回 現場リサーチ（公園活用編）・発表と意見交換	発表評価シートの作成・提出	4時間

	第12回に作成したプレゼン資料をもとに、各グループによる発表を行い、現場リサーチのあり方について全員で意見交換を行います。		
第14回	まとめとふりかえり 講義及び現場リサーチの実践をふりかえり、フィールドリサーチの要点について再度確認し、今後の実践に向けた課題についてみんなで共有します。	講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

授業科目名	観光まちづくり論				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	2・3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

授業概要

観光まちづくりとは「観光」×「まちづくり」で、住んでよし、訪れてよしのまちづくりのことです。観光客が特定の観光地のみを訪ねるだけではなく、例えば、まちにある人気のレストランで食事をしたり、ショップを訪ねたり、住民による観光ガイドにまちを案内してもらうなど、観光客がまちに直接ふれることにより、ご当地の事業者や住民にとっても誇りが持て、メリットのある観光で、近年広がっています。この授業では、公園などの公共施設の魅力化、まちごとミュージアム、地域分散型宿泊施設、道の駅、農業との連携、農泊、ワーケーション、地域芸術祭などテーマを設定した上で、事例等について学び、観光まちづくりの実態と効果、今後の課題や方向性について一緒に考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

観光まちづくりの考え方や多様な事例や展開

目標：

観光まちづくりの考え方を学び、全国の多様な角度からの事例を知ることにより、観光や地域を深く捉え、活用や展開について考える力を身につけることができる。

2. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解

観光まちづくりの事例における事業創出と運営ノウハウ

観光まちづくりの事例を学び、分析することにより、関連産業や事業の創出や運営の方法について学ぶことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

個人ワークとグループワークを通して、観光まちづくりの事例を調査・分析することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

ふりかえりシート・受講態度

評価の基準

： 前半は毎回ふりかえりシートを提出してもらい、その提出状況と、通期の受講態度で評価します。

40 %

グループワーク

： 後半のグループワークに対する取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。

40 %

期末テスト

： 講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著(2022)『新しい観光学』千倉書房、ISBN978-4-8051-1275-5
 NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西等編 (2016)『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社、ISBN978-4-7615-2635-1
 国土交通省『観光白書』（最新版）※webにも掲載

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 個人研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 講義全体の概要と進め方、評価等について説明します。 観光まちづくりの現れた背景や経緯、観光やまちづくりとの違いを踏まえた定義や意義等について考えます。 現状及び今後の社会情勢や観光を取り巻く状況を踏まえて、これからの観光まちづくりの求められる方向性について考えます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回 「魅力的な公共施設」と観光まちづくり まちなかにある公園や博物館・美術館、スポーツ施設などの公共施設は、もとは市民の憩いの場や教育・健康等を増進するための施設でしたが、近年、建物等の外観もかっこよく、内外の居心地もよく、飲食や物販等の機能も持つ、いわば観光的な施設としても変身してきました。それにより、公共施設への集客数が増え、さらには周辺のまちにもお客さんが流れるなど波及効果も見られる場合があります。こうした取組について事例を中心に学び、魅力的な公共施設と観光まちづくりが現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方について考えます。	魅力的な公共施設と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第3回 「まちまるごとミュージアム」と観光まちづくり まちなかにあるごく普通の自然、歴史・文化、建物、お店など多様な資源を訪問スポットとして捉え、まち全体を観光フィールドと考えた「エコミュージアム」「まちなか博物館」などの考え方があります。それにより、まちのイメージアップや交流人口の増加、来訪者のみならず地域住民の参加や誇りの向上などを目的とする典型的な観光まちづくりです。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	まちまるごとミュージアムと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第4回 「地域イベント」と観光まちづくり まちなかにある数多くのレストランやカフェなどが参加し、ある一日を設定して、来訪者は5枚つづりのチケットを持ち、参加店舗の中から5軒を選んで各お店を訪ね、それぞれで1ドリンク、1フードを楽しむ。それが典型的な「まちなかバル」と呼ばれるイベントです。来訪者は普段は利用しないお店に入り、新しいシェフやメニューとできること、一方、お店側は来訪者にPRし、新しいお客さん獲得の可能性がある観光まちづくりの一種です。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	地域イベントと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第5回 「地域分散型宿泊施設」と観光まちづくり ホテルや旅館など宿泊施設は1つの建物の中で完結しているのが一般的ですが、近年、泊まるのはまちなかの空き家にある部屋、夕食は地域で人気のある居酒屋、お風呂は銭湯、朝食は近くの喫茶店でモーニングを食べるなど、あたかも地域住民として暮らすように「地域分散型宿泊施設」の取組が現れてきました。イタリア発祥で日本でも取組が進みつつある観光まちづくりの一種です。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	地域分散型宿泊施設と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第6回 「道の駅」と観光まちづくり 道の駅とはもともと道路利用者が休憩や道路情報を入手することを中心に1993年から設置され始めましたが、現在は地域農産物直売所や加工品の開発・物販店、レストラン、観光案内コーナー、公園など付加価値機能の部分が重視され、全国で1,000か所以上設置されています。来訪者が立ち寄り、地域住民も農産物等を出品したり、買い物などに利用する、まさに観光まちづくりや地域活性化の拠点となっています。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	道の駅と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第7回 「農業」と観光まちづくり 農業が関係する観光は高度成長期以来さまざまなものがあります。みかんやぶどうなどの味覚狩りなどの観光農園、都市農村交流による農村活性化をねらったグリーンツーリズムという名のもとに農村における貸農園や直売所、宿泊施設等の整備、6次産業化などです。またアフターコロナの時代には改めて、安全な食や農産物、地産地消、エンカール消費などが注目され農家と消費者（市民）が直接つながる動きもあります。それらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。	農業と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第8回 「農泊」と観光まちづくり	農泊と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

	<p>小学校や中学校の修学旅行で農家に泊まり、農作業体験や郷土料理の調理や試食体験、地元の人との交流や地域の魅力資源への案内付き訪問などをする体験プログラムが特に2000年代から広がってきました。そして現在は子どもの教育旅行だけでなく、大人やインバウンド客もターゲットとして含めた「農泊」という取組として全国で進められています。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、動向や変化、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>		
第9回	<p>「ワーケーション」と観光まちづくり</p> <p>「ワーケーション」とはWork(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語で、テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすことで、コロナ禍で注目を集めた新しい旅行スタイルの1つです。企業側にとっては、普段とは異なる就業環境による、仕事の質の向上や有給休暇の取得促進、従業員にとってはリフレッシュ効果や長期休暇の取得、受け入れ地域にとっては、平日旅行需要の創出、関係人口の増加、遊休施設等の有効活用などのメリットがあるとされ、近年、取り組む企業や自治体も増えつつあります。その取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	ワーケーションと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第10回	<p>「地域芸術祭」と観光まちづくり</p> <p>日本中で開催されている「地域芸術祭」のバイオニアで、かつ世界最大級の国際芸術祭として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」があります。これは新潟県の越後妻有地域で2000年から始まり、3年に1度開催されています。豊かな四季が巡る里山で1年を通して約200点の作品を楽しめるだけでなく、季節ごとに企画展やイベント、ツアーを開催しており、アート作品や旧小学校での食事や宿泊もできます。地域に内在するさまざまな価値をアートを媒介として掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域再生の道筋を築くことを目指しています。また、同様の地域芸術祭として「瀬戸内国際芸術祭」があります。こちらは瀬戸内海の島々が舞台であり、来訪者は船で島々を巡ります。これらはまさに過疎地域における観光まちづくりの実験とも言えます。これらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	地域芸術祭と観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第11回	<p>「ローカル鉄道やバス」と観光まちづくり</p> <p>人口減少やマイカー普及による利用者減少に加え、特に、近年のコロナ禍を受けて、地方における鉄道やバスなどの公共交通の経営は非常に厳しくなっています。そうした問題を、地域の通勤通学や観光利用などを含む沿線自治体にとっての重要な地域課題として捉え、さまざまな対応策が実施されています。観光列車の運行や名物駅長の配置や発信、地域と連携した駅空間の活用、人とモノの両方を載せるバス便の工夫、イベントバスとしての改良などです。これらの取組事例を題材に、現れた経緯や意義、現状及び課題、今後のあり方等について考えます。</p>	ローカル鉄道やバスと観光に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第12回	<p>観光まちづくりに関する意見交換（ワールドカフェ）</p> <p>11回までの授業をふりかえり、印象に残った、関心のあるテーマを選び、その理由と今後の展開方向やアイデアについて個人ワークとして考えた上で、ワールドカフェ方式で、複数人との間で共有、意見交換し、他人からの気づきを得るとともに、自分の考えを深めるきっかけとします。次回までの課題として、観光まちづくりに関する気づきと提案に関するスライドを作成します。</p>	観光まちづくりに関する気づきと提案に関するスライド作成	4時間
第13回	<p>発表会（前半）</p> <p>12回のワークを踏まえ、各自が作成したスライドに基づき、観光まちづくりに関する気づきと提案に関して、各自、発表を行います。自分の発表だけでなく、他の発表者に対するコメントと評価シートも作成し、相互作用的に理解を深めます。</p>	自分と他グループの発表に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第14回	<p>発表会（後半）とまとめ</p> <p>13回に引き続き発表会を行うとともに、発表会と講義全体に関わるふりかえりを行います。</p>	自分と他グループの発表及び講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

授業科目名	ツーリズム研究1				
担当教員名	原田弘之・東出加奈子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

授業概要

本授業は、ツーリズムの際の情報収集源の一つである地域の「観光案内所」や「観光協会」の取り組みについて理解を深めることを目標とする。ツーリズムは、地域における特色すなわち地域資源を活かし、地域主体の企画によって成立・展開、発展する。一方、地域を訪れる人々の志向に関わる時代・文化的背景や社会・経済的要因によって規定される。ツーリズムを推進する地域の抱える問題や課題と、参加する観光客の目的、満足度など、迎える側と訪問する側の双方の立場から考察を深めていく。そのため、観光協会や観光案内所の現地調査を行い、その内容をまとめたプレゼンテーションによって学修を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容：

目標：

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

ツーリズムの業務に関する知識

事前学修をもとに、現地調査によるツーリズム誘致の取り組みを理解する

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

事前学修と現地調査から観光産業における業界の課題が検討できる

学外連携学修

有り(連携先：自治体の観光協会ならびに観光案内所)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席です。
規定回数以上の出席がなければ成績評価の対象になりません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題提出

： 授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解

30 %

グループワークへの参加態度

： 現地調査への積極的な参加とプレゼンテーションに向けた取り組み

50 %

期末テスト

： 授業内容の把握、ならびに理解度の確認

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

関連文献については各回の授業で随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 原田：木曜2限 東出：水曜3限

場所： 原田・東出とも西館2階個人研究室

備考・注意事項： Google Classroom や Gmailでいつでも連絡してください。
メールには必ず科目名、学籍番号、氏名をお知らせください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ツーリズム研究1をどのように学ぶのか 授業の概要と目的について説明します。 授業の進め方を確認し、具体的な現地調査について共有します。	事前にシラバスを確認しておいてください	4時間
第2回	ツーリズムにおける観光協会 観光協会業務の位置づけや機能、役割、具体的な業務について学修します。 自治体、地域の観光関連事業者等と連携しながら観光産業の発信拠点であることを理解します。	観光協会について調べましょう	4時間
第3回	ツーリズムにおける観光案内所 地域の観光情報を提供する観光案内所の主な仕事を把握します。 観光案内所を訪れる国内外のお客さまにツーリズムを楽しむための情報を案内する、さまざまな業務を理解します。	観光案内所について調べましょう	4時間
第4回	観光協会・観光案内所の事例収集 個人ワークで具体的な観光協会や観光案内所の事例を取り上げ、実際の活動を調べます。 グループで調べた内容を発表しあうことで、複数の事例を学びます。	身近な観光協会・観光案内所を訪問しましょう	4時間
第5回	現地調査に向けて情報収集 次回の現地調査に向けて、訪問先の観光協会と観光案内所の概要を調べます。 情報収集した内容をまとめます。	現地調査先の情報収集をしてください	4時間
第6回	現地調査（観光協会） 観光協会を訪問し、業務や取り組みについて調査します。 地域の観光産業と連携してどのような活動を行っているのか把握します。	現地の調査内容をまとめましょう	4時間
第7回	現地調査（観光案内所） 観光案内所を訪問し、業務や取り組みについて調査します。 地域の観光産業と連携してどのような活動を行っているのか把握します。	現地の調査内容をまとめましょう	4時間
第8回	現地調査による資料整理 個人ワークで現地調査をまとめます。 グループで相互発表を行い、調査内容をブラッシュアップします。	まとめた現地の調査内容に加筆・修正をしましょう	4時間
第9回	現地調査による分析 現地で疑問に思ったことを情報収集により調査・分析を行います。 ツーリズムで地域を訪れたお客さまのニーズに対して取り組んでいることを分析します。	ツーリズム関連の図書を読んでください	4時間
第10回	現地調査による課題 現地調査によって地域が抱える課題を見いだします。 ほかの地域が取り組む事例を調べ、参考となる提案を考えます。	事例を調べてまとめてください	4時間
第11回	プレゼンテーション準備 事前学修と現地調査をふまえて、グループでの発表に向けてpptを作成します。 地域のツーリズムに向けて取り組んでいること、課題などをまとめます。	pptを作成してください	4時間
第12回	プレゼンテーション①相互ディスカッション 各グループで発表をします。 聴衆者による質疑応答を行い、受講生で相互評価をします。	他のグループから学んだことをまとめましょう	4時間
第13回	プレゼンテーション②質疑応答 前回に続いて、各グループで発表をします。 聴衆者による質疑応答を行い、受講生で相互評価をします。	相互評価から学んだことをまとめましょう	4時間
第14回	まとめ ツーリズムにおける現状と課題 授業ならびに現地調査の振り返りです。 観光協会、観光案内所の業務や取り組みを確認し、今後の課題について考えます。	授業の振り返りをまとめてください	4時間

授業科目名	フィールドリサーチ				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

授業概要

本授業は、観光における研究手法の主要なものであるフィールドリサーチについて、その手法を身につけることを目標とする。フィールドリサーチとは、フィールドに密着し、参与観察・ヒアリングなどの技法を使いながら一次データを集め、調査対象に対して考察する研究方法である。履修者はまず基本的な研究方法・態度を理解した上で、実際にフィールドリサーチに繰り出して、定性的な情報を集め、得られた諸データから分析・討論を繰り返しながら、新たな発見をめざす技術と態度を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	フィールドリサーチの基礎知識と実践力	フィールドリサーチの知識と方法を学んだ上で、実践演習としてフィールドワークを行い、リサーチの具体的な方法について身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用		現場を観察し、関係する人の話を聞くことにより、また、それらを記録し、分析・考察し、発表することで、あらゆる分野に必要な現場観察・対応のノウハウを身につけることができる。
2. DP 5. 課題解決に向けての方策の企画・立案		現場観察やヒアリング、記録、その分析・考察を踏まえた上で、発見された課題についてその解決のための方策について企画提案する。
3. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取組み		自ら考えた課題解決のための方策について、自ら主体的に関わり、解決に向けて動く。
4. DP10. 忠恕の心		フィールド調査は現場関係者やステークホルダーとの関りが前提となる。その中で、相手のことを想像し、自分の役割について認識を深める。

学外連携学修

有り(連携先：大阪府内の自治体)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

ワークシート・受講態度	評価の基準
15 %	： 講義におけるワークシートの提出状況や内容、授業態度で評価します。
70 %	： フィールドリサーチの演習をグループワークとして2セット行いますが、その事前調査、現場での対応、事後のまとめ、発表における態度や内容を評価します。
15 %	： 講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜2限

場所： 個人研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後も答えますが、メールでも対応します。
アドレスは、授業で伝えます。
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、フィールドリサーチの概念や必要性について説明し、事例等を参照し、フィールドリサーチの実践イメージについて理解を深めます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回	現場観察の方法論 フィールドリサーチの1つの柱は、現場に赴いて、その状況を客観的に観察し、記録することです。その事前の準備や、現場での観察する視点や対応、記録の方法、事後のまとめや分析・考察等について、具体的な方法論について学びます。 現場観察のための観察シートの作成、観察マップの作成、カメラや録音機器など、その対象に応じて必要なツールについても学びます。	現場観察の方法論に関するワークシートの作成・提出	4時間
第3回	ヒアリングの方法論 フィールドリサーチのもう1つの柱は、現場に赴いて、関係者や来訪者等に聞き取り等を行うヒアリング調査です。その事前の準備や現場での対応、記録の方法、事後のまとめや分析・考察等について、具体的な方法論について学びます。 ヒアリングに必要なヒアリングシートの作成、録音機器など、その対象に応じて必要なツールについても学びます。	ヒアリングの方法論に関するワークシートの作成・提出	4時間
第4回	現場リサーチ（イベント編）・事前調査と準備 授業の5回分を使って、イベントを対象とした現場リサーチの演習を行います。 大阪府内の自治体と連携し、観光イベントや地域の行事等を対象とします。 数名の人数のグループを形成し、グループワークの形で進めます。 この回では、事前準備として、そのイベント等に関する情報収集と整理を踏まえて、現場リサーチを想定して、そのために必要な観察シートの作成やヒアリングシートの作成などを行い、現場リサーチの準備を行います。	事前調査と準備に関するワークシートの作成・提出	4時間
第5回	現場リサーチ（イベント編）・現地調査 第4回を踏まえて、第5回と第6回の2回分の授業時間を使い、対象となるイベントの現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。 第4回を踏まえて、第5回と第6回の2回分の授業時間を使い、対象となるイベントの現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。	現地調査に関するワークシートの作成・提出	4時間
第7回	現場リサーチ（イベント編）・分析と考察 第5回と第6回の2回分で行った現場リサーチの結果をまとめるとともに、分析・考察を行い、発表資料を作成します。	分析と考察に関するワークシートの作成・提出	4時間
第8回	現場リサーチ（イベント編）・発表と意見交換 第7回に作成したプレゼン資料をもとに、各グループによる発表を行い、現場リサーチのあり方について全員で意見交換を行います。	発表評価シートの作成・提出	4時間
第9回	現場リサーチ（施設編）・事前調査と準備 授業の5回分を使って、イベントを対象とした現場リサーチの演習を行います。 大阪府内の自治体と連携し、観光施設やまちなかを対象とします。 数名の人数のグループを形成し、グループワークの形で進めます。 この回では、事前準備として、そのイベント等に関する情報収集と整理を踏まえて、現場リサーチを想定して、そのために必要な観察シートの作成やヒアリングシートの作成などを行い、現場リサーチの準備を行います。	事前調査と準備に関するワークシートの作成・提出	4時間
第10回	現場リサーチ（施設編）・現地調査	現地調査に関するワークシートの作成・提出	4時間

	第9回を踏まえて、第10回と第11回の2回分の授業時間を使い、対象となる観光施設等の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。		
	第9回を踏まえて、第10回と第11回の2回分の授業時間を使い、対象となる観光施設等の現場リサーチ（現場観察とヒアリング調査）を行います。		
第12回	現場リサーチ（施設編）・分析と考察 第10回と第11回の2回分で行った現場リサーチの結果をまとめるとともに、分析・考察を行い、発表資料を作成します。	分析と考察に関するワークシートの作成・提出	4時間
第13回	現場リサーチ（施設編）・発表と意見交換 第12回に作成したプレゼン資料をもとに、各グループによる発表を行い、現場リサーチのあり方について全員で意見交換を行います。	発表評価シートの作成・提出	4時間
第14回	まとめとふりかえり 講義及び現場リサーチの実践をふりかえり、フィールドリサーチの要点について再度確認し、今後の実践に向けた課題についてみんなで共有します。	講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間

授業科目名	国際経営戦略論				
担当教員名	平賀富一				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手損保企業にて国際事業戦略・海外でのM&A等、外務省にて政府開発援助（ODA）、調査機関（シンクタンク）にて各国の政治経済分析、格付会社にて各国・大手企業の格付等、本授業に関連する各種業務を担当（全14回）。				

授業概要

現代においては、企業活動が国境を越えさらにグローバルな視点から経営と事業活動を行い成果を挙げることが、多くの企業の重要な経営の目標や課題として重要性を増しています。本講義は、企業活動のグローバル化に関する企業経営のあり方について、国際経営、特に戦略に関する知識・理論を学び、最新の動向やトレンドにも焦点を当てて重要点を解説し、国際経営および戦略に関する理解を深めます。国際経営や戦略の知識は、海外市場での企業活動だけでなく、国内で海外からの顧客をターゲットとするホテル等観光関連の企業、日本市場で活動する外資系企業や、外国人幹部や社員が活躍する日本企業の活動にも大きな関わりがあります。講義の中では、具体的な企業の事例や最新の動向等を分かりやすく解説するとともに質疑応答を行います。教室での対面授業を基本にしますが、知識・情報の理解の定着、充実した内容のビデオ教材の視聴などに有効なオンデマンド授業を月1回程度併用する予定です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

国際経営戦略に関連する基本的な事項・知識・理論を理解する。
国際経営戦略に関連する重要事項・知識・理論を理解する。

目標：

国際経営戦略に関連する基本的な事項・知識・理論について説明できる。
国際経営戦略に関する重要事項・知識・理論について理解し課題の解決案の検討に応用できる

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

国際経営戦略に関わる重要な課題を、文献・情報収集・分析・応用により発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

授業方法はクラスの規模等により適宜変更する。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。特別な事情のある場合を除き、全授業回数の過半数以上の出席（オンライン授業は、リアクションペーパーの提出を出席とみなします）がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。積極的な発言等授業への貢献は歓迎しその内容に応じて加点評価します。私語・居眠り等授業態度に問題ある場合は都度注意しますが、改善が見られない場合はイエローカードを渡し警告、次いでレッドカードを渡し減点対象とします。特に授業の進行と、周囲の受講者の迷惑行為となる私語・携帯電話の通話には厳しく対応します。リアクションペーパーの提出期限は原則として毎回の授業後1週間とし、それ以降の提出は各回1点減点となります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小レポート（リアクションペーパー、毎回）	：	授業内容を踏まえた記述であれば1点とし、そこに「論理性」と「簡潔性」を備えていれば2点とします。また、授業内容に関係のない記述や極端に少ない記述の場合は0点とします。
30 %		
テキスト各章の発表	：	テキストの各章を分担し、単独で発表いただきます。満点を10点で評価、発表なしの場合は0点です。
10 %		
期末試験	：	国際経営に関する重要事項を問う問題を出題し、その理解度と、的確な記述や説明ができていないかを基準にして評価します。
60 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大木清弘	・ コア・テキスト国際経営 ISBN978-4-88384-266-7	・ 新世社	・ 2017 年

参考文献等

吉原秀樹 (2021) 『国際経営 [第5版]』有斐閣アルマ ISBN: 978-4641221727
 梶浦雅己編著 (2014) 『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス (改訂新版)』文眞堂 ISBN: 978-4-8309-4810-7
 江夏健一・太田正孝・藤井健 (2013) 『シリーズ国際ビジネス 1 国際ビジネス入門<第2版>』中央経済社
 ISBN: 978-4502480102

その他は適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習（課題の解答案の作成を含む、以下同じ）をすること。本講義の内容を深く理解する上で、国際的な企業の活動、それに関連する国際政治・経済・社会などの動きに関心を持つことが重要です。新聞・雑誌・テレビやインターネット等の記事・ニュースに注目するように心がけてください。Google Classroomの本講義の項で、授業の情報・資料を掲示し、毎回のリアクションペーパーや課題等の掲示・提出を行います。その他は第1回目の授業で説明します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限
 場所： 西館3階44研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス、国際経営とは何か 国際経営とはどのようなものかについて、国際経営が日常化している状況や、国際経営の難しさ、企業が国際経営を行う理由などについて学びます。	教科書の第1章を読んで、国際経営に関するイメージや興味、知りたい点などをまとめて授業に臨んでください。	4時間
第2回 海外直接投資の理論 海外直接投資とは何か（間接投資との違い）、その定義、日本企業の海外直接投資の動向や目的について概観し、その後、典型的な理論についての基本を学びます。	講義の内容を、教科書の第2章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外直接投資やその理論に関する理解を深めます。	4時間
第3回 多国籍企業による国際競争の歴史 国際経営の主たる担い手である多国籍企業について、その歴史的な変遷を振り返り学びます。そこでは、米国企業、欧州企業、日本企業による競争環境の変化などを取り上げます。	講義の内容を、教科書の第3章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本企業も含む多国籍企業の歴史的な変遷や競争環境の変化に関する理解を深めます。	4時間
第4回 多国籍企業の国際経営の事例 代表的な多国籍企業を例にして、その国際経営の特徴や重要点を学びます。	講義の内容を、教科書の第1-3章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し多国籍企業と国際経営についての理解をより深めます。	4時間
第5回 国際経営のタイプとトランスナショナル経営 国際経営のタイプや、その進んだ形であるトランスナショナル経営とはどのようなものであるか、国際経営で重要なグローバル統合とローカル適応という考え方を学びます。	講義の内容を、教科書の第5章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際経営のタイプとトランスナショナル経営や、グローバル統合とローカル適応に関する理解を深めます。	4時間
第6回 海外子会社の経営 海外の子会社を経営する上での重要な課題、子会社の設立の方法・形態、子会社の役割などについて学びます。	講義の内容を、教科書の第6章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外の子会社の経営やその設立などに関する理解を深めます。	4時間
第7回 国際マーケティング マーケティングとは何か、国際マーケティングと国内マーケティングの違い、国際マーケティングの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書の第7章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際マーケティングの重要点に関する理解を深めます。	4時間
第8回 国際マーケティングの企業事例 前回の授業で学んだ国際マーケティングに関し典型的な多国籍企業の事例でより深く学びます。	講義の内容を、教科書の第7章、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、国際マーケティングについての理解をより深めます。	4時間
第9回 海外生産と国際拠点展開 海外での生産の意義・目的、拠点設立と運営の重要点、国際的な生産ネットワークについて学びます。	講義の内容を、教科書の第8章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、海外生産の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第10回 海外生産の企業事例	講義の内容を、教科書、参考資料、インターネット等での企業情報の検索などで復習し、海外生産についての理解をより深めます。	4時間

	前回の授業で学んだ海外生産に関し典型的な多国籍企業の事例で学びます。		
第11回	研究開発の国際化 研究開発の国際化とは何か、その動向や目的・動機、どこに進出するのか（立地の選択）、研究開発拠点のマネジメントなどについて学びます。	講義の内容を、教科書の第9章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、国際的な研究開発の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第12回	国際的な人的資源管理 グローバル人材や国際人的資源管理とは何か、企業の国際化と人的資源管理の重要点、駐在員と外国籍社員のマネジメントの重要点について学びます。	講義の内容を、教科書の第10章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、グローバル人材や国際人的資源管理の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第13回	日本企業の国際経営 日本企業の国際経営の現状と課題、今後の発展に求められる重要事項について、分かりやすい事例も紹介して学びます。	講義の内容を、教科書の第12章と講義中の解説内容、参考資料(映像資料や配布資料を含む)で復習し、日本的経営の重要点に関する理解を深めます。	4時間
第14回	本講義のまとめ 本講義で取り上げた重要事項について講義全般を振り返ってさらなる理解を深めます。	本講義の重要点を復習し、講義全般に関する理解を深めます。	4時間

授業科目名	ビジネスモデルマネジメント				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

身の回りのビジネスの仕組みを取り上げ、新しいビジネスを構築する方法や組織を改善、変革する方法を学習する。ビジネスモデルとは、顧客満足を目的として、技術やノウハウを利益に変換する仕組みのことである。本講義では、「ビジネスモデルキャンパス」という枠組みを用いた擬似的な新事業の提案を通じて、ビジネスモデル構築の要点を包括的に理解する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

ビジネスモデルに関する知識の応用

目標：

企業のビジネスモデルの現況を説明できる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験	50 %	：	講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20 %	：	課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10 %	：	講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20 %	：	コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

使用教科書

指定する

著者

根来龍之・富樫佳織・足代訓史

タイトル

・ この一冊で全部わかる ビジネスモ

出版社

・ SBクリエイティブ株式会社

出版年

・ 2020 年

デルー基本・成功パターン・作り
方が一気に学べる

参考文献等

アレックス・オスター・ワルダー&イヴ・ビニュール (2012) 『ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデルの設計書』翔泳社. ISBN 9784798122977
味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編 (2017) 『【改訂版】業種把握読本―時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社. ISBN 9784904192719

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3限

場所： 研究室

備考・注意事項：

- ・上記以外の場合、申し出て下さい。
- ・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。
- ・講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか かる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かる目安の時間
<p>第1回 イントロダクション 講義の進め方の説明とビジネスモデルマネジメントを学ぶ意義</p> <p>本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「ビジネスモデルマネジメント」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学におけるビジネスモデルの位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。</p>	<p>【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】ビジネスモデルマネジメントの講義概要を確認すること。</p>	4時間
<p>第2回 ビジネスモデルのマネジメント (1) ビジネスシステムの工夫</p> <p>新しい製品の市場を開拓し拡大すると同時に、収益を安定的に確保するための仕組みづくりを行う事業化活動において重要になる「ビジネスモデル」のマネジメントについて、「ビジネスシステムの工夫」という切り口から解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第1章について読んでおくこと。【復習】第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第3回 ビジネスモデルのマネジメント (2) 収益システムの工夫</p> <p>新しい製品の市場を開拓し拡大すると同時に、収益を安定的に確保するための仕組みづくりを行う事業化活動において重要になる「ビジネスモデル」のマネジメントについて、「収益システムの工夫」という切り口から解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第1章について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第4回 外部経営環境分析と内部経営環境分析</p> <p>企業を取り巻く市場環境ならびに経営環境を分析するフレームワークと自社の内部およびパートナー企業を分析するためのフレームワークを解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第5回 ビジネスモデルキャンパスの全体像 ビジネスモデルジェネレーション</p> <p>ビジネスモデルを記述、分析、デザインするために、戦略的思考を視覚化するツールとして①顧客セグメント、②価値提案、③チャネル、④顧客との関係、⑤収益の流れ、⑥リソース、⑧パートナー、⑨コスト構造という9つの構築ブロックから構成される「ビジネスモデルキャンパス」の全体像を学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第6回 ビジネスモデル・ジェネレーション (1) 顧客セグメント</p> <p>企業に関わろうとする顧客グループについて定義する方法を学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第3章について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第7回 ビジネスモデル・ジェネレーション (2) 価値提案</p> <p>特定の顧客セグメントに向けて、価値を生み出す製品とサービスについて記述する考え方を学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第3章について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第8回 ビジネスモデル・ジェネレーション (3) チャネル</p> <p>顧客セグメントとどのようにコミュニケーションを図り、価値を届けるのかという販売チャネルについて考える。</p>	<p>【予習】教科書の第4章について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第9回 ビジネスモデル・ジェネレーション (4) 顧客との関係</p> <p>企業が特定の顧客セグメントに対してどのような種類の関係を結ぶのかということについて考えて学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第4章について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第10回 ビジネスモデル・ジェネレーション (5) 収益の流れ</p> <p>収益の流れを生み出すための方法について学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第5章について読んでおくこと。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間

第11回	<p>ビジネスモデル・ジェネレーション (6) リソース</p> <p>ビジネスモデルの実行に必要な経営資源を導き出すための思考法について解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第5章について読んでおくこと。 【復習】第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第12回	<p>ビジネスモデル・ジェネレーション (7) 主要活動</p> <p>企業がビジネスモデルを実行する上で必ず行わなければならない活動の記述方法について学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第6章について読んでおくこと。 【復習】第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第13回	<p>ビジネスモデル・ジェネレーション (8) パートナー、コスト構造</p> <p>ビジネスモデルを構築するサプライヤーとパートナーのネットワークについて記述する方法を学習する。さらに、ビジネスモデルを運営するにあたって発生するコストを記述するための方法を学ぶ。</p>	<p>【予習】教科書の第7章と第8章について読んでおくこと。 【復習】第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第14回	<p>まとめ ビジネスモデルマネジメントの展望</p> <p>これまでの講義で学習した内容を振り返り、ビジネスモデルマネジメントを学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、ビジネスモデル構築の理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらい、自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。</p>	<p>講義内容について見直しをすること。</p>	4時間

授業科目名	国際貿易論				
担当教員名	本間哲也				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

グローバル化の進展により近年ますます高まる国際貿易の重要性を認識し、貿易に関する基礎的な理論、貿易政策や制度、各国の動向などを検討し、貿易がなぜ、どのように行われるのかについて理解を深めることを目標とする。また、貿易を行うことで生じる利益は何か、どのような貿易パターンが国家間で生じるのかについても考察していく。国際貿易論における理論と実証をバランスよく学ぶことに主眼を置き、授業を展開する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

国際貿易の諸側面を理解するための、科学的分析の枠組や概念の知識を得る。

目標：

国際貿易をビジネスおよび政治の視点から科学的に理解し、説明できる。具体的事例を挙げ、説明できる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

授業で取り上げた分析概念を、自らが関わる具体的場面に当てはめ、適切な現状理解ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

期末試験

40 %

期中課題

40 %

授業への貢献

20 %

評価の基準

： 学習内容の理解、適切な説明ができる文章力。
※表面的な用語知識よりも概念やメカニズムの理解を重視する。

： 授業内容の理解、諸事例に対する応用力。
※提出資料の体裁や読みやすさも評価の対象。

： 質問・発言などの「参加」状況。
授業中の各種ワークへの取組みの積極性。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じ適宜紹介・指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・履修開始前の特段の予備知識は不要。履修中は、貿易・国際ビジネス関連の報道に積極的に触れること。
- ・授業中の発言・質問等の積極的な参加は高く評価する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3時限目
場所： 研究室（西館4階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の概要と目的、国際貿易の基礎知識 講義の目的・内容・授業の進め方・評価方法など 国際貿易の概念整理、貿易の利点など	シラバスを読み直し、内容を確認する。復習用4時間 教材等を用い、授業内容（経済学独特の基礎的諸概念）を次回授業時に説明できるようにしておく	4時間
第2回 リカードモデルと比較生産費説 古典的な理論における、国際貿易や分業の利点、比較優位の考え方など	復習用教材を用い、授業内容（リカードモデルに基づいた貿易の利点など）を説明できるようにしておく。	4時間
第3回 ヘクシャー・オリーモデルと要素比率の理論 絶対優位の概念と、生産要素の賦存比率の違いがもたらす貿易パターンの違いなど	復習用教材を用い、授業内容（ヘクシャー・オリーモデルに基づいた貿易の利点など）を説明できるようにしておく。	4時間
第4回 貿易の利益と貿易政策の効果 貿易政策の目的と効果（貿易の促進・抑制等） 自由貿易と保護貿易など	復習用教材を用い、授業内容（各種貿易政策の内容と狙いなど）を説明できるようにしておく。	4時間
第5回 関税と補助金の分析 関税・補助金など、経済的インセンティブを通じた貿易政策の手段など	復習用教材を用い、授業内容（関税政策の効果や目的など）を説明できるようにしておく。	4時間
第6回 非関税障壁と貿易の自由化 非関税障壁の概念と例、世界的な貿易自由化の流れなど	復習用教材を用い、授業内容（非関税障壁の内容や貿易自由化の原則と例外など）を説明できるようにしておく。	4時間
第7回 貿易政策の政治経済学 貿易政策の決定過程、特に、国内政治や外交における、利害関係者からの圧力など	復習用教材を用い、授業内容（貿易政策決定の政治プロセスなど）を説明できるようにしておく。	4時間
第8回 不完全競争と産業内貿易 不完全競争や差別化の概念、産業内貿易と産業間貿易との比較など	復習用教材を用い、授業内容（産業内貿易が行われる背景など）を説明できるようにしておく。	4時間
第9回 多国籍企業と外国直接投資 企業活動の国際化、特に直接投資の目的と効果、国際経営の歴史など	復習用教材を用い、授業内容（企業の国際的事業展開の類型と目的など）を説明できるようにしておく。	4時間
第10回 経済統合と地域貿易協定 世界の一体化・グローバル化の歴史と現状、貿易の自由化と地域主義など	復習用教材を用い、授業内容（グローバル化や地域主義の背景と事例など）を説明できるようにしておく。	4時間
第11回 国際貿易の発展効果と不平等 産業革命以降の植民地経済、世界システム、南北問題など	復習用教材を用い、授業内容（国際的な格差の歴史的背景や現状など）を説明できるようにしておく。	4時間
第12回 国際貿易の環境問題と持続可能性 南北問題を背景とした地球環境問題、および開発政策上の諸課題など	復習用教材を用い、授業内容（地球規模の環境問題の背景と実情、対策など）を説明できるようにしておく。	4時間
第13回 国際貿易の制度と組織 国際的な貿易秩序の意義、IMF-GATT-WTO体制、国連やOECDの活動など	復習用教材を用い、授業内容（貿易をめぐる国際秩序、特にWTOや国連の役割など）を説明できるようにしておく。	4時間
第14回 授業のまとめと総括 学期を通じた内容の振り返り、期末試験情報など	期末試験の準備、全14回の授業内容の総復習	4時間

授業科目名	開発経済学				
担当教員名	本間哲也				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

マクロ経済学の基礎を修得し、その知識に基づいて、一国や世界の経済発展のプロセスや課題を理解・認識することを目標とする。具体的には、前半で国民所得・経済成長・経済政策などの経済原論的な考え方を身につける。そして後半で、国内・国際の経済格差の歴史と現状、格差をもたらすメカニズム、そしてその解消をめざした政策および国際協力を学ぶ。これらにより、国際人としての適切な現状理解と意思決定に必要な素養を得ることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

国民経済・国際社会に関わる諸現象を捉える際に有効な、経済学的分析概念の知識を得る。

目標：

国民経済・国際経済・政府や中央銀行の政策、等のメカニズムを科学的に理解し、説明できる。、具体的事例を理解し、また説明できる。選挙等の政治参加で適切な判断ができる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

経済学の考え方や接近方法を自らが関わる具体的場面に援用し、適切な現状理解ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験	40 %	： 学習内容の理解、適切な説明ができる文章力。 ※表面的な用語知識よりも概念やメカニズムの理解を重視する。
期中課題	40 %	： 授業内容の理解、諸事例に対する応用力。 ※提出資料の体裁や読みやすさも評価の対象。
授業への貢献	20 %	： 質問・発言、各種ワークへの取り組み姿勢などの「参加」状況。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じ適宜紹介・指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことで、その回の授業の内容を

丁寧に復習すること。また、次回の授業に向けて予習をすること。

- ・履修開始前の特段の予備知識は不要。
- ・「ミクロ経済学」履修者は是非、本科目も履修して、ひと通りの「経済学」を身につけることが望ましい。もちろん「ミクロ」未修者の履修も歓迎。
- ・授業中の発言・質問等の積極的な参加は高く評価する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4時限目
場所： 研究室（西館4階）

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業ガイダンス・国民経済計算 講義の目的・内容・授業の進め方・評価方法など 社会科学における「経済学」の位置づけ、マクロ経済学の 研究対象、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、マンキュー の「経済学の十大原理」など 「開発経済学」の研究対象と政策的な意義など 国民経済計算体系の諸指標、GDPなど	シラバスを読み直し、内容を確認する。復習用教材等を用い、授業内容（経済学の枠組み、開発経済学の関心対象、GDPの定義、意義と限界などなど）を次回授業時に説明できるようにしておく。	4時間
第2回 GDP・物価・景気 GDPの経済指標としての意義と限界など 物価、インフレ・デフレ、名目値と実質値など	復習用教材等を用い、授業内容（GDPの限界、インフレ・デフレの原因や影響、実質値計算の方法など）を説明できるようにしておく。	4時間
第3回 国民所得の決定 45度線分析、乗数効果など	復習用教材等を用い、授業内容（均衡GDPの意味、計算など）を説明できるようにしておく。	4時間
第4回 消費・貯蓄・投資 消費と貯蓄、投資の決定、IS曲線など	復習用教材等を用い、授業内容（IS曲線の導出など）を説明できるようにしておく。	4時間
第5回 貨幣と金融 貨幣の役割、信用創造など 貨幣の需要・供給、LM曲線など	復習用教材等を用い、授業内容（貨幣の性質、金融の特徴、LM曲線の導出など）を説明できるようにしておく。	4時間
第6回 経済安定化政策 IS-LM分析、財政政策、金融政策	復習用教材等を用い、授業内容（IS-LMモデルによる経済政策の説明など）を説明できるようにしておく。	4時間
第7回 財政 政府の役割、財政収支、国債など	復習用教材等を用い、授業内容（財政の理論や現状・課題など）を説明できるようにしておく。	4時間
第8回 経済成長 経済成長の原動力、成長理論 成長と豊かさの関係など	復習用教材等を用い、授業内容（経済成長のメカニズムなど）を説明できるようにしておく。	4時間
第9回 国際経済 国際収支、外国為替など	復習用教材等を用い、授業内容（国際取引の影響、為替レートの決定など）を説明できるようにしておく。	4時間
第10回 貧困と不平等 貧困および格差の定義・指標など 国家間の格差、南北問題など	復習用教材等を用い、授業内容（貧困や格差の発生メカニズムなど）を説明できるようにしておく。	4時間
第11回 経済発展 開発途上国の経済発展プロセス、開発上の「罫」など	復習用教材等を用い、授業内容（経済発展のしくみや課題など）を説明できるようにしておく。	4時間
第12回 開発と政治 開発途上国の「民主化」と経済発展、「開発独裁」など	復習用教材等を用い、授業内容（開発における政治の役割など）を説明できるようにしておく。	4時間
第13回 経済協力 ODA、国際機関および民間セクターの役割など	復習用教材等を用い、授業内容（経済協力の体制など）を説明できるようにしておく。	4時間
第14回 まとめ 全授業回の総復習とまとめ、試験情報など	学期を通じた授業内容の総復習。期末試験の準備。	4時間

授業科目名	財務諸表論				
担当教員名	笠岡恵理子				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

財務会計は、株主、投資家、債権者等の企業外部の利害関係者に対し、経営成績や財政状態を報告することを目的とした会計である。本講義では、財務諸表の作成にあたり、企業が遵守すべきルールである会計基準について理解を深めていく。主として、財務会計の機能と制度、財務諸表における利益計算、企業会計原則の一般原則、および個々の会計項目における会計処理について学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

貸借対照表および損益計算書の分析方法に関する知識
貸借対照表および損益計算書項目における会計処理の知識

目標：

企業における財政状態や経営成績について、データを通して分析し、判断できるようになる。
財務諸表を構成する個別の会計項目における会計処理を理解する。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

企業の財務諸表を見て、その内容の分析および問題点の発見ができる。

与えられた課題の内容を把握した上で、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

成績評価の方法・評価の割合

小テスト

評価の基準

： 授業中に行う小テストにより内容理解の確認を行う。

30 %

課題の提出

： 学習内容を理解し、課題の発見ができてきているかを確認する。

30 %

期末テスト

： 授業内容の理解度を評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

桜井久勝『財務会計講義 第24版』中央経済社、2023年（ISBN：978-4-502-46061-6）。
伊東邦雄『新・現代会計入門 第5版』日本経済新聞出版、2022年（ISBN：978-4-532-13525-6）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限目
場所： 個人研究室（西館2F）
備考・注意事項： 質問はメールでも受け付けます。
メールアドレスは第1回目の授業時に連絡します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションおよび財務会計の機能 講義の進め方に関する説明 財務会計の利害調整機能と情報提供機能 財務会計の法規制	配布資料（財務会計の機能）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第2回 貸借対照表と損益計算書 貸借対照表と損益計算書における会計項目	配布資料（貸借対照表と損益計算書）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第3回 利益計算の仕組み 企業活動と財務諸表 複式簿記の構造	配布資料（利益計算の仕組み）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第4回 会計基準 会計基準の必要性 会計基準の設定 企業会計原則の一般原則	配布資料（会計基準）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第5回 利益測定の基礎概念 現金主義会計と発生主義会計 発生主義会計の基本原則	配布資料（利益測定の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第6回 資産評価の基礎概念 資産評価の基準（取得原価、取替原価、純実現可能価額、割引現在価値）	配布資料（資産評価の基礎概念）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第7回 現金預金と有価証券 現金および預金 有価証券とは 有価証券の範囲と区分 有価証券の取得原価 有価証券の期末評価	配布資料（現金預金と有価証券）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第8回 売上高と売上債権 収益認識に関する会計基準 売上債権（売掛金、受取手形、貸倒引当金）	配布資料（売上高と売上債権）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第9回 棚卸資産と売上原価 棚卸資産の範囲と区分 棚卸資産の取得原価 棚卸資産の原価配分 棚卸資産の期末評価	配布資料（棚卸資産と売上原価）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第10回 有形固定資産と減価償却 固定資産の範囲と区分（有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産） 有形固定資産の取得原価 減価償却 固定資産の期末評価	配布資料（有形固定資産と減価償却）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第11回 無形固定資産 知的財産と研究開発 無形固定資産とは 無形固定資産の取得原価 無形固定資産の償却 繰延資産	配布資料（無形固定資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第12回 負債 負債の範囲と区分 引当金 流動負債 固定負債 偶発債務	配布資料（負債）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第13回 株主資本と純資産 純資産の構成 払込資本——資本金と資本剰余金 稼得資本——留保利益	配布資料（株主資本と純資産）の復習と次回講義内容の資料の予習	4時間
第14回 まとめ	授業で配布した問題の見直し	4時間

授業科目名	イノベーション&商品開発				
担当教員名	西釜義勝				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

経営資源は、ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（金銭的資源）・情報（情報資源）の4つの要素から主に構成されている。イノベーションマネジメントとは、顧客価値に見合った新たな製品やサービスを提供することで社会に価値をもたらす革新を実現するために、効果的かつ効率的に、経営資源を動員、駆動、結合させる主体的な活動である。本講義では、イノベーションマネジメントの基本的な考え方と仕組みを学習する。多くの事例を示すことで、受講生が理論と実践を統合した複眼的視点を構築できることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

具体的内容：

イノベーションマネジメントに関する知識の応用

目標：

企業のイノベーションマネジメントの現況を説明できる。

企業活動での現象を総合的に理解し考察するための事実の見方を修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験	50 %	：	講義内容の理解度を評価する。
課題レポート	20 %	：	課題内容の理解と自らの考えを論理的に説明できているかという観点から評価する。
小テスト	10 %	：	講義内容の理解度を評価する。
授業への参加意欲	20 %	：	コメントカードの内容などをもとに能動的姿勢を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
長内厚・水野由香里・中本龍市・鈴木信貴	・イノベーション・マネジメント	・中央経済社	・2021年

参考文献等

味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編（2017）『【改訂版】業種把握読本―時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社、ISBN 9784904192719
原拓志・宮尾学編著（2017）『技術経営』中央経済社、ISBN 9784502225215

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3限

場所： 研究室

備考・注意事項：

- ・上記以外の場合、申し出て下さい。
- ・講義時間の前後以外で質問がある場合は、メールで受け付ける。メールには必ず件名、氏名、所属を明記すること。
- ・講義終了後のコメントカードで質問等を受け付ける。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
<p>第1回 イントロダクション 講義の進め方の説明とイノベーションマネジメントを学ぶ意義</p> <p>本講義の目的や進め方、評価方法、スケジュール、約束事といった概要について説明する。さらに、講義で取り上げる「イノベーションマネジメント」とはどのようなものであるのか、経済と経営の違いを把握した上で、経営学におけるイノベーションマネジメントの位置づけを確認し、事例を基にイメージをつかみ、学ぶ意義を受講生との間で共有する。</p>	<p>【予習】シラバスを読んでおくこと。【復習】イノベーションマネジメントの講義概要を確認すること。</p>	4時間
<p>第2回 現代社会と企業 企業が社会に与える影響</p> <p>多くの人々が働いている企業とは、社会の中でどのような機能を果たしているのか。なぜ、企業は社会の中で存在できるのか。これらの問いかけに対し、企業という存在を「製品・サービスの提供を主な機能としてつくられた、人と資源の集合体で、一つの管理組織のもとにおかれたもの」と定義して考える。</p>	<p>【予習】教科書の第6章について読んでおくこと。【復習】第2回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第3回 イノベーションマネジメント (1) イノベーションとそのタイプ</p> <p>イノベーションとは、どのようなものであるのか。なぜ重要であり、どうしてマネジメントしていかなければならないのか、重要性や意義について受講生との間で共有し、イノベーションマネジメントが現代の企業にとって重大な課題のひとつであることを理解する。</p>	<p>【予習】教科書の第1章について読んでおくこと。【復習】第3回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第4回 イノベーションマネジメント (2) イノベーションのプロセス</p> <p>イノベーションが何をきっかけにして生まれ、どのような段階を経て、いかにして最終的な成果獲得に結びついていくのか、また、その中でどのような困難が待ち構えているのかというイノベーション・プロセスについて学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第3章と第5章について読んでおくこと。【復習】第4回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第5回 イノベーションマネジメント (3) イノベーションの普及</p> <p>いったん生まれたイノベーションはどのようにして普及していくのか、また、普及に伴い、産業の特性や競争構造はどのように変化していくのかというイノベーションのパターンについて製品ライフサイクル等を基に考える。</p>	<p>【予習】教科書の第4章について読んでおくこと。【復習】第5回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第6回 イノベーションマネジメント (4) オープン・イノベーション</p> <p>広く世の中にある技術を活用し、企業内部と外部のアイデアを有機的に結合させ、新たな価値を創造するという「オープン・イノベーション」の考え方についてアウトサイドイン型とインサイドアウト型の側面から学習する。</p>	<p>【予習】教科書の第10章について読んでおくこと。【復習】第6回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第7回 イノベーションマネジメント (5) 製品アーキテクチャ</p> <p>どのようにして製品を構成部品に分割し、製品機能を配分し、部品間のインターフェースを設計・調整するかに関する基本的な設計構想が「製品アーキテクチャ」である。この概念をキーワードとして企業の特性を考える。</p>	<p>【予習】教科書の第9章について読んでおくこと。【復習】第7回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第8回 イノベーションマネジメント (6) 科学技術イノベーション政策</p> <p>イノベーションには、多くの人や組織、制度がかかわる。イノベーションを興すために政府によってとられる技術政策について、その必要性の根拠を検討するとともに、技術政策の歴史的推移と現状を概観し、具体的な政策手法について解説する。</p>	<p>【予習】教科書の第2章と第12章について読んでおくこと。【復習】第8回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
<p>第9回 イノベーションマネジメント (7) イノベーションと企業戦略</p>	<p>【予習】教科書の第7章について読んでおくこと。【復習】第9回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間

	経営組織における戦略とは、どのような概念であるのか、組織のレベルに対応した戦略の階層構造、戦略は計画的に策定されると同時に創発的に形成されるという特性から経営戦略論の視点について身近な事例を基にイノベーションとの関連性から解説する。		
第10回	<p>イノベーションマネジメント (8) 経営戦略と技術、業界標準をめぐる競争</p> <p>イノベーションにおける標準の役割や効果を解説する。業界標準をめぐる競争においては、売れた物がより売れ、大きなシェアを獲得できる。「ネットワーク外部性」が及ぼす影響をキーワードとして、事実上の業界標準であるデファクト・スタンダードをいかにして獲得するかということについて考える。</p>	<p>【予習】教科書の第8章と第11章について読んでおくこと。【復習】第10回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第11回	<p>イノベーションマネジメント (9) ビジネスモデルのマネジメント</p> <p>新しい製品の市場を開拓し拡大すると同時に、収益を安定的に確保するための仕組みづくりを行う事業化活動において重要になる「ビジネスモデル」のマネジメントについて、①ビジネスシステムの工夫と②収益システムの工夫という大きく2つの切り口から解説する。</p>	<p>【予習】興味深いと思う企業を調べてくること。【復習】第11回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第12回	<p>イノベーションマネジメント (10) ビジネスモデル・ジェネレーション</p> <p>ビジネスモデルを記述、分析、デザインするために、戦略的思考を視覚化するツールとして①顧客セグメント、②価値提案、③チャネル、④顧客との関係、⑤収益の流れ、⑥リソース、⑧パートナー、⑨コスト構造という9つの構築ブロックから構成される「ビジネスモデルキャンパス」を用いた発想法について学習する。</p>	<p>【予習】社会に普及している製品やサービスを調べ、その要因を考えること。【復習】第12回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第13回	<p>イノベーションを担う人材 組織と個人の関わり合い、キャリアデザイン</p> <p>キャリアデザインは、自分が目指したい、楽しく充実した仕事人生のために、自分のキャリアを開発していく、そのためのプランを立てるという考え方である。キャリアの入口付近という節目である大学生活を過ごす中ですべきことは何か、キャリアデザインの視点から考え、アイデアを導き出す。</p>	<p>【予習】教科書の第13章について読んでおくこと。【復習】第13回講義の内容を見直し、学びや気づきをまとめること。</p>	4時間
第14回	<p>まとめ イノベーションマネジメントの展望</p> <p>これまでの講義で学習した内容を振り返り、イノベーションマネジメントを学ぶ意義と要点を確認する。また、事前に講義の中で受講生に調べ学習として、イノベーションマネジメントの理論と実践を結びつけてもらえる内容のレポートを提出してもらおう。自らの考えた内容を発表してもらい、全員で議論を深めてから、最後に担当教員が総括する。</p>	講義内容について見直しをすること。	4時間

授業科目名	行政学概論				
担当教員名	大島博文				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	政令市でまちづくり・防災・交通・総合計画・統計等の新規施策立案・計画策定・経營業務を経験。公益財団法人であるシンクタンクで地域に関する観光・まちづくり・福祉・環境・防災・災害復興等の政策立案・コンサルティング業務、研修等の人材育成業務を担当。				

授業概要

本授業は、国民・住民の生活の多くの側面において重要なサービスを提供する政府（国・自治体）の行政について、日本における行政の基本的な構造と動作メカニズムを理解することを目標とする。現代行政の重要な役割は公共サービスの提供であるが、市民意識を基調とした地域のさまざまな場面のまちづくり、コミュニティづくりなどの現状を取り上げて、現代の行政課題を明らかにし、その解決方法を探るための考察を深めながら、行政の意味と意義について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

行政における観光政策・地域振興などに関する専門的知識や調査・分析・提案など職務遂行に必要な技能を学び、問題解決に向けた実践力を修得できるようケーススタディ等を行う。

目標：

行政における観光政策・地域振興などに関する専門的知識を修得し、調査・分析・提案など職務遂行に必要な技能を修得・応用することで、問題解決に向けた実践力を修得する。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

行政における観光政策・地域振興などに関する課題発見できるよう、情報の収集・分析・活用ができるよう専門的な知識や技能を修得する。

学外連携学修

有り（連携先：観光政策・地域振興を積極的に展開している近隣自治体）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験	:	行政における観光政策・地域振興などに関する専門的知識や調査・分析・提案など職務遂行に必要な技能に関する事項を問う問題を出题し、その理解度と的確に記述や説明ができていないかを基準にして評価する。	40 %
授業内レポート（3回）	:	行政における観光政策・地域振興などに関する専門的知識や調査・分析・提案など職務遂行に必要な技能に関する授業内レポートを作成し、「内容理解」「論理性」「独創性」を基準に評価する。	30 %
授業への貢献	:	授業での発表内容、グループワークでの役割など授業への貢献度を評価する。	30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

曾我謙悟「行政学〔新版〕」有斐閣(2022) (ISBN: 978-4641221901)
 國學院大學地域マネジメント研究センター「観光まちづくりのための地域の見方・調べ方・考え方」朝倉書店(2023) (ISBN: 978-4254265521)
 谷口知司・福井弘幸「ひろがる観光のフィールド」見洋書房(2020) (ISBN: 978-4771033092)
 廣川州伸「改革・改善のための戦略デザイン 観光業DX」秀和システム(2022) (ISBN: 978-4798067377)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加えその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 5限
 場所： 西館3階37研究室
 備考・注意事項： 連絡を取りたい場合はメールでも可 (oshima@osaka-seikei.ac.jp)

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス、行政の果たす役割を考える 授業の進め方 行政の果たす役割を学ぶ。	行政の現状や課題について参考図書やインターネット等で調べておく。	4時間
第2回 行政組織の基本構造 行政組織の基本構造を学ぶ。また最近の変化やトピックについて学ぶ。	行政組織の基本構造について、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第3回 行政の財政、公会計 行政の財政、公会計を学ぶ。また最近の変化やトピックについて学ぶ。	行政の財政、公会計について、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第4回 行政による政策の実施 行政による政策実施の方法や内容を学ぶ。また最近の変化やトピックについて学ぶ。	行政による政策の実施について、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第5回 行政によるサービスの提供 行政によるサービスの提供の方法や内容を学ぶ。また最近の変化やトピックについて学ぶ。	行政によるサービスの提供について、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第6回 行政によるまちづくり 行政によるまちづくりの方法や内容を学ぶ。また最近の変化やトピックについて学ぶ。	行政によるまちづくりについて、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第7回 行政と市民の協働 行政と市民の協働の方法や内容を学ぶ。また最近の変化やトピックについて学ぶ。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第8回 行政によるコミュニティづくり 行政によるコミュニティづくりの方法や内容を学ぶ。また最近の変化やトピックについて学ぶ。	行政によるコミュニティづくりについて、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第9回 【特別講義】行政によるまちづくりの実践 自治体よりまちづくりを実践している専門家を招き、行政によるまちづくりの現状と課題を学ぶ。	行政によるまちづくりの実践について、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第10回 【特別講義】行政による観光政策の実践 自治体より観光政策を実践している専門家を招き、行政によるまちづくりの現状と課題を学ぶ。	行政による観光政策の実践について、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間
第11回 【グループワーク】観光政策を通じたまちづくりを考える 観光政策を通じたまちづくりについてグループワークを行い、発表資料を作成する。	観光政策を通じたまちづくりについて、より良い発表内容となるよう参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で調査する。	4時間
第12回 【グループ発表】観光政策を通じたまちづくり 観光政策を通じたまちづくりに関するグループワークの内容について発表する。	発表内容へのコメントや評価を踏まえて、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で再調査する。	4時間
第13回 DXなどを活用した最新の調査・分析手法を学ぶ DXなどを活用した最新の調査・分析手法を実践例を参考としながら学ぶ。	DXなどを活用した調査・分析手法について、参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で復習する。	4時間

第14回	授業全体まとめ これまでに学んだことを復習し、専門的知識や技能の定着を図る。	参考図書やインターネット、講義中の参考資料等で総復習する。	4時間
------	--	-------------------------------	-----

授業科目名	比較文化論				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、グローバル社会においては異なる文化をもつ人々がどのように共存していけばよいのかという観点から、日本と他国の文化比較を通して、文化的多様性について理解を深めることを目標とします。まず自文化・他文化を比較する議論を概観し、日本と欧米を中心に多くの事例から検討していきます。また、多文化社会の現状と課題にも触れながら日本社会の常識・非常識の背景を見なおし、さまざまな文化を多角的にとらえる力も養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

国際的な異文化社会についての理解

目標：

国際的な文化の知識を身につけて、将来の業務に活かすことができる際的なする

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

世界各国の固有の文化について広い視野から探求し、得られた知識や情報を分かりやすく説明することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席です。
規定回数以上の出席がなければ成績評価の対象になりません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50 %	：	授業内容の正確な把握、ならびに自らの考えを正確かつ簡潔に表現する能力。
小テスト	20 %	：	授業内容とその重要な点の正確な把握。
授業内レポート	30 %	：	授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

関連文献については各回の授業で随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習してください。また授業中の私語は慎んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜：3限
 場所： 研究室（西館2階）
 備考・注意事項： Google Classroom や Gmailでいつでも連絡してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 比較文化論をどのように学ぶのか 授業の概要と目的について説明します。 なんのために比較文化を学ぶのか考えます。	事前にシラバスを確認しておいてください	4時間
第2回 多様な文化の比較 文化概念の誕生について学びます。 文化を構成する要素を通して多様性を理解します。	授業で紹介する比較文化、異文化に関する書籍を読んでください	4時間
第3回 日本の文化 日本の文化の特徴について歴史的・空間的背景を通して学修します。 外国から見た日本の文化客観的に客観的に考えます。	日本の文化の特徴を調べてください	4時間
第4回 日本の食文化 食文化の歴史的背景を通して伝統行事との関りを学修します。 日本の食文化とインバウンド増加の関係から、日本の食文化の特徴について考えます。	日本の食文化の特徴を調べてください	4時間
第5回 ヨーロッパの食文化 フランスをはじめヨーロッパの食文化の歴史を把握します。 世界三大料理を取り上げ、食のグローバル化を考えます。	世界の食文化を調べてください	4時間
第6回 ファッションの文化 各国の伝統文化におけるファッションの多様性を理解します。 グローバル化による現代のファッション文化を考えます。	諸外国の伝統的ファッションについて調べてください	4時間
第7回 まちなみと景観 世界文化遺産を通して、世界のまちなみと景観について学修します。 人間と自然との共同作業によって生み出された文化的景観について考えます。	世界文化遺産の事例を調べてください	4時間
第8回 余暇と娯楽 ウェルネスの概念を学修します。 余暇や娯楽という言葉はいつの時代から用いられるようになったのか、欧米の事例を取り上げ把握します。	娯楽の事例を調べてください	4時間
第9回 スポーツ文化 スポーツが人間形成に与える影響について学修します。 人間の身体を動かすという本源的な活動とともに、精神的充足を与える創造的な文化活動について考えます。	スポーツ文化の事例を調べてください	4時間
第10回 移民と外国人 移民や外国人との関係を通して、多民族社会と多文化社会を考えます。 国籍や国民国家の形成について学修します。	多民族社会の課題について調べてください	4時間
第11回 芸術の文化 ベル・エポックの時代を学びます。 芸術家が集まる国や地域はどのような特徴があるのか、その背景について理解します。	美術館や博物館にはどのような作品があるのか調べてください	4時間
第12回 世界文化遺産 ユネスコによって登録される文化遺産について把握します。 文化遺産、自然遺産、複合遺産の歴史的背景を考えます。	世界遺産の事例を調べてください	4時間
第13回 アイデンティティの比較 各国の恋愛や結婚の文化を取り上げ、皮革検討していきます。 国際結婚の実態についても考えていきます。	各国の結婚制度について調べてください	4時間
第14回 まとめ 多文化共生に向けての課題 授業の振り返りを行います。 地域、時代、宗教などによる多様な文化について、現状と課題について考えます。	現代における世界情勢と課題について調べてください	4時間

授業科目名	世界遺産論特殊講義				
担当教員名	松田 充史				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	教員のいずれもが実務経験がある。松田は旅行会社にて企画・立案・商品造成およびマネジメントをおこない、また自治体組織で京都のプロモーション担当。大塚は旅行会社および航空会社で計30年の実務経験がある。旅行会社では海外企画、商品造成、添乗業務を行い本社管理職や支店長としてのマネジメント業務を行った。世界遺産検定マイスター資格も有する。				

授業概要

「世界遺産」とは地球の生成と人類の歴史によって生み出された、顕著な普遍的価値を持つ人類共通の財産です。ユネスコ総会で採択された「世界遺産条約」の成立の背景やユネスコの理念など、世界遺産の基礎知識を踏まえた上で、多文化理解や地球環境保護などの考え方を国内外の多様な遺産から学びます。また危機遺産や負の遺産などの様々な遺産から、保護・保全の重要性や、ユネスコの平和の理念を考えていきます。一方、世界遺産に登録されることによる弊害や、その普遍的価値の保護と開発、登録へのプロセスなど課題が多くあり、それらをマネジメントする能力が求められている。あわせて学習成果の可視化として世界遺産検定3級以上の合格を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

世界遺産に関する専門知識を習得する

目標：

世界遺産の課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

世界遺産の課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回の授業に出席すること。
試験やレポート提出は必須。

成績評価の方法・評価の割合

授業態度

50 %

グループワーク

10 %

定期試験（レポート）

40 %

評価の基準

授業での態度を0～50点満点で評価し、大いに積極性・主体性が見られれば50点とし、段階的に10点刻みで評価します。授業内で行う小テストや模試、検定の成績も評価に含みます。

グループワークの内容を10点満点で評価します。取り組み内容・積極性・主体性があったかどうかを評価します。

世界遺産の知識を踏まえ、その課題を認識し問題意識を持って自分の意見が述べられていれば40点とし、10点刻みで段階的に評価します。

使用教科書

指定する

著者

世界遺産検定事務局

タイトル

・ きほんを学ぶ世界遺産100世界遺産検定3級公式テキスト（第4版）

出版社

・ マイナビ出版

出版年

・ 2023 年

参考文献等

*めざす検定級に応じて購入してください。
 世界遺産検定事務局「きほんを学ぶ世界遺産100世界遺産検定3級公式テキスト（第4版）」
 ISBN-10:4839982686/ISBN-13:978-4839982683
 世界遺産検定事務局「くわしく学ぶ世界遺産300 世界遺産検定2級公式テキスト（2023年度版）」マイナビ出版。
 ISBN-10:4839982694/ISBN-13:978-4839982690
 世界遺産検定事務局「世界遺産検定公式過去問題集（2024年度版）」マイナビ出版
 1・2級 ISBN-10:4839985936/ISBN-13:978-4839985936
 3・4級 ISBN-10:4839985928/ISBN-13:978-4839985929

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められます。
- ・世界遺産検定事務局「きほんを学ぶ世界遺産100世界遺産検定3級公式テキスト(最新版)」を必ず購入してください。（すでにテキストを持っている場合は旧版でも可）また上位級を目指す方はそれぞれの級に見合った公式テキストを準備してください。
- ・2024年7月06日（土）に学内で行われる「世界遺産検定2級又は3級」試験を必ず受験してください(受験料別途)。
- ・原則毎回の授業には出席すること。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3時限(13:10～14:50)

場所： 西館4階 松田研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えませんが、メールでも対応します。
 松田：matsuda-mi@osaka-seikei.ac.jp
 メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション	教科書、および世界遺産に関連する文献を読んでおく。 ・世界遺産誕生の原点と概念を理解する。 ・世界遺産を学ぶことによって得られるものを理解する。 ・世界遺産検定の概要や、検定3級以上の合格への道筋を理解する。	4時間
第2回 世界遺産の基礎知識①（ユネスコの理念・世界遺産条約）	世界遺産に求められる価値についてまとめておく ・世界遺産とユネスコの理念・役割について理解する。 ・世界遺産が登録される前提条件について理解する。 ・世界遺産はどのように登録されるのかを順序立てて理解する。	4時間
第3回 世界遺産の基礎知識②（登録基準や世界遺産の価値）	世界遺産を一つ取り上げ、現状と課題をまとめておく ・世界遺産の種類と数を理解する。 ・世界遺産の登録基準について理解する。 ・世界遺産に求められる価値について理解する。	4時間
第4回 世界遺産の基礎知識③（世界遺産委員会、危機遺産）	世界遺産に関する概念や重要キーワードについてまとめておく ・世界遺産の登録の流れについて理解する。 ・世界遺産委員会の役割と審議内容について理解する。 ・危機遺産とは何か、世界遺産登録の抹消について理解する。	4時間
第5回 世界遺産の基礎知識④（負の遺産、世界遺産の概念）	世界遺産の概念や重要キーワードについてまとめておく ・負の遺産からは、ユネスコ憲章の前文に謳われている「平和のとりで」を理解する。 ・文化的景観の概念について理解する。 ・世界遺産登録の手法であるシリアルノミネーション等の概念を理解する。	4時間
第6回 世界遺産の基礎知識⑤（重要キーワード、小テスト）	小テストの復習をテキストで行っておく ・世界遺産の課題である、グローバルストラテジーについて理解する。 ・ユネスコの事業である、「無形文化遺産」や「世界の記憶」について理解する。 ・基礎知識に関する小テストを行い、ここまでの理解を確認する。	4時間
第7回 日本の世界遺産①（文化遺産・自然遺産）	日本の世界遺産の特徴およびキーワードをまとめておく。 ・小テストの解説を通して、確実な理解度を高める。 ・日本の世界遺産の全てについて理解する。 （日本のいくつかの遺産については基礎知識の授業の中でも触れていきます） ・併せて関連する海外の世界遺産についても理解する。	4時間
第8回 日本の世界遺産②（文化遺産・自然遺産）	日本の世界遺産の特徴およびキーワードをまとめておく。 ・日本の世界遺産の全てについて理解する。 （日本のいくつかの遺産については基礎知識の授業の中でも触れていきます） ・併せて関連する海外の世界遺産についても理解する。	4時間
第9回 日本の世界遺産③（文化遺産、暫定リスト）	日本の世界遺産の特徴およびキーワードをまとめておく。 ・日本の世界遺産の全てについて理解する。 （日本のいくつかの遺産については基礎知識の授業の中でも触れていきます） ・併せて関連する海外の世界遺産についても理解する。 ・日本の今後の世界遺産候補について理解する。	4時間
第10回 世界遺産の理解①（特徴的な世界遺産）	授業で取り上げなかった海外の世界遺産についてテキストを精読し、キーワードをまとめておく ・海外の特徴的な世界遺産を通して全体像を理解する。 ・本番と同じ難易度の模擬試験を通して確実な理解度を高める。 ・試験問題をを通して世界遺産の様々な課題を理解する。	4時間

第11回	世界遺産の理解② <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験解説を通して、確実な理解度を高める。 ・ 頻出過去問題解説を通して、重要事項を整理する。 ・ 試験問題を通して世界遺産の様々な課題を理解する。 	模擬試験の復習や過去問に取り組む	4時間
第12回	世界遺産の理解③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 本番と同じ難易度の模擬試験を通して確実な理解度を高める。 ・ 試験問題を通して世界遺産の様々な課題を理解する。 ・ 頻出過去問題解説を通して、重要事項を整理する。 	模擬試験の復習や過去問に取り組む	4時間
第13回	世界遺産の理解④ <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験解説を通して、確実な理解度を高める。 ・ 頻出過去問題解説を通して、重要事項を整理する。 ・ 試験問題を通して世界遺産の様々な課題を理解する。 	模擬試験の復習や過去問に取り組む	4時間
第14回	世界遺産の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・ オーバーツーリズムなど、観光の観点から世界遺産登録の問題点や課題を考える。 ・ 保護から活用へシフトしてくなど、今後の世界遺産の方向性を考える。 ・ あなたが考える将来の世界遺産について仮説を検証する。 	世界遺産の課題と問題点について自分の意見をまとめておく	4時間

授業科目名	文化財論				
担当教員名	原田弘之				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	長年に渡り、コンサルタントとして観光まちづくりや地域活性化に関する調査、計画策定、事業企画・推進等に携わってきた。(全14回)				

授業概要

本授業は、多岐にわたる文化財の概念と種別、種別ごとの文化財についての理解を深めるとともに、文化財保護の体制、保護のあり方、保護の施策と予算、文化財の指定・選定・登録、保存・公開の機関や施設の役割、文化財の国際交流と協力事業などについて理解を深めることを目標とする。そのために、履修者にとって身近な文化財をはじめとする具体的な事例をもとに、文化財とは何か、人々にとってどのような価値があるのか、その存在意義を考察していく。文化財保護がどのようにして行われているか、修理の様子等を見学できる機会も設ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

文化財及び文化財政策の基礎知識

目標：

文化財及び文化財政策に関する歴史や多様な姿等を学び、グループワークを通して、文化財保護と活用の目的やめざすあり方について考える力を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

自分の身の回りや地域社会、メディア等を通して、文化財を中心とした地域の課題を発見し、地域にふさわしい文化財保護や活用を含む観光のあり方を考えることができる。

学外連携学修

有り(連携先：大阪府内または奈良県内の自治体の文化財部局)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

ワークシート・受講態度

40 %

グループワーク

40 %

期末テスト

20 %

評価の基準

： 毎回、ワークシートを提出してもらい、その提出状況と内容、通期の受講態度で評価します。

： 後半のグループワークに対する取組状況や態度、プレゼンも含めた結果で評価します。

： 講義全体に関する理解度や意欲を測るテストを行い、その結果で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜2限
場所： 個人研究室
備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えますが、メールでも対応します。
アドレスは、授業で伝えます。
メールには必ず氏名と学籍番号を書いてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 講義全体の概要と進め方、評価等について説明した上で、文化財の概念や、文化財政策を進める意義、日本における問題点等について考えます。	事前にシラバスを読んでおく。	4時間
第2回 文化財政策の変遷 文化財政策の起こりから、明治、大正、昭和戦前、戦後等に区分して、文化財政策の変遷について学びます。	文化財政策の変遷に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第3回 文化財保護制度 文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大など、多様な文化財保護制度の仕組みについて学びます。	文化財保護制度に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第4回 文化財の保存・修復技術 文化財の保存・修復技術について学ぶとともに、文化財保護修理技術者の仕事と役割について理解を深めます。	文化財の保存・修復技術に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第5回 文化財の活用とまちづくり 文化財の保存を踏まえ、その価値の発信や活用等について、さらには地域連携やまちづくりへの活用について学びます。	文化財の活用とまちづくりに関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第6回 文化財を活用した国際交流・観光振興 文化財の保存・修復技術を介した国際協力、保護や活用を通じた国際交流、さらには国内観光への活用、そして、インパウンド向けの活用について、事例を通して学びます。	文化財を活用した国際交流・観光振興に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第7回 文化財保護・活用の拠点施設 文化財保護・活用の拠点である歴史系の博物館について、全国の優良事例について、その機能や役割、取組事業などを学ぶとともに、博物館職員による運営や人材確保等についても理解を深めます。	文化財保護・活用の拠点施設に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第8回 現地見学 第8回と第9回の2回分の時間を活用し、大阪府内あるいは奈良県内の自治体の歴史系博物館を対象に、現地見学を行い、博物館の役割や事業、来訪者等の状況や評価等も含めて、リアルな実情や課題等について学びます。 実際の見学先と見学日は授業開始の際に決定予定です。 第8回と第9回の2回分の時間を活用し、大阪府内あるいは奈良県内の自治体の歴史系博物館を対象に、現地見学を行い、博物館の役割や事業、来訪者等の状況や評価等も含めて、リアルな実情や課題等について学びます。 実際の見学先と見学日は授業開始の際に決定予定です。	現地見学に関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第10回 文化財保護・活用の検討グループによるリサーチ これまでの授業と現地見学を踏まえて、現地見学した博物館を対象に、文化財保護・活用の今後のあり方に関する検討について、グループワークで行います。 第10回は現地見学のふりかえりや事例等のリサーチを行います。	グループワークに関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第11回 文化財保護・活用の検討グループによる方策提案 これまでの授業と現地見学を踏まえて、現地見学した博物館を対象に、文化財保護・活用の今後のあり方に関する検討について、グループワークで行います。 第11回は前回のリサーチ結果を踏まえて、博物館における文化財活用のための方策を検討し、プレゼン資料としてまとめます。	グループワークに関するふりかえりシートの作成・提出	4時間
第12回 文化財保護・活用の検討グループワークの発表・意見交換会—前半— 第10回及び11回で作成した、博物館を対象とした文化財保護・活用のグループワークによるプレゼン資料を活用し、発表会と意見交換会を行います。 発表者以外は、評価を行うとともに、当該プレゼンに関して質疑応答と意見交換を行い、文化財保護と活用に関する理解を深めます。	プレゼン評価シートの作成・提出	4時間
第13回 文化財保護・活用の検討グループワークの発表・意見交換会—後半—	プレゼン評価シートの作成・提出	4時間

	<p>第10回及び11回で作成した、博物館を対象とした文化財保護・活用のグループワークによるプレゼン資料を活用し、発表会と意見交換会を行います。 発表者以外は、評価を行うとともに、当該プレゼンに関して質疑応答と意見交換を行い、文化財保護と活用に関する理解を深めます。</p>		
第14回	<p>まとめとふりかえり</p> <p>1回～13回にわたる授業全体をふりかえり、文化財保護と活用の重要性について再確認するとともに、今後の方向性について、みんなで意見交換を行い、理解を再度深めます。</p>	<p>講義全体に関するふりかえりシートの作成・提出</p>	<p>4時間</p>

授業科目名	NPO・NGO論				
担当教員名	辛川敬				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

世界や日本において市民セクターはどのような役割を果たし、その担い手であるNGO・NPOや市民活動団体にはどのような種類や特徴があるのか、その運営や働き方も含めて学習します。福祉や社会教育、地域づくり、国際協力や環境といった様々な分野での事例やその意義について、多角度から学んでいきます。授業は、グループワーク形式も取り入れて学生自身が考えたり意見を発表したりしながら進めます。授業の終りに、授業の感想や、理解度の確認を兼ねた「振り返りシート」を提出してもらい、次回の授業につなげていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用
2. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

NPO・NGOの専門的な業務に関する知識を深める。
NPO・NGOが提供するサービスへの理解を進化させる。

目標：

各領域における専門的な業務内容に関する知識を深める。
各領域における業務内容に関する知識を深める。

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

様々な角度からのアプローチを通じて、航空産業が抱える課題を多面的に発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

期末レポート

20 %

授業への参加意欲

40 %

グループワークとプレゼンテーション

20 %

リアクション・ペーパー

20 %

評価の基準

： 14回の授業終了後に期末レポートの提出を求める。学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて評価する。

： 毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて評価する。

： グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて評価する。

： 毎回の授業の終わりに提出のリアクション・ペーパーで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて適宜授業にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・日々のニュースから、NPO・NGO事業に関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
- ・事例研究のグループワークでは積極的に協働することが求められる。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日2限
場所： 研究室（西館4階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 14回の授業の内容、進め方、評価について解説をする。	事前にNPO・NGOに関する記事などを収集し事例の事前学習を行う。	4時間
第2回 ボランティアとは何か ボランティアとは何かについて詳細を学ぶ。	ボランティアに関する記事などを収集し事例の事前学習を行う。	4時間
第3回 NPO・NGOとは何か NPO・NGOとは何か、それぞれの時代における役割を理解する。	NPO・NGOに関する記事などを収集し事例の事前学習を行う。	4時間
第4回 日本におけるNPOの歴史 日本のNPOに特化して歴史を学ぶ。	日本のNPOに関する記事などを収集し事例の事前学習を行う。	4時間
第5回 NPOをめぐる法制度 NPOの法制度について理解を深める。	これまで学んだ内容を法的側面から整理しておく。	4時間
第6回 NPOの活動と機能 NPOの活動と機能について理解を深める。	これまで学んだ内容から、NPOの機能について考察しておく。	4時間
第7回 NPOの経営と資金 NPOの実際の経営と資金調達について理解を深める。	これまで学んだ内容から、NPOのマネジメント課題を抽出しておく。	4時間
第8回 NPOと企業 NPOと企業とのかかわりについて学ぶ。	学習内容を正確に復習する。	4時間
第9回 NPOと行政 NPOと行政の関係性について学ぶ。	学習内容を正確に復習する。	4時間
第10回 国際社会とNGO 国際社会におけるNGOの役割について学ぶ。	NGOの国際的な活動事例に関する情報を収集する。	4時間
第11回 グループワーク グループワーク 1回目 →これまでの5-10回目の授業の中で関心を持ったテーマを一つ選択し、グループで「考察と学び」をまとめる。 グループワーク 2回目	グループワークの準備を進める。	4時間
第13回 グループ発表 グループ発表を行う。	グループ発表での指摘事項を振り返りまとめる。	4時間
第14回 グループ発表と振り返り グループ発表を行う。授業全般を総括する。	グループ発表での指摘事項を振り返りまとめる。	4時間

授業科目名	ツーリズム研究2				
担当教員名	東出加奈子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、近年注目されているいくつかのツーリズムについて理解を深めていくことを目標とします。ツーリズムは、地域における特色すなわち地域資源を活かし、地域主体の企画によって成立・展開、発展します。一方、地域を訪れる人々の志向に関わる時代・文化的背景や社会・経済的要因によって規定されます。ツーリズムの実態について具体的な事例をもとに解説していきます。本授業で主に取り上げるのは、コンテンツツーリズム、エコツーリズム、ヘルスツーリズムなどさまざまなニューツーリズムです。ツーリズムを推進する地域が抱える問題や課題と、参加する観光客の目的、満足度など、迎える側と訪問する側の双方の立場から考察を深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

具体的内容：

目的別ツーリズムに関する知識と応用

目標：

地域資源を活かしたニューツーリズムの取り組みを理解する

ニューツーリズムの事例から地域の課題が検討できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席です。
規定回数以上の出席がなければ成績評価の対象になりません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題提出	30 %	：	授業に取り組む姿勢、ならびに内容の理解
グループワークへの参加態度	50 %	：	グループワークへの積極的な参加とプレゼンテーションに向けた取り組み
期末テスト	20 %	：	授業内容の把握、ならびに理解度の確認

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

関連文献については各回の授業で随時紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。

授業外学修に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4限
 場所： 西館2階 個人研究室
 備考・注意事項： Google Classroom や Gmailでいつでも連絡してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ツーリズム研究2をどのように学ぶのか 授業の概要と目的について説明します。 授業の進め方を確認し、具体的な現地調査について共有します。	事前にシラバスを確認しておいてください	4時間
第2回 地域資源を活かした持続可能な観光 地域活性化に必要な観光資源について考えます。 観光資源と多様なニューツーリズムについて理解します。	自身の地元と観光資源を調べましょう	4時間
第3回 フードツーリズム 食の資源を通じた地域活性化の事例を学びます。 地域ならではの職・食文化を楽しむことを目的とした旅について理解します。	食の資源を調べましょう	4時間
第4回 アグリツーリズム 一般にグリーンツーリズムとも称されるアグリツーリズムの事例を学びます。 農場や農村で休暇・余暇を過ごす体験について理解します。	アグリツーリズムの事例を調べましょう	4時間
第5回 スポーツツーリズム スポーツ資源とツーリズムを融合した取り組みの事例を学びます。 スポーツが観光資源になることを理解し、その取り組みを把握します。	スポーツの資源を調べてみましょう	4時間
第6回 エコツーリズム 地域全体で自然環境や歴史文化などの魅力を伝える取り組みを学びます。 地域資源を持続可能にすることで地域経済への波及効果となることを理解します。	エコツーリズムの事例を調べましょう	4時間
第7回 コンテンツツーリズム① アニメやマンガ、映画などの舞台となった地域を訪れるツーリズムを学びます。 聖地巡礼とも称される作品の舞台と地域が共有することで生み出される観光地を把握します。	具体的な作品の舞台となった地を調べましょう	4時間
第8回 ヘルスツーリズム 旅行という非日常的な楽しみのなかで、健康回復や健康増進を図る活動を取り入れることを学びます。高齢化社会において注目されるようになった楽しみ方を理解します。	ヘルスツーリズムの事例を調べましょう	4時間
第9回 ニューツーリズムの探求 授業で取り上げたニューツーリズムの中から、グループに分かれて一つテーマを選び、事例を情報収集します。ニューツーリズムについて成功した事例を取り上げて調査します。	ニューツーリズムについての参考文献を読みましよう	4時間
第10回 グループワークによる探求 選んだニューツーリズムのテーマについて、取り組みの事例をまとめていきます。 地域活性につながった過程を調査し、まとめていきます。	事例を調べてまとめてください	4時間
第11回 プレゼンテーションの準備 グループごとに取り上げるツーリズムについて、プレゼンテーションに向けてスライドを作成します。グループの役割分担を決めて、それぞれが調べた内容を共有し作成していきます。	pptを作成してください	4時間
第12回 プレゼンテーション①ディスカッション 各グループで発表をします。 聴衆者による質疑応答を行い、受講生で相互評価をします。	他のグループから学んだことをまとめましょう	4時間
第13回 プレゼンテーション②質疑応答 前回に続いて、各グループで発表をします。 聴衆者による質疑応答を行い、受講生で相互評価をします。	相互評価から学んだことをまとめましょう	4時間
第14回 まとめ ツーリズムにおける現状と課題 授業ならびに現地調査の振り返りです。 ニューツーリズムを通して、地域活性の課題について考えます。	授業の振り返りをまとめてください	4時間

授業科目名	Academic English 1				
担当教員名	坂井純子・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Dr. Ring has business management experience at a medium sized company.				

授業概要

This is an academic English class with basic business content. This course also includes instruction in basic critical thinking skills (CTS) to prepare students for study overseas and for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. Critical thinking skills are necessary for success at a university overseas and for a successful career. We will use all four skills: reading, writing, speaking, and listening. We may give a Project Based Learning PowerPoint explaining a self-chosen business topic based on the textbook, case study, or with teacher guidance. Finally, we may study with and get help from overseas students or businesspeople for a collaboration project.

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用
2. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

Academic English communication for study abroad, business purposes, and studying business content. Students will further develop their lifelong learning skills to support their careers.

Communication, collaboration, creativity, critical thinking, intercultural competence, well-being, and digital literacy.

目標：

Students will be able to: Discuss familiar topics, their field of study, business topics, world events, give their opinions/advice and reasons/explanations, communicate overseas as exchange students.

Discuss future professional goals, intentions, hopes, and ambitions. Read and understand factual texts. Give a persuasive presentation. Engage in debate. Express one's ideas and logic clearly.

汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取組み
2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

Proactively work towards finding solutions to social, economic, and business issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their critical thinking skills and objectivity.

Research, exchange, check, and confirm factual information. Give a presentation on a topic of interest with teacher support. Develop communication skills necessary for international exchange.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習(PBL)
- ・ その他(以下に概要を記述)

International exchange and collaboration with students, professors, and/or business people located overseas.

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

Midterm performance event/presentation

25 %

Academic English portfolio

評価の基準

: Report, paper test, presentation and PowerPoint slides. Evaluation based on Professors' rubric.

: Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Professors' rubric.

Class participation	25 %	:	Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Professors' rubric. Demonstrates progress in critical thinking skills as taught in class.
Test	20 %	:	Evaluated for use of textbook knowledge, class information/notetaking, and language skills such as vocabulary.
Project-based learning project	10 %	:	Theme and evaluation standards based on class and instructor choice. Demonstrates use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions.
	20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Lida Baker & Steven Gershon	• Skillful 1 Listening & Speaking, Second Edition (ISBN: 9781380010469)	• Macmillan Education	• 2018 年

参考文献等

笹島 茂『CLIL 英語で学ぶ経営入門 CLIL Business Management』（三修社、2023、ISBN:978-4-384-33524-8 C1082）

履修上の注意・備考・メッセージ

It is the policy of this class to protect the privacy of all students and class participants. All data and videos that are collected for evaluation will be deleted at the end of a one year. Students may not take screen captures, repost class materials, personal information or photos of others, or videoconference discussions to the Internet. Students must not collect personal information or photos of anyone in this class. The images, text, and materials used in this class are the property of the copyright holders.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Orientation, Chapter 1 Character Course Introduction Academic English and Critical Thinking Skills Chapter 1: "First day on campus" Video Listening activity Vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第2回 Orientation, Chapter 1 Expansion Academic English and Critical Thinking Skills Expanded review and discussion Giving reasons why: Your favorite company/product Management, stakeholders, global markets. Introduction to basic business concepts. How university education prepares us for life in the business world. Critical thinking skills follow up exercise.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第3回 Chapter 1: University Life; Psychology "Birth order and personality" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第4回 Chapter 1: University Life; Psychology Expansion Expanded review and discussion of Chapter 1. How learning teamwork as university students will help us become better business people/service industry staff. Discussion 2: a sense of purpose, ethics, and mission in business.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第5回 Chapter 2: Time "The clock in our brain" Video Listening activity Vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第6回 Chapter 2 Expansion Expanded review and discussion of Chapter 2. Time perspective. How our view shapes our decisions and the results that we get. Basic business concept: What is a PESTLE analysis? Discussion and research: conducting a PESTLE analysis in some detail.	Preparation for mid-term presentation	1時間

第7回	Chapter 2: Biology; Science "Time to sleep" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第8回	Chapter 2 Expansion Expanded review and discussion Cell phones = "The new tobacco". Technology and modern life. Basic business skills: What is a SWOT analysis? Discussion and research: conducting a SWOT analysis in some detail.	Preparation for next chapter	1時間
第9回	Chapter 3: Buildings "Campus housing" Video Listening activity Vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第10回	Chapter 3 Expansion Expanded review and discussion Discussion: Tourism planning, civil planning, incentivizing behaviors, and sustainable tourism. Case studies: Pomfret, Vermont, Shelburne Farms, Vermont, and Venice, Italy	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第11回	Chapter 3: Sociology, Architecture "Less is more" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第12回	Chapter 3 Expansion Expanded review and discussion Basic business skills: How to conduct research in English Discussion: what it takes to lead.	Preparation for mid-term presentation	1時間
第13回	Mid-term exam; preparation for mid-term presentation Learning about their destination countries Objectives and plans for studying abroad How to better prepare for studying abroad	Preparation for mid-term presentation	1時間
第14回	Mid-term presentation The mid-term presentation topic will be either based on the text, in class discussions, or to be decided after a discussion by students and teachers.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第15回	Chapter 4: Cities "Los Angeles: A changing city" Video Listening activity Vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第16回	Chapter 4 Expansion Expanded review and discussion of life in a modern city Discussion: Managing stress, finding green space	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第17回	Chapter 4: Media studies "Wallscapes" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第18回	Chapter 4 Expansion Expanded review and discussion The benefits and dangers of modern media revisited. Business concepts discussion: per person productivity and secret SNS time wasters at work. Discussion/case study: social media and business ethics, emotional contagion (the dangers of "the Facebook effect") and the future of business life in the "Metaverse"	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第19回	Chapter 5: Culture "Japanese customs" Video Listening activity Vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第20回	Chapter 5 Expansion Expanded review and discussion Marketing continued: how to market a product or event from your hometown.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間

第21回	Chapter 5: Society "Culture corner" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第22回	Chapter 5 Expansion Expanded review and discussion Discussion: how to take a local product into the global market place.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第23回	Chapter 6 Food "Lab burger" Video Listening activity Vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第24回	Chapter 6 Expansion Expanded review and discussion Marketing one's favorite food. How to promote a product in English.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第25回	Chapter 6: Health and nutrition "Let's concentrate on orange juice" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第26回	Chapter 6 Expanded review and discussion Discussion: sustainable tourism, food loss, and the SDGs. Real world examples	Preparation for final presentation	1時間
第27回	Preparation for final presentation Complete writing Speech practice Rehearsal	Preparation for final presentation	1時間
第28回	Final Presentation Delivery of final presentation.	Review/ Reflection work	1時間

授業科目名	Academic English 2				
担当教員名	坂井純子・リング				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	Dr. Ring has business management experience at a medium sized company.				

授業概要

This is an academic English class with basic business content. This course also includes instruction in basic critical thinking skills (CTS) to prepare students for study overseas and for work in the international travel/hospitality industries and the global economy. Critical thinking skills are necessary for success at a university overseas and for a successful career. We will use all four skills: reading, writing, speaking, and listening. We may give a Project Based Learning PowerPoint explaining a self-chosen business topic based on the textbook, case study, or with teacher guidance. Finally, we may study with and get help from overseas students or businesspeople for a collaboration project.

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用
2. DP 3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

Academic English communication for study abroad, business purposes, and studying business content. Students will further develop their lifelong learning skills to support their careers.

Communication, collaboration, creativity, critical thinking, intercultural competence, well-being, and digital literacy.

目標：

Students will be able to: Discuss familiar topics, their field of study, business topics, world events, give their opinions/advice and reasons/explanations, communicate overseas as exchange students.

Discuss future professional goals, intentions, hopes, and ambitions. Read and understand factual texts. Give a persuasive presentation. Engage in debate. Express one's ideas and logic clearly.

汎用的な力

1. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取組み
2. DP 8. 他者とのコミュニケーション

Proactively work towards finding solutions to social, economic, and business issues and problems. Students conduct problem-based learning to develop their critical thinking skills and objectivity.

Research, exchange, check, and confirm factual information. Give a presentation on a topic of interest with teacher support. Develop communication skills necessary for international exchange.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習(PBL)
- ・ その他(以下に概要を記述)

International exchange and collaboration with students, professors, and/or business people located overseas.

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

Midterm performance event/presentation

25 %

Academic English portfolio

評価の基準

: Report, paper test, presentation and PowerPoint slides. Evaluation based on Professors' rubric.

: Research notes, weekly vocabulary notebook. Project-based learning 1 to 3 (A4) page report. PowerPoint slides. Portfolio will be assessed based on Professors' rubric.

Class participation	25 %	:	Actively participates in discussion and group work. Active learning notetaking, summarizing. Assessed based on Professors' rubric. Demonstrates progress in critical thinking skills as taught in class.
Test	20 %	:	Evaluated for use of textbook knowledge, class information/notetaking, and language skills such as vocabulary.
Project-based learning project	10 %	:	Theme and evaluation standards based on class and instructor choice. Evaluated for use of evidence/data, skills of problem analysis and problem solving, analysis of hypotheses/assumptions.
	20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Lidia Baker & Steven Gershon	• Skillful 1 Listening & Speaking, Second Edition	• Macmillan Education	• 2018 年

参考文献等

笹島 茂『CLIL 英語で学ぶ経営入門 CLIL Business Management』（三修社、2023、ISBN: 978-4-384-33524-8 C1082）

履修上の注意・備考・メッセージ

It is the policy of this class to protect the privacy of all students and class participants. All data and videos that are collected for evaluation will be deleted at the end of a one year. Students may not take screen captures, repost class materials, personal information or photos of others, or videoconference discussions to the Internet. Students must not collect personal information or photos of anyone in this class. The images, text, and materials used in this class are the property of the copyright holders.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	Orientation, Chapter 6 Course Introduction Academic English and Critical Thinking Skills Chapter 6: Introduction	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第2回	Orientation, Chapter Expansion Academic English and Critical Thinking Skills Expanded review and discussion Giving reasons why: Our favorite global leaders and companies. Why does Microsoft "thrive" and how does thriving make a stronger organization?	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第3回	Chapter 6: Health and nutrition "Let's concentrate on orange juice" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第4回	Chapter 6 Expansion Expanded review and discussion of Chapter 2. Discussion: What matters for a happy and healthy life? Case study: The Harvard Longevity Study. "Loneliness kills. It's as powerful as smoking or alcoholism." -- Robert Waldinger, psychiatrist, Massachusetts General Hospital	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第5回	Chapter 7: Extremes "Amazing creatures" Video Listening activities Vocabulary	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第6回	Chapter 7 Expansion Expanded review and discussion of Chapter 3. Discussion and research: How extreme is too extreme? Risk management and understanding fundamental statistical concepts in business.	Preparation for mid-term presentation	1時間
第7回	Chapter 7: Cognitive science	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間

	<p>"Ultimate memory" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others</p>		
第8回	<p>Chapter 7 Expansion</p> <p>Expanded review and discussion Discussion and research: The cognitive revolution, Maslow, and positive psychology. "Self-actualization" and fulfilling our full potential. GRIT, Hope Theory, and Self-efficacy</p> <p>"What we call 'normal', is really a psycho-pathology of the average. It's so widespread we don't even notice it." - Abraham Maslow</p>	Preparation for next chapter	1時間
第9回	<p>Chapter 8: Vision</p> <p>"How we see the world" Video Listening activities Vocabulary</p>	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第10回	<p>Chapter 8 Expansion</p> <p>Expanded review and discussion: The cognitive revolution, Maslow, and positive psychology. "Self-actualization" and fulfilling our full potential. GRIT, Hope Theory, and Self-efficacy continued</p> <p>Discussion: What is your vision of the future? Discussion: Who will you be in 20 years and what will you be doing?</p>	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第11回	<p>Chapter 8: Photography</p> <p>"A great photograph" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others</p>	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第12回	<p>Chapter 8 Expansion</p> <p>Expanded review and discussion Minidebate: Are "Selfies" harmless or a public danger? References: https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1740144517305326 https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC10568398/</p>	Preparation for mid-term presentation	1時間
第13回	<p>Preparation and Discussion for "Semester Study Abroad"</p> <p>Learning about their destination countries Objectives and plans for studying abroad How to better prepare for studying abroad</p>	Preparation for mid-term presentation	1時間
第14回	<p>Mid-term presentation</p> <p>The mid-term presentation topic will be either based on the text, in class discussions, or to be decided after a discussion by students and teachers.</p>	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第15回	<p>Chapter 9: Progress</p> <p>"Learning online" Video Listening activities Vocabulary</p>	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第16回	<p>Chapter 9 Expansion</p> <p>Expanded review and discussion Discussion: Defining progress, personal, social, organizational.</p>	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第17回	<p>Chapter 9: Mechanical engineering</p> <p>"Simon's new arm" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others</p>	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第18回	<p>Chapter 9 Expansion</p> <p>Expanded review and discussion Business concepts discussion: Crossing the human and machine divide. AI and the future workplace.</p>	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第19回	<p>Chapter 10: Work</p> <p>"Love your work" Video Listening activities Vocabulary</p>	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第20回	<p>Chapter 10 Expansion</p>	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間

	Expanded review and discussion: What does a successful company environment look like?		
第21回	Chapter 10 Business "The future of work" Grammar Speaking activity Study skills: studying with others	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第22回	Chapter 10 Expansion Expanded review and discussion Discussion: business ethics, investors, and stakeholders.	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第23回	Review: Chapters 6-8 Review activities In-class writing	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第24回	Chapter Expansion Expanded review and discussion of units 6-8. Culture shock: What is it? How can I deal with it?	Vocabulary; Classwork preparation for next chapter	1時間
第25回	Review: Chapters 9-10 Review activities In-class writing	Vocabulary; Review work; Preparation for studying abroad	1時間
第26回	Chapter Expansion Expanded review and discussion of units 9-10 Discussion: Extreme productivity Case study: The Pozen Method Understanding your "comparative advantage" and getting results. "It's not the time you spend but the results you produce"-Robert C. Pozen Reference: https://hbr.org/2011/05/managing-yourself-extreme-productivity	Preparation for final presentation	1時間
第27回	Preparation for final presentation Complete writing Speech practice Rehearsal	Preparation for final presentation	1時間
第28回	Final Presentation Delivery of final presentation.	Review/ Reflection work	1時間

授業科目名	Conversation Skills A①②				
担当教員名	竹内ニコール				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

The goal of this class is to acquire conversational English skills necessary in tourism and business settings. Students will learn expressions and vocabulary that are useful for interacting with people from diverse cultural and linguistic backgrounds in customer service situations, and practice using them clearly and appropriately. Through regular listening activities, students will build listening comprehension and inference skills. Students will practice conversing to build good relationships and learn how to navigate successful communication in intercultural settings. Presentations skills will also be required in the course. Students can expect to participate in the university presentation contest.

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

Students will practice their speaking and listening skills in English in a variety of international contexts connected to the international tourism business industry.

目標：

By the end of the course, students should be better able to express themselves to people from different linguistic and cultural backgrounds through their English speaking skills.

汎用的な力

1. DP 8. 他者とのコミュニケーション

Students will be able to communicate effectively and appropriately about various relevant topics in international settings.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

Students must turn in their assignments on time. All presentations must be made on presentation day. Late work and assignments will be reflected in the student's final assessment for the course. A pro-active, positive attitude toward all in-class speaking activities is necessary.

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

In-class assignments/activities	30 %	:	In-class assignments and activities will be done regularly during class and will be evaluated. *In the case of non-official absences in-class assignments and activities will not be able to be made up.
Quizzes	20 %	:	It is important that students develop their vocabulary. Quizzes will be frequent and cumulative.
Presentations	30 %	:	Students will give presentations and be evaluated on a rubric. Students will also prepare for and participate in the university presentation contest.

Homework	:	Students will receive a grade for homework completion.
	10 %	
Final Exam	:	Students will be assessed on the cumulative material from the semester.
	10 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Cynthia Fettig	・ Reflect Listening & Speaking 1 (ISBN 978-0-357-44917-2)	・ National Geographic Learning	・ 2022 年
Ken Wilson	・ Smart Choice 2 (ISBN: 978-0-19-406114-8)	・ Oxford University Press	・ 2020 年

参考文献等

クラスによって購入するテキストが変わりますので十分に注意してください（各クラス1冊です）。

クラス①② : Reflect Listening & Speaking 1 (ISBN 978-0-357-44917-2)

クラス③ : Smart Choice 2 (ISBN: 978-0-19-406114-8)

履修上の注意・備考・メッセージ

All students will be responsible for their own work. Use of translation machines and artificial intelligence (DeepL, Google Translate, etc) is not the students' original work and therefore should not be used. Students should be diligent, creative, and remember that they do not need perfect English.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Orientation, self-introduction activity Course overview and expectations Listening exercise and discussion ①② Unit 1 This is me (1) Vocabulary ③ Self-introductions	Buy textbook, prepare for vocabulary quiz	1時間
第2回 Unit 1: Listen and Speak / Unit 1: Conversation and Listening Vocabulary quiz Listening exercise and discussion ①② Unit 1 This is me (2) Listen and Speak ③ Unit 1 How was your vacation? (1) Conversation and Listening Reflection activity	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第3回 Unit 1: Watch and Speak / Unit 1: Pronunciation and Speaking Vocabulary quiz Listening exercise and discussion ①② Unit 1 This is me (3) Watch and Speak ③ Unit 1 How was your vacation? (2) Pronunciation and Speaking Reflection activity	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第4回 Unit 2: Vocabulary / Unit 2: Conversation and Listening Vocabulary quiz Listening exercise and discussion ①② Unit 2 What is home? (1) Vocabulary ③ Unit 2 I think it's boring! (1) Conversation and Listening Reflection activity	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第5回 Unit 2: Listen and Speak / Unit 2: Pronunciation and Speaking Vocabulary quiz Listening exercise and discussion ①② Unit 2 What is home? (2) Listen and Speak ③ Unit 2 I think it's boring! (2) Pronunciation and Speaking Explanation of Presentation 1 Reflection activity	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第6回 Unit 2: Watch and Speak / Unit 3: Conversation and Listening	Prepare for presentation 1	1時間

	<p>Vocabulary quiz Listening exercise and discussion</p> <p>①② Unit 2 What is home? (3) Watch and Speak ③ Unit 3 Do it before you're 30! (1) Conversation and Listening</p> <p>Presentation 1 preparation Reflection activity</p>		
第7回	<p>Presentation 1</p> <p>Presentations, peer evaluations, self-reflections</p>	Prepare for vocabulary quiz	1時間
第8回	<p>Unit 3: Vocabulary / Unit 3: Pronunciation and Speaking</p> <p>Vocabulary quiz Listening exercise and discussion</p> <p>①② Unit 3 Tracking Life (1) Vocabulary ③ Unit 3 Do it before you're 30! (2) Pronunciation and Speaking</p> <p>Explanation of Presentation 2 Reflection activity</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第9回	<p>Unit 3: Listen and Speak / Unit 4: Conversation and Listening</p> <p>Vocabulary quiz Listening exercise and discussion</p> <p>①② Unit 3 Tracking Life (2) Listen and Speak ③ Unit 4 The best place in the world! (1) Conversation and Listening</p> <p>Reflection activity</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第10回	<p>Unit 3: Watch and Speak / Unit 4: Pronunciation and Speaking</p> <p>Vocabulary quiz Listening exercise and discussion</p> <p>①② Unit 3 Tracking Life (3) Watch and Speak ③ Unit 4 The best place in the world! (2) Pronunciation and Speaking</p> <p>Reflection activity</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第11回	<p>Unit 4: Vocabulary / Unit 5: Conversation and Listening</p> <p>Vocabulary quiz Listening exercise and discussion</p> <p>①② Unit 4 Food Matters (1) Vocabulary ③ Unit 5 Where's the party? (1) Conversation and Listening</p> <p>Reflection activity</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第12回	<p>Unit 4: Listen and Speak / Unit 5: Pronunciation and Speaking</p> <p>Vocabulary quiz Listening exercise and discussion</p> <p>①② Unit 4 Food Matters (2) Listen and Speak ③ Unit 5 Where's the party? (2) Pronunciation and Speaking</p> <p>Explanation of Presentation 2 Reflection activity</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第13回	<p>Unit 4: Watch and Speak / Presentation 2 preparation</p> <p>Vocabulary quiz Listening exercise and discussion Presentation 2 Explanation ①② Unit 4 Food Matters (3) Watch and Speak ③ Preparation for presentation 2</p>	Presentation preparation	1時間
第14回	<p>Presentation 2, Peer evaluations</p> <p>Presentations, peer evaluation, self-reflection. Review of course material for final exam.</p>	Prepare for final exam	1時間

授業科目名	Conversation Skills A③④⑤				
担当教員名	エリック、竹内ニコール、天羽美帆				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	practices				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、スピーキングの基礎的な能力の修得を目標とする。具体的には、テキストを用いて多くの演習に取り組むなかで、基本的語彙を増やしながら英語の音声の特徴についての理解を深め、日常的な発話や比較的身近なテーマに関する内容について正確に話せることのできるスピーキング能力を育てていく。また、グループやペアでのコミュニケーショントレーニングを取り入れて、理解される発音、リズム、適切なスピードに気をつけて演習を行うことを加える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

Students will be able to understand international cultural issues that affect communication, both positively and negatively.

目標：

They will be able to better understand holidays and celebrations, personal relations, professionalism, and family as it relates to English-speaking countries' culture.

汎用的な力

1. DP8. 他者とのコミュニケーション

Students will be able to communicate their thoughts and intentions in English.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

Students will also be assessed on

1. timeliness and completion of homework assignments
2. vocabulary quizzes and/or tests, with focus on collocations and context
3. class participation and use of English; teamwork in group situations
4. participation in class activities

Students will receive constant feedback from the instructor throughout the term.

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Homework, Quizzes	:	Students will be evaluated on accuracy, timeliness, and/or effort depending on the task type. Quizzes will be based on vocabulary tasks.
		30 %
Mid-term Test/Project	:	Students will have a cumulative tests or finish a speaking project to assess learning goals for the term. Projects will be assessed by using a rubric.
		35 %
Class Participation, English Use	:	Students are expected to participate in class in English, attend Kobetsu Shido

activities, and contribute to an active learning environment.

20 %

Final Speaking Project

: The Project will be assessed by using a rubric.

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Wilson, K	Smart Choice Fourth Edition Level 2 Student Book with Online Practice	Oxford University Press	2020 年

参考文献等

Wilson, K Smart Choice Fourth Edition Level 2 Workbook Oxford University Press 2020年
 ISBN-10 : 0194061140
 ISBN-13 : 978-0194061148

Students will be given some additional materials and assignments according to their levels.

履修上の注意・備考・メッセージ

Students will participate in a wide range of activities, with plenty of opportunities to practice speaking. Students will have formal and informal assessments, and speaking projects and presentations throughout the term. These projects and presentations may be individual or group-based. Students will be assessed in oral presentations based on their ability to

1. communicate clearly and effectively in a range of situations, showing their language skills and basic intercultural understanding
2. use appropriate language based on different cultural, situational, or interpersonal situations
3. understand and speak with accuracy and fluency in a variety of situations
4. organize and present their ideas logically
5. understand and respond to a variety of spoken texts

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間 : TBA

場所 : TBA

備考・注意事項 : Students will be notified of office hours during the first class.

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Orientation/ Unit 1 Introduction Orientation Unit 1 How was your vacation? Listening: Talking about vacation classes Speaking: What did you do on vacation	Vocabulary: vacation activities	1時間
第2回 Unit 1 How was your vacation Reading: Zip-lining in Costa Rica Writing: An email about a school project Pronunciation: Word stress	Grammar: agreeing and disagreeing	1時間
第3回 Unit 2 I think it's boring Listening: Interviewing people who work in movies and music Speaking: You and the movies Reading: Action men (and women) Writing: A blog post about movies Pronunciation: Final -ed sounds	Vocabulary: movies and music	1時間
第5回 Unit 3 Do it before you're 30 Listening: Talking about personal experiences for a job application Speaking: Find someone who has	Vocabulary: extreme sports and activities	1時間
第6回 Unit 3 Do it before you are 30 Reading: Have you ever seen anything like this?: Alex Honnold Writing: An email finding out about another country Pronunciation: Linked sounds	Grammar: the present perfect; Preparation for the mid-term project	1時間
第7回 Presentation Project Give a presentation about a vacation destination. Give your opinions about the destination.	Preparation for unit 4	1時間
第8回 Unit 4 The best place in the world Listening: People taking part in a quiz Speaking: Geography quiz Reading: Where are the green est places on earth Writing: An email about your city Pronunciation: Reduction of t	Vocabulary: natural features	1時間
第10回 Unit 5 Where's the party Listening: New Year's tradition Speaking: My favorite months Reading: Festival time in Asia Writing: A description of a party Pronunciation: Intonation of adverbial clauses	Vocabulary: special events	1時間

第12回	Unit 6 You should try it Listening: Advice for people who want to change their lifestyles Speaking: Living a healthy lifestyle	Vocabulary: healthy and unhealthy activities	1時間
	Reading: Do you have low self-esteem Writing: An email about a class Pronunciation: Reduction of have to and has to		
第14回	Review Do BONUS exercises	Finish the remaining BONUS exercises	1時間

授業科目名	Conversation Skills B①②				
担当教員名	竹内ニコール				
学年・コース等	2・3年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

This course is designed to further develop the content of Conversation Skills A and to acquire more advanced conversational skills in English. In addition to practicing appropriate communication for studying and/or living abroad, students will learn expressions and vocabulary necessary for working in international settings, and acquire expressions and vocabulary for international and intercultural communication. The ability to express one's thoughts in English and English presentations skills will be developed through the course. Students can expect to participate in the annual university presentation contest.

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

Students will practice their speaking and listening skills in English in a variety of international contexts connected to the international tourism business industry.

目標：

By the end of the course, students should be better able to express themselves to people from different linguistic and cultural backgrounds through their English speaking skill

汎用的な力

1. DP 8. 他者とのコミュニケーション

Students will learn how to understand the needs of tourists in a variety of cultural contexts. Students will practice skills connected to the international tourism industry.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

Students must turn in their assignments on time. All presentations must be made on presentation day. Late work and assignments will be reflected in the student's assessment for the course. A pro-active attitude toward all in-class speaking activities is necessary.

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

In-class assignments/activities	30 %	:	In-class assignments and activities will be done regularly during class and will be evaluated. *In the case of non-official absences in-class assignments and activities will not be able to be made up.
Quizzes	20 %	:	It is important that students develop their vocabulary. Quizzes will be frequent and cumulative.
Presentations		:	Students will give presentations and be evaluated on a rubric. Students will also prepare for and participate in the university presentation contest.

Homework	30 %	:	Students will receive a grade for homework completion.
Final Exam	10 %	:	Students will be assessed on the cumulative material from the semester.
	10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Cynthia Fetting	・ Reflect Listening & Speaking 1 (ISBN 978-0-357-44917-2)	・ National Geographic Learning	・ 2022 年
Ken Wilson	・ Smart Choice 2 (ISBN: 978-0-19-406114-8)	・ Oxford University Press	・ 2020 年

参考文献等

クラスによって購入するテキストが変わりますので十分に注意してください（各クラス1冊です）。

クラス①② : Reflect Listening & Speaking 1 (ISBN 978-0-357-44917-2)

クラス③ : Smart Choice 2 (ISBN: 978-0-19-406114-8)

履修上の注意・備考・メッセージ

All students will be responsible for their own work. Use of translation machines and artificial intelligence (DeepL, Google Translate, etc) is not the students' original work and therefore should not be used. Students should be diligent, creative, and remember that they do not need perfect English.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか かかる目安の時間

第1回	<p>Orientation, Presentation contest explanation and preparation, Communication activity</p> <p>Course overview and expectations Summer break discussion Listening exercise and discussion</p> <p>①② Unit 5 More than a game (1) Vocabulary ③ Summer break communication activity</p> <p>Explanation of and preparation for the University Presentation Contest</p>	Prepare for vocabulary quiz and University Presentation Contest	1時間
第2回	<p>Unit 5: Listen and Speak / Unit 7: Conversation and Listening</p> <p>Vocabulary quiz Listening and discussion</p> <p>①② Unit 5 More than a game (2) Listen and Speak ③ Unit 7 There are too many stores! (1) Conversation and Listening</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz and University Presentation Contest	1時間
第3回	<p>Unit 5: Watch and Speak / Unit 7: Pronunciation and Speaking</p> <p>Vocabulary quiz Listening and discussion</p> <p>①② Unit 5 More than a game (3) Watch and Speak ③ Unit 7 There are too many stores! (2) Pronunciation and Speaking</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz and University Presentation Contest	1時間
第4回	<p>Presentation Contest Practice</p> <p>Students will engage in a practice performance for the University Presentation Contest.</p> <p>Peer and self-evaluations.</p>	Presentation Contest Preparation	1時間
第5回	<p>Presentation Contest</p> <p>Students will participate in the University Presentation Contest. They will be evaluated according to the University Presentation Contest rubric.</p>	Prepare for vocabulary quiz	1時間
第6回	<p>Unit 6: Vocabulary / Unit 8: Conversation and Listening</p> <p>Vocabulary quiz Listening and discussion</p> <p>①② Unit 6 Everyday entertainment (1) Vocabulary ③ Unit 8 Wanted: People who can sing (1) Conversation and Listening</p>	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間

第7回	Unit 6: Listen and Speak / Unit 8: Pronunciation and Speaking Vocabulary quiz Listening and discussion ①② Unit 6 Everyday entertainment (2) Listen and Speak ③ Unit 8 Wanted: People who can sing (2) Pronunciation and Speaking	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第8回	Unit 6: Watch and Speak / Unit 9: Conversation and Listening Vocabulary quiz Listening and discussion ①② Unit 6 Everyday entertainment (3) Watch and Speak ③ Unit 9 What were you doing? (1) Conversation and Listening	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第9回	Unit 7: Vocabulary / Unit 9: Pronunciation and Speaking Vocabulary quiz Listening and discussion ①② Unit 7 Do what you love (1) Vocabulary ③ Unit 9 What were you doing? (2) Pronunciation and Speaking	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第10回	Unit 7: Listen and Speak / Unit 10: Conversation and Speaking Vocabulary quiz Listening and discussion ①② Unit 7 Do what you love (2) Listen and Speak ③ Unit 10 I used to sing (1) Conversation and Listening	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第11回	Unit 7: Watch and Speak / Unit 10: Pronunciation and Speaking Vocabulary quiz Listening and discussion ①② Unit 7 Do what you love (3) Watch and Speak ③ Unit 10 I used to sing (2) Pronunciation and Speaking	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz	1時間
第12回	Unit 8: Vocabulary / Unit 11: Conversation and Listening Vocabulary quiz Listening and discussion ①② Unit 8 Big effects (1) Vocabulary ③ Unit 11 You'll save money if.. (1) Conversation and Listening Presentation 2 Explanation	Homework corresponding to unit (details given in class by instructor), prepare for vocabulary quiz, Presentation 2 preparation	1時間
第13回	Unit 8: Listen and Speak / Unit 11: Pronunciation and Speaking Vocabulary quiz Listening and discussion ①② Unit 8 Big effects (2) Listen and Speak ③ Unit 11 You'll save money if.. (2) Pronunciation and Speaking	Presentation preparation	1時間
第14回	Presentations, Review for Final Exam Presentations, peer- and self-evaluation. Review of course material for final exam	Review for final exam	1時間

授業科目名	Conversation Skills B③④⑤				
担当教員名	エリック、竹内ニコール				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	practices				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、スピーキングの基礎的な能力の修得を目標とする。具体的には、テキストを用いて多くの演習に取り組むなかで、基本的語彙を増やしながら英語の音声の特徴についての理解を深め、日常的な発話や比較的身近なテーマに関する内容について正確に話せることのできるスピーキング能力を育てていく。また、グループやペアでのコミュニケーショントレーニングを取り入れて、理解される発音、リズム、適切なスピードに気をつけて演習を行うことを加える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

Students will be able to understand international cultural issues that affect communication, both positively and negatively.

目標：

They will be able to better understand holidays and celebrations, personal relations, professionalism, and family as it relates to English-speaking countries' culture.

汎用的な力

1. DP8. 他者とのコミュニケーション

Students will be able to communicate their thoughts and intentions in English.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

Students will also be assessed on

1. timeliness and completion of homework assignments
2. vocabulary quizzes and/or tests, with focus on collocations and context
3. class participation and use of English; teamwork in group situations
4. participation in class activities

Students will receive constant feedback from the instructor throughout the term.

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Homework, Quizzes	:	Students will be evaluated on accuracy, timeliness, and/or effort depending on the task type. Quizzes will be based on vocabulary tasks.
30 %		
Mid-term Test/Project	:	Students will have a cumulative test or finish a speaking project to assess learning goals for the mid term.
35 %		
Class Participation, English Use	:	Students are expected to participate in class in English, attend Kobetsu Shido

activities, and contribute to an active learning environment.

20 %

Final Speaking Project

: The Project will be assessed by using a rubric.

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Wilson, K	Smart Choice Fourth Edition Level 2 Student Book with Online Practice	Oxford University Press	2020 年

参考文献等

Wilson, K. (2020) Smart Choice Fourth Edition Level 2 Workbook Oxford University Press
 ISBN-10 : 0194061140
 ISBN-13 : 978-0194061148

Students will be given some additional materials and assignments according to their levels.

履修上の注意・備考・メッセージ

Students will participate in a wide range of activities, with plenty of opportunities to practice speaking. Students will have formal and informal assessments, and speaking projects and presentations throughout the term. These projects and presentations may be individual or group-based. Students will be assessed in oral presentations based on their ability to

1. communicate clearly and effectively in a range of situations, showing their language skills and basic intercultural understanding
2. use appropriate language based on different cultural, situational, or interpersonal situations
3. understand and speak with accuracy and fluency in a variety of situations
4. organize and present their ideas logically
5. understand and respond to a variety of spoken texts

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間 : TBA

場所 : TBA

備考・注意事項 : Students will be notified of office hours during the first class.

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Orientation/ Unit 7 There are too many stores Listening: People talk about shopping habits Speaking: A shopping game	Vocabulary: things to buy	1時間
第2回 Unit 7 There are too many stores Reading: A different kind of shopping mall Writing: A blog about your favorite place to shop Pronunciation: Word stress in complaints	Grammar: too/not enough; too many/too much	1時間
第3回 Unit 8 Wanted: People who can sing Listening: Phone conversation about house-sitting Speaking: The most important thing to me Reading: How to impress an interviewer Writing: An email about you and your preferences Pronunciation: Word stress and content words	Vocabulary: describe personality	1時間
第5回 Unit 9 What were you doing Listening: People describe an accident Speaking: Have you ever	Vocabulary: accidents and injuries	1時間
第6回 Unit 9 What were you doing Reading: Six-year-old boy drives mon`s car to school Writing: A paragraph about something that happened to you Pronunciation: Linked sounds with /y/	Grammar: the past continuous; Preparation for the mid-term project	1時間
第7回 Mid-term project Give a presentation about an international vacation destination. Give your opinions about the destination. Use personal experience.	Preparation for unit 10	1時間
第8回 Unit 10 I used to sing Listening: People talk about their family history Speaking: Find someone who used to Reading: Ten things you didn`t know about Lady Gaga Writing: Comments on a website about the past habits Pronunciation: Linking and vowel reduction in used to	Vocabulary: school activities and clubs	1時間
第10回 Unit 11 You`ll save money if Listening: Radio interview about single-use plastics Speaking: How green are you Reading: And now the good news Writing: An email about a local environmental problem	Vocabulary: recycling	1時間
第12回 Unit 12 You could be a lifeguard Listening: Talking about study and career plans Speaking: What next	Vocabulary: vacation jobs	1時間

	Reading: A volunteer vacation Writing: An email asking about another country Pronunciation: Reduction of must be, can t be, and mi ght be		
第14回	Review Do BONUS exercises	finish the remaining BONUS exercises	1時間

授業科目名	Conversation Skills C				
担当教員名	竹内ニコール				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

This course is meant to develop students' English communication skills through a variety of listening, speaking, and critical thinking activities. Using interesting and relevant audio and video resources, students will learn to express their thoughts on and exchange opinions about a wide variety of topics. Students will be expected to review grammar and vocabulary on their own time in preparation for class. A proactive attitude towards communicating in English and a desire to improve is necessary.

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

Intercultural understanding

目標：

Through exposure to non-stereotypical content about different cultures, students will develop their intercultural understanding and develop a sense of global citizenship.

汎用的な力

1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP 8. 他者とのコミュニケーション
3. DP 9. 他者との協調・協働

Through exposure to content about different ways of life, students will be able to recognize issues and challenges they themselves and others are faced with.

Students will regularly communicate their thoughts and opinions with others in the class through group work and pair work.

Students will develop skills in effective group collaboration.

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Participation	25 %	:	Participation during speaking activities, pair work, and group work will be evaluated and make up 25% of the final grade.
In-class assignments	25 %	:	All assignments will be evaluated and count as 25% of the final grade.
Presentations	25 %	:	Two presentations will be done throughout the semester, and will count for 25% of the final grade.
Vocabulary quizzes	5 %	:	Regular vocabulary quizzes will be done, and will count for 5% of the final grade.
Homework	10 %	:	Homework will be checked for accuracy and completion and will count for 10% of the final grade. Completion of homework is necessary in order to do speaking and listening activities.

Final report : A final report will be given which is worth 10% of the final grade.

10 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Jonathan Bygrave	・ Reflect Listening & Speaking 2 (ISBN 978-0-357-44918-9)	・ National Geographic Learning	・ 2022 年

参考文献等

There are several books in this series, students should be careful not to order the wrong one.

The ISBN for the text is:

978-0-357-44918-9

履修上の注意・備考・メッセージ

***Please do not buy used textbooks as the code for the student resources becomes inactive after one year.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項: Before and after class or appointment by email: takeuchi-ni @ g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Orientation, Unit 1 Welcome to the neighborhood: Sociology (1) Listen & speak Course orientation Vocabulary activity Listen & speak Presentation 1 outline (presentation 1 will be done in Week 7)	Buy textbook, Unit 1 grammar and unit task	1時間
第2回 Unit 1 Welcome to the neighborhood: Sociology (2) Watch & listen Prepare to watch Watch & listen pair work: complete Unit task 1	Unit 1 grammar and unit task, presentation 1 preparation	1時間
第3回 Unit 2 Oldest, middle, youngest: Psychology/Sociology (1) Listen & speak Vocabulary activity Listen & speak	Unit 2 grammar and unit task, presentation 1 preparation	1時間
第4回 Unit 2 Oldest, middle, youngest: Psychology/Sociology (2) Watch & listen Prepare to watch Watch & listen pair work: complete Unit task 2	Unit 2 grammar and unit task, presentation 1 preparation	1時間
第5回 Unit 3 I'm a big fan: Music (1) Listen & speak Vocabulary activity Listen & speak	Unit 3 grammar and unit task, presentation 1 preparation	1時間
第6回 Unit 3 I'm a big fan: Music (2) Watch & listen Prepare to watch Watch & listen pair work: complete Unit task 3	Unit 3 grammar and unit task, presentation 1 preparation	1時間
第7回 Presentation 1, Peer evaluations Student presentations Peer and self-evaluations	Review of units 1-3	1時間
第8回 Unit 4 The beauty of science: Science (1) Listen & speak Watch & listen Vocabulary activity Listen & speak Presentation 2 outline	Unit 4 grammar and unit task, presentation 2 preparation	1時間
第9回 Unit 4 The beauty of science: Science (2) Prepare to watch Watch & listen pair work: complete Unit task 4	Unit 4 grammar and unit task, presentation 2 preparation	1時間
第10回 Unit 5 Why we buy: Marketing (1) Listen & speak	Unit 5 grammar and unit task, presentation 2 preparation	1時間

	Vocabulary activity Listen & speak		
第11回	Unit 5 Why we buy: Marketing (2) Watch & listen Prepare to watch Watch & listen pair work: complete Unit task 5	Unit 6 grammar and unit task, presentation 2 preparation	1時間
第12回	Unit 6 Animal Magic: Environmental Science (1) Listen & speak Vocabulary activity Listen & speak	Unit 6 grammar and unit task, presentation 2 preparation	1時間
第13回	Unit 6 Animal Magic: Environmental Science (2) Watch & listen Prepare to watch Watch & listen pair work: complete Unit task 6	Unit 6 grammar and unit task, presentation 2 preparation	1時間
第14回	Presentation 2, Peer evaluations Student presentations Peer and self-evaluations Review for final report	Review for final report	1時間

授業科目名	English for Business 1 ②③④⑤				
担当教員名	リング				
学年・コース等	2年生以上	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現の定着を土台に幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、演習問題に取り組む。ビジネスシーンでの英語表現については、さらに、TOEICなどの英語検定にも対応できる力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用
2. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

ビジネスで必要とされる丁寧な英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。

英語の4技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。

目標：

言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。

ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして失礼のない英語を話す大切さを学ぶ。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP8. 他者とのコミュニケーション

課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業参加・課題

評価の基準

： 協同学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。

40 %

小テスト

： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。

10 %

プレゼンテーション・プロジェクト

： 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。

30 %

期末考査

： 授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Tae Kudo	・ Successful Office English	・ Cengage Learning K.K.	・ 2018 年
Takehiko Ohsawa & Ryuichiro Tsutsumi	・ Newspaper English [Revised Edition]	・ Nanundo	・ 2018 年

参考文献等

適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
- 「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計1時間を目安にするといいでしょ。
- 授業参加は全体評価の40%です。授業を欠席した場合は、授業での協働作業や発表がないため参加点はありません。ご注意ください。
- 毎回、授業内に小テストを実施します。
- 毎回、授業終了時に宿題が出されます。
- 授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
- 第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。
場所： 初回授業で案内します。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Class introduction & Unit 1: Speaking & Listening Introductions (1): Introducing yourself/others and describing your job 初対面の挨拶や仕事内の説明に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回 Unit 1: Reading and Writing Introductions (2): Introducing yourself/others and describing your job 初対面の挨拶や仕事内容の説明に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 1): Sanrio takes big risk with new strategy	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回 Unit 2: Speaking & Listening Telephone Calls (1): Talking on the phone and taking a message 電話の応答や伝言の受け方などに役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 2): New nine-year school category eyed	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回 Unit 2: Reading and Writing Telephone Calls (2): Talking on the phone and taking a message 電話の応答や伝言の受け方などに役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 3): Species going extinct up to 1,000 times faster than normal	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回 Unit 3: Speaking & Listening Making an Inquiry (1): Asking about a product/price and responding to an inquiry 製品や金額に関する問い合わせ方法や対応の際に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 4): Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回 Unit 3: Reading and Writing Making an Inquiry (2): Asking about a product/price and responding to an inquiry 製品や金額に関する問い合わせ方法や対応の際に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 5): Mountain Day created as newest official public holiday	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回 Unit 4: Speaking & Listening Making an Appointment (1): Making an appointment and changing an existing appointment 約束のとりつけや変更の際に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 6): Simplest animals may help cure brain disease	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回 Unit 4: Reading and Writing Making an Appointment (2): Making an appointment and changing an existing appointment 約束のとりつけや変更の際に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 7): One-third of all people are now fat, and no country is immune - Study	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回 Unit 5: Speaking & Listening	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

	<p>Receiving a Visitor (1): Welcoming a visitor in the reception area or at the airport 受付での来客対応や空港などでの出迎えに役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 8): Superbug threat requires urgent world action - Scientists</p>		
第10回	<p>Unit 5: Reading and Writing</p> <p>Receiving a Visitor (2): Welcoming a visitor in the reception area or at the airport 受付での来客対応や空港などでの出迎えに役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 9): Japan neglecting wetlands - Ministry</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	<p>Unit 6: Speaking & Listening</p> <p>Invitations (1): Entertaining a business partner and making small talk 接待に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 10): In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	<p>Unit 6: Reading and Writing</p> <p>Invitations (2): Entertaining a business partner and making small talk 接待に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	<p>Unit 7&8: Presentation (1)</p> <p>Presentations (1): Starting a presentation with a self-introduction and an outline / Introducing a new product in a presentation プレゼンテーションを始める際の挨拶、会社概要説明、新製品紹介に役立つ表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるプレゼンテーションに向けた資料作成や発表準備を行う。 Laptop Computerを持参すること。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	<p>Unit 7&8: Presentation (2)</p> <p>Presentations (2): Starting a presentation with a self-introduction and an outline / Introducing a new product in a presentation 挨拶、会社概要説明、新製品紹介に役立つ表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるプレゼンテーションを行う。 Laptop Computerを持参すること。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

授業科目名	English for Business 1①				
担当教員名	坂井純子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講座は、実践的なビジネス英語を学び、TOEICで600点超を達成する英語力を身に付けることを目標としています。授業は担当教員の指導のもと、ビジネス英語/TOEIC指導に長けた外部講師が授業を行う形で進めます。TOEIC問題演習を通して、英語で英語を聴解する力および読解する力を総合的に伸ばし、且つ文法の知識を身に着けます。語彙については、翌授業において前回既習箇所の小テストを行い、知識の定着を図るため、しっかりと復習することが求められます。

また、授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、協働学習による目標達成への連帯感と動機付けを図りつつ、英語コミュニケーション力の育成と、TOEICや英検などの英語検定にも対応できる力を培います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

ビジネス現場で役立つ実践的な英語力を身に着ける

目標：

ビジネスシーンで用いられる会話における基本的な英語の語彙や表現が正しく理解できるようになる

汎用的な力

1. DP 5. 課題解決に向けての方策の企画・立案
2. DP 6. 課題解決への主体的・積極的な取組み
3. DP 8. 他者とのコミュニケーション

自分で決めた学習計画に基づき、工夫を凝らしながらスキルを磨いていくことができる

目標達成のために、授業外でも時間を学習時間を設け、計画通り取り組むことができる

学習した知識を用いて、他者とのコミュニケーションに積極的に活用することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

- 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
- 私語や携帯電話等の不要な使用などが目立つ場合、授業への積極的な参加の意欲がないものとみなします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末定期試験

： 試験の得点で評価します。

30 %

小テスト

： 小テストでは前回の授業内容の理解度を評価します。

40 %

参加度

： 質問や自分の考え・意見の発表に、積極的に取り組んでいるかを評価します。

30 %

使用教科書

指定する

著者

北尾泰幸、西田晴美、林姿徳、
Brian Covert

TEX加藤

タイトル

・ 一歩上を目指すTOEIC® LISTENING
AND READING TEST: Level 2

・ TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀
のフレーズ

出版社

・ 朝日新聞出版

・ 朝日新聞出版

出版年

・ 年

・ 年

参考文献等

「一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 2」 ISBN-13: 978-4255155951
「TOEIC® L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」 ISBN-13: 「978-4023316843

履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。
● 毎回、授業内に小テストを実施します。
● 毎回、授業終了時に宿題が出されます。
● 第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 初回授業で案内します。
場所： 初回授業で案内します。
備考・注意事項： 質問等があれば、osaka.seikei@ecc.co.jpまでメールにてご連絡ください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション・TOEIC試験のコツ 授業の概要、およびTOEIC®テストの概要について理解する。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回 Unit1 Eating Out 文法：動詞（1） 外食に関する語句・表現、動詞の過去形・過去分詞形について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回 Unit2 Travel 文法：動詞（2） 旅行に関する語句・表現、自動詞・他動詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回 Unit3 Amusement 文法：品詞 娯楽に関する語句・表現、品詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回 Unit4 Meetings 文法：分詞 会議に関する語句・表現、分詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回 Unit5 Personnel 文法：不定詞と動名詞（1） 人事に関する語句・表現、不定詞・動名詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回 Unit6 Shopping 文法：不定詞と動名詞（2） 買い物に関する語句・表現、使役動詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回 Unit7 Advertisement 文法：仮定法 広告に関する語句・表現、仮定法について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回 Unit8 Daily Life 文法：受動態 日常生活に関する語句・表現、受動態について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第10回 Unit9 Office Work 文法：代名詞 オフィス業務に関する語句・表現、代名詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回 Unit10 Business 文法：数量詞・比較 ビジネスに関する語句・表現、数量詞・比較について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回 Unit11 Traffic 文法：接続詞 交通に関する語句・表現、接続詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回 Unit12 Finance and Banking 文法：前置詞 財務や金融機関に関する語句・表現、前置詞について学ぶ。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回 前期の既習事項の復習 前期に習った重要語句・表現・文法事項について総復習する。習った表現を使ってスピーキング練習も行う。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

授業科目名	English for Business 2①				
担当教員名	山川温				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現を土台にした、幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。TOEIC試験で頻出されるビジネス関連のリスニング・リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、コミュニケーションに焦点をあてたアプローチを採用し、演習問題に取り組む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用
2. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

ビジネスで必要とされる英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。

英語の4技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。

目標：

言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。

ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして必要な英語を話す大切さを学ぶ。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP8. 他者とのコミュニケーション

課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業参加・課題

40 %

小テスト

10 %

プレゼンテーション

20 %

期末考査

30 %

評価の基準

： 協働学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。

： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。

： 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。

： 授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Teruhiko Kadoyama & Simon Capper	・ A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 3: Advanced	・ Sibido	・ 2024 年

参考文献等

適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
- 「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計1時間を目安にするといいでしょよう。
- 授業参加は全体評価の40%です。授業を欠席した場合は、授業での協働作業や発表については「参加0」となります。ご注意ください。
- 毎回、授業内に小テストを実施します。
- 毎回、授業終了時に家庭学習課題が課されます。
- 授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
- 第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Class introduction & Unit 1: Restaurants ●レストランや食事の場面設定に関連する重要語句・表現を身につける、英文の処理力をつける。 ●品詞 1	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第2回 Unit 2: Offices ●オフィスに関する語彙・表現を身につけ、オフィス関連の英文から情報を正確に読み取る。 ●動詞の形 1	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第3回 Unit 3: Daily Life ●日常的な場面設定での語彙や表現をおさえ、英文を処理する力をつける。 ●品詞 2	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第4回 Unit 4: Personnel ●人事に関する必須語彙・表現をおさえ、関連する英文を処理する力をつける。 ●品詞 3	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第5回 Unit 5: Shopping ●買い物に関する必須語彙・表現をおさえ、関連する英文をすばやく読む力をつける。 ●動詞の形 2	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第6回 Unit 6: Finances ●お金やそのやりとりに関する語彙や表現をおさえ、英文を読む力をつける。 ●語彙	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第7回 Unit 7: Transportation ●移動や移動手段に関する語彙や表現をおさえ、それらを元にして英文への対応力を強化する。 ●代名詞 1	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第8回 Unit 8: Technology ●現代の様々なテクノロジーに関する語彙や表現をおさえ、英文への対応力をつける。 ●前置詞	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第9回 Unit 9: Health ●医療や健康に関する語彙や表現をおさえ、英文への対応力をつける。 ●接続詞	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第10回 Unit 10: Travel	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ●旅行に関する語彙や表現をおさえ、英文への対応力をつける。 ●動詞の形 3 		
第11回	Unit 11: Business <ul style="list-style-type: none"> ●ビジネス全般の場面設定に関する幅広い語彙や表現をおさえ、英文への対応力をつける。 ●句動詞 	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第12回	Unit 12: Entertainment <ul style="list-style-type: none"> ●娯楽や趣味に関する語句や表現をおさえ、英文への対応力をつける。 ●慣用句 	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第13回	Unit 13: Education <ul style="list-style-type: none"> ●教育に関連する語句や表現をおさえ、英文への対応力をつける。 ●代名詞 2 	復習：本時で学習した語句・表現を反復練習する。予習：次回ユニットの「解放のコツ」を読み、問題を解き、質問を準備してくる。	1時間
第14回	Unit 14: Housing <ul style="list-style-type: none"> ●住宅や不動産に関する語句や表現をおさえ、英文への対応力をつける。 ●動詞の形 4 	定期試験に備えて、復習する。	1時間

授業科目名	English for Business 2②③				
担当教員名	山川温				
学年・コース等	2年生以上	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現の定着を土台に幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、演習問題に取り組む。ビジネスシーンでの英語表現については、さらに、TOEICなどの英語検定にも対応できる力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	ビジネスで必要とされる丁寧な英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。	言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。
2. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上	英語の4技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。	ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして失礼のない英語を話す大切さを学ぶ。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用		課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。
2. DP8. 他者とのコミュニケーション		グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業参加・課題	： 協同学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。
40 %	
小テスト	： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。
10 %	
プレゼンテーション・プロジェクト	： 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。
30 %	
期末考査	： 授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。
20 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Tae Kudo	・ Successful Office English	・ Cengage Learning K.K.	・ 2018 年
Takehiko Ohsawa & Ryuichiro Tsutsumi	・ Newspaper English [Revised Edition]	・ Nanundo	・ 2018 年

参考文献等

適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
- 「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計1時間を目安にするといいでしょ。
- 授業参加は全体評価の40%です。授業を欠席した場合は、授業での協働作業や発表がないため参加点はありません。ご注意ください。
- 毎回、授業内に小テストを実施します。
- 毎回、授業終了時に宿題が出されます。
- 授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
- 第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。
場所： 初回授業で案内します。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にか かかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回 Class introduction & Unit 9: Speaking & Listening Presentation 3 (1): Answering questions following a talk about anew product プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回 Unit 9: Reading and Writing Presentation 3 (2): Answering questions following a talk about anew product プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 11): WHO urged not to restrict e-cigarettes	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回 Unit 10: Speaking & Listening Online Meetings (1): Participating in a video conference and sharing your opinions ビデオ会議で表現と意見を伝える方法に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 12): Baby boomers becoming gray gang	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回 Unit 10: Reading and Writing Online Meetings (2): Participating in a video conference and sharing your opinions ビデオ会議で表現と意見を伝える方法に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Reading (Unit 13): Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回 Unit 11: Speaking & Listening Negotiations (1): Negotiating prices and confirming payment terms 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 14): As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回 Unit 11: Reading and Writing Negotiations (2): Negotiating prices and confirming payment terms 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 15): Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回 Unit 12: Speaking & Listening Placing an Order (1): Ordering a product and changing an order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 16): Easier-to-use retro cell phones making a comeback	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回 Unit 12: Reading and Writing Placing an Order (2): Ordering a product and changing an order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 17): Tokyo to boost foreign-Japanese signs, info ahead of 2020 Olympics	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回 Unit 13: Speaking & Listening	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

	<p>Making a Complaint 1 (1): Making a complaint about a an order 発注商品のトラブルに関するクレームに関する語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 18): Tea, wine steeped in shad history</p>		
第10回	<p>Unit 13: Reading and Writing</p> <p>Making a Complaint 1 (2): Making a complaint about a an order 発注商品のトラブルに関するクレームに関する語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 19): Evidence found of planet that hit Earth, made moon</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	<p>Unit 14: Speaking & Listening</p> <p>Making a Complaint 2 (1): Making a complaint about a bill and payment 請求書や支払いのトラブルに関する語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 20): Stunning pterosaur eggs found</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	<p>Unit 14: Reading and Writing</p> <p>Making a Complaint 2 (1): Making a complaint about a bill and payment 請求書や支払いのトラブルに関する語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	<p>Unit 15: Speaking & Listening</p> <p>Completing a Project (1): Confirming a business agreement and showing appreciation after a project 業務完了時の確認や協力者への誠意の伝え方に関する表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	<p>Unit 15: Reading and Writing</p> <p>Completing a Project (2): Confirming a business agreement and showing appreciation after a project 業務完了時の確認や協力者への誠意の伝え方に関する表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

授業科目名	English for Business 2④⑤				
担当教員名	リング				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、ビジネスの場面でよく使われる語彙や表現の定着を土台に幅広いビジネスコンテキストの深い理解を目標とする。リーディング素材を多用することで、様々なビジネスシチュエーションのインプットを行うと同時に、それぞれのシチュエーションにおけるビジネス慣習に対する理解を深める。授業中にはペアやグループでの活動を積極的に取り入れながら、演習問題に取り組む。ビジネスシーンでの英語表現については、さらに、TOEICなどの英語検定にも対応できる力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用
2. DP3. 環境適応性の理解、適切な組織化とサービス品質の維持・向上

具体的内容：

ビジネスで必要とされる丁寧な英語表現を学習を通して、ビジネスに関する理解を深める。

英語の4技能をバランスよく使用しながら、様々なビジネスシーンを想定したアクティビティを行う。

目標：

言語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、観光関連産業やグローバル産業、地域等において協働することができる。

ビジネスを身近に感じ、ビジネスパーソンとして失礼のない英語を話す大切さを学ぶ。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用
2. DP8. 他者とのコミュニケーション

課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

グループ活動をスムーズに行える英語コミュニケーション能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

授業参加・課題

評価の基準

： 協同学習の目標を念頭に自律学習を含め責任を持ち授業に取り組んでいることが行動に示されているか、授業中での学びを深めるために積極的にリサーチが行えているか、により判断する。

40 %

小テスト

： 自律的に語彙増強に努め、毎回の授業における小テストに意欲的に取り組むことで定着を図ることができているか、により判断する。

10 %

プレゼンテーション・プロジェクト

： 授業内外での学びを集積し、応用することにより発表レベルに高め、自己表現を通して他者への問題提起を行うことができているか、により判断する。

30 %

期末考査

： 授業内外での学びの知識を総合し、提示される問題に対して自らの答えを導き出し、提示することができるかにより判断する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Tae Kudo	・ Successful Office English	・ Cengage Learning K.K.	・ 2018 年
Takehiko Ohsawa & Ryuichiro Tsutsumi	・ Newspaper English [Revised Edition]	・ Nanundo	・ 2018 年

参考文献等

適宜授業内にて紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- 本科目は平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
- 「外学修課題」では、その回の授業内容の復習と次回授業の予習に毎週合計1時間を目安にするといいでしょ。
- 授業参加は全体評価の40%です。授業を欠席した場合は、授業での協働作業や発表がないため参加点はありません。ご注意ください。
- 毎回、授業内に小テストを実施します。
- 毎回、授業終了時に宿題が出されます。
- 授業では、教科書を使用するほか、必要に応じてハンドアウト等を配布します。
- 第1回目の授業で示されるルールを守って受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で案内します。

場所： 初回授業で案内します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Class introduction & Unit 9: Speaking & Listening Presentation 3 (1): Answering questions following a talk about a new product プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第2回 Unit 9: Reading and Writing Presentation 3 (2): Answering questions following a talk about a new product プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 11): WHO urged not to restrict e-cigarettes	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第3回 Unit 10: Speaking & Listening Online Meetings (1): Participating in a video conference and sharing your opinions ビデオ会議で表現と意見を伝える方法に役立つ語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 12): Baby boomers becoming gray gang	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第4回 Unit 10: Reading and Writing Online Meetings (2): Participating in a video conference and sharing your opinions ビデオ会議で表現と意見を伝える方法に役立つ語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Reading (Unit 13): Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第5回 Unit 11: Speaking & Listening Negotiations (1): Negotiating prices and confirming payment terms 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 14): As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第6回 Unit 11: Reading and Writing Negotiations (2): Negotiating prices and confirming payment terms 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 15): Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第7回 Unit 12: Speaking & Listening Placing an Order (1): Ordering a product and changing an order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 16): Easier-to-use retro cell phones making a comeback	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第8回 Unit 12: Reading and Writing Placing an Order (2): Ordering a product and changing an order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 17): Tokyo to boost foreign-Japanese signs, info ahead of 2020 Olympics	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第9回 Unit 13: Speaking & Listening	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

	<p>Making a Complaint 1 (1): Making a complaint about a an order 発注商品のトラブルに関するクレームに関する語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 18): Tea, wine steeped in shad history</p>		
第10回	<p>Unit 13: Reading and Writing</p> <p>Making a Complaint 1 (2): Making a complaint about a an order 発注商品のトラブルに関するクレームに関する語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 19): Evidence found of planet that hit Earth, made moon</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第11回	<p>Unit 14: Speaking & Listening</p> <p>Making a Complaint 2 (1): Making a complaint about a bill and payment 請求書や支払いのトラブルに関する語句・表現を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。 Newspaper Reading (Unit 20): Stunning pterosaur eggs found</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第12回	<p>Unit 14: Reading and Writing</p> <p>Making a Complaint 2 (1): Making a complaint about a bill and payment 請求書や支払いのトラブルに関する語句・表現を使って、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第13回	<p>Unit 15: Speaking & Listening</p> <p>Completing a Project (1): Confirming a business agreement and showing appreciation after a project 業務完了時の確認や協力者への誠意の伝え方に関する表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるスピーキング・リスニング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間
第14回	<p>Unit 15: Reading and Writing</p> <p>Completing a Project (2): Confirming a business agreement and showing appreciation after a project 業務完了時の確認や協力者への誠意の伝え方に関する表現・語句を学び、実際のビジネスシーンに想定されるリーディング・ライティング活動に取り組む。</p>	授業時に学んだ語句・表現を反復練習する。	1時間

授業科目名	専門演習 1 【国観】				
担当教員名	松田充史・原田弘之・東出加奈子・辛川敬・金蘭正・中野毅・西釜義勝				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中野・原田・辛川・尾崎は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本演習では、日本が基幹産業のひとつとして位置づける「観光」及び「グローバル産業」について現状を把握しながら、これまでの研究の流れや産業の仕組みなどを幅広く学んでいきます。具体的には、文献研究等を行い、経営学の主要な概念（例えば経営組織、流通システム、マーケティング、経営戦略等）を用い、さまざまなケースも取り上げ産業の課題に関する考察を行います。また外部講師による講義も取り入れ、グローバルな視野にたった持続可能な産業に対する理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	確かな専門性を磨くため観光関連産業及びグローバル産業の基本的な知識を身につける	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、観光関連産業及びグローバル産業の動向を理解できる。
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	観光関連産業及びグローバル産業における経営戦略について理解する方法を身につける	経営学の点から観光関連産業及びグローバル産業を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用		論理的に考え、課題を明らかにし、主体的・自主的に文献研究ができる。
2. DP 8. 他者とのコミュニケーション		他者の意見をよく聞き、自己の意図を正確に伝えることができる。
3. DP 9. 他者との協調・協働		集団やチームの中で自分の役割を果たし、全体に貢献することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。
フィールド調査の参加、プレゼンテーション内容、発表のスキル、テスト、最終レポートを独自のルーブリックに基づいて評価する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	20 %	：	テーマに沿って書かれているか、指定の形式に沿って書かれているかについて独自のルーブリックに基づいて評価する。
プレゼンテーション	20 %	：	グループおよび個人の研究成果の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講態度	20 %	：	演習への積極的な取り組み方に対し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
ポートフォリオ(学びの記録)		：	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を独自のルーブリックに基づいて評価する。

10 %

期中での提出物

： テーマに対応して書かれているか、求められる分析や考察が十分か、指定した様式に基づいて書かれているかについて評価する。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ、岡田晃編著 (2023) 「経営の視点から考える『新しい観光学』」千倉書房、ISBN 978-4-8051-1275-5
 高橋一夫、柏木千春編著 (2016) 「1からの観光事業論」碩学舎、ISBN 978-4-502-17281-6
 小田部正明・栗木契・太田 一樹編著 (2017) 「1からのグローバル・マーケティング」碩学舎、ISBN978-4-502-21851-4
 味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編 (2017) 『【改訂版】業種把握読本—時代の潮流を的確に把握し、勝ち残るための戦略を立てる』金融ブックス株式会社、ISBN 9784904192719
 西川英彦・廣田章光編著 (2012) 『1からの商品企画』碩学舎、ISBN 978-4-502-69300-7
 その他、随時、文献、論文等紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時にお知らせします

場所： 各研究室（西館）

備考・注意事項： 質問は各担当教員へのメールでも受け付けます。
その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 イントロダクション、研究倫理 授業の目的や目標、進め方など前期・後期授業の概要を説明し、卒業論文までのプロセスを解説する。 「研究倫理教育」：研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての確認を行う。 学修ポートフォリオを作成する。	図書館等での文献検索方法を復習しておくこと	4時間
第2回 観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題①：旅行業 定められた文献等をもとに旅行業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	旅行業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第3回 観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題②：宿泊業 定められた文献等をもとに宿泊業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	宿泊業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第4回 観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題③：航空運送業 定められた文献等をもとに航空運送業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	航空運送業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第5回 観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題④：小売業 定められた文献等をもとに小売業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	小売業についての最新の情報をネット等で調べておく。	4時間
第6回 観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題⑤：製造業 定められた文献等をもとに製造業の現状と経営課題等について読み込み、ワークシートにその要点と分析・考察結果をまとめる。	製造業についての最新の情報をネット等で調べておく。また事後に第7回に向けたプレゼン資料を作成する。	4時間
第7回 観光関連産業及びグローバル産業の現状と経営課題の分析・考察発表会 2～6回に行ったワークの結果を踏まえて、関心ある産業を取り上げ、その現状と経営課題に関する要点と分析・考察についてプレゼン資料にまとめ、発表する。 学修ポートフォリオの中間評価を行う。	発表会のふりかえりシートを作成・提出	4時間
第8回 観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク①：グループ立ち上げと業界リサーチ 上記の2～6回のテーマの中から1を選び、そのテーマについて深掘りするグループワークを行う。テーマに関心のあるメンバーでグループ形成する。基本条件として、テーマを選定し、そのテーマに対応した企業を複数選び、その企業研究を行うことで、その業界の現状と課題を整理し、分析及び考察する。 今回はグループの立ち上げと、テーマの決定、その業界のリサーチを行う。	自分が関心のある業界と企業についてネット等で調べておく	4時間
第9回 観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク②：企業の選定とリサーチ	関心のある企業についてネット等で情報収集しておく。	4時間

	<p>前回の作業を受けて、今回は、業界内の代表的あるいは特徴的な企業を複数選定し、その企業についてリサーチを行う。</p>		
第10回	<p>観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク③：比較検討と分析と考察</p> <p>前回の作業を踏まえて、複数企業に関して比較検討するとともに、その具体事例をもとに、業界の現状や課題、今後のあり方等について分析・考察する。</p>	ふりかえりシートの作成と発表資料の構成イメージの検討	4時間
第11回	<p>観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク④：発表資料の作成</p> <p>これまでの作業を踏まえて、発表資料の作成を、グループメンバーで分担しながら行う。また、発表のための準備を行う。</p>	発表資料を完成させる。	4時間
第12回	<p>観光関連産業及びグローバル産業に関するグループワーク⑤：発表会</p> <p>グループ単位で発表を行い、オーディエンスは質疑応答と評価を行う。</p>	プレゼンの評価シートを作成・提出する。	4時間
第13回	<p>観光関連産業及びグローバル産業に関する動画視聴</p> <p>観光関連産業及びグローバル産業に関する企業等の事例動画について視聴し、その分析・考察を行う。メンバーによる短時間の感想スピーチを行う。</p>	動画視聴に関するふりかえりシートの作成	4時間
第14回	<p>まとめとふりかえり</p> <p>演習全体を総括し、期末レポート課題の提供、学修ポートフォリオの作成を行う。レポート作成にあたり研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについて再確認する。</p>	事前に演習全体のふりかえりを行っておく。	4時間

授業科目名	専門演習 2【国観】				
担当教員名	松田充史・原田弘之・金蘭正・辛川敬・東出加奈子・中野毅・西釜義勝				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中野・原田・辛川、尾崎は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本演習では、日本が基幹産業の一つとして位置づける「観光」及びグローバル産業について現状を把握しながら、これまでの研究の流れや観光関連産業等の仕組み、地域の観光振興事業など幅広く学んでいきます。具体的には、フィールド調査や文献研究等を行い、経営学の主要な概念（例えば流通システム、経営組織、マーケティング戦略等）を用いて企業のみならず地域の課題に関する考察を行い理解を深めます。本演習を通じて、企業や地域における経営者や経営に関わる人材に求められる総合的な課題解決力や思考力を身につけることができます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP 1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	確かな専門性を磨くため地域・自治体等地域組織の基本的な知識を身につける	先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
2. DP 2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	地域・自治体等地域組織について理解する方法を身につける	経営学の視点から地域・自治体等地域組織を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP 4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用		論理的に考え、課題を明らかにし、主体的・自主的に地域研究ができる。
2. DP 8. 他者とのコミュニケーション		他者の意見をよく聞き、自己の意図を正確に伝えることができる。
3. DP 9. 他者との協調・協働		集団やチームの中で自分の役割を果たし、全体に貢献することができる。

学外連携学修

有り(連携先：JTB・高槻市観光協会など)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、不合格とする。
フィールド調査参加、プレゼンテーション内容、発表のスキル、最終レポートを独自のルーブリックに基づいて評価する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

フィールド調査参加	20 %	：	積極的にプロジェクトに参加し、グループ活動内の役割を果たしたかどうかについて、独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
プレゼンテーション	20 %	：	グループの研究結果の発表内容、発表のスキルなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
期末レポート	20 %	：	深く内容を掘り下げているか、考察は十分かなど独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。

ポートフォリオ（学びの記録）	:	「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を独自のルーブリックに基づいて評価する。
		10 %
期中での提出物	:	テーマに対応して書かれているか、求められる分析や考察が十分か、指定した様式に基づいて書かれているかについて評価する。
		30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ、岡田晃編著（2023）「経営の視点から考える『新しい観光学』」千倉書房、ISBN 978-4-8051-1275-5
 高橋 一夫、柏木 千春 他 『1からの観光事業論』（碩学舎 2016）ISBN 978-4-502-17281-6
 吉兼 秀夫、国枝 よしみ 他 『地域創造のための観光マネジメント講座』（学芸出版社2016）ISBN 978-4-7615-2635-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回授業時にお知らせします
場所：	各研究室（西館）
備考・注意事項：	オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。 また、質問は各担当教員のメールでも受け付けます。 その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など後期授業の概要を説明する。卒論までのプロセスを確認しながら、前期で学んだことを振り返る。観光関連の研究の紹介については、地域探究を行い、どのような課題があるか、その解決策を議論する。 また、研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについての確認も行います。 学修ポートフォリオを作成します。	前期の授業の復習をしておくこと	4時間
第2回 国内外の観光をプロモートする旅行会社の仕事について学ぶ 外部講師を招聘し、旅行会社の現状や仕事内容、取り巻く状況、今後の方向性等について学ぶ。	第2回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第3回 地域観光の中核を担うDMOの仕事学ぶ 外部講師として大阪観光局のスタッフを招聘し、DMOの役割と事業、今後の大阪の観光の方向性について学ぶ。	第3回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第4回 地域観光の具体的な実態と運営を学ぶ 外部講師として高槻市観光協会のスタッフを招聘し、高槻市を事例にした、観光の実態や課題、今後の方向性について学ぶ。	第4回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第5回 地域観光に関する旅行商品造成の方法 教育旅行の商品としてのB&Sプログラムの趣旨や内容、作成の方法やポイントについて学ぶ。	第5回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第6回 グループワーク①：旅行商品の企画骨子の検討 数人からなるグループを形成し、グループごとに高槻をフィールドに教育旅行を受入れ、実施する旅行商品プログラムを造成するワークを行う。 今回は、グループの設置と、地域のリサーチを行った上で、大まかな旅行商品の企画を検討する。	第6回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第7回 グループワーク②：フィールドワークの準備 次回にフィールドワークを行う前提で、そのための準備作業を行う。 考えた旅行商品の企画を、現場で検討するための確認事項の整理、フィールドの廻り方、時間配分などを詳細に検討する。 学修ポートフォリオの中間評価の実施。	第7回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第8回 グループワーク③：フィールドワークの実施 フィールドワークを実施する。第8回と第9回を合同で1日で開催する。	第8回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第9回 グループワーク④：フィールドワークの実施 フィールドワークを実施する。第8回と第9回を合同で1日で開催する。	第9回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第10回 グループワーク⑤：フィールドワークのふりかえりと企画のブラッシュアップ フィールドワークのふりかえりと行うとともに、それを踏まえた旅行商品企画の修正、ブラッシュアップを行う。	第10回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第11回 グループワーク⑥：旅行商品企画のプレゼン資料の作成	第11回授業で学習した内容を復習のこと	4時間

	次回に続いて、旅行商品企画のブラッシュアップを行い、プレゼン資料としてまとめるとともに、発表の準備を行う。		
第12回	グループワーク⑦：プレゼン大会（ゼミ内予選） ゼミ内での予選としてプレゼン大会を行う。オーディエンスは質疑応答とともに評価を行う。	第12回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第13回	グループワーク⑧：プレゼン大会（学年全体での本戦） ゼミ内予選で選定されたグループからなる学年全体での本戦を行う。オーディエンスは質疑応答とともに評価を行う。また、外部の審査委員も招聘する。	第13回授業で学習した内容を復習のこと	4時間
第14回	学習のまとめとふりかえり 演習全体の総括を行う。 期末レポート課題提供。 レポート作成にあたり研究倫理のもと、著作権と個人情報の取り扱いについて再確認をおこなう。 学修ポートフォリオの作成。	これまでの学習内容を復習、まとめておく	4時間

授業科目名	専門演習3【国観】				
担当教員名	松田充史・原田弘之・金蘭正・中野毅・西釜義勝				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松田・原田は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、研究方法や到達点などについて主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる
観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ

目標：

先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。
経営学の点からグローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織を理解することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各研究テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

試験（期末レポート）

30 %

プレゼンテーション

20 %

受講態度

20 %

ポートフォリオ（学びの記録）

30 %

評価の基準

： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。

： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。

： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。

： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

都度テーマに沿った文献、論文等を紹介する。
各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 松田/水3限、原田/ 限、金/火 限

場所： 各研究室

備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、視光が直面している課題、研究倫理 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 また、研究倫理、著作権と個人情報の取り扱いについての説明も行う。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ	4時間
第2回 基礎知識の習得 文献検索等の資料収集、図書館などの活用方法について確認する。	文献などの調べ方などについての既習事項をまとめる。	4時間
第3回 先行研究の調査（1）調査計画の立案 観光学の分野で、各自興味がある課題の先行研究の調査について、計画を立案する。	調査についての見通しを立てる。	4時間
第4回 先行研究の調査（2）先行研究の調査 先行研究の調査を行う。	調査を進める。	4時間
第5回 先行研究の調査（3）調査状況の報告 調査の進捗状況について報告し、情報を共有する。	調査を進め、進捗状況と問題点・課題などについてまとめる。	4時間
第6回 先行研究の分析（1）先行研究の整理と内容分析 先行研究を整理し、文献の構成・アプローチ、分析の視点について学ぶ。	各自集めた先行研究を整理し、内容を熟読しておく。	4時間
第7回 先行研究の分析（2）自分の研究への応用 先行研究の中から、自分の研究へ応用できる箇所に着目し、整理する。	先行研究を熟読しておく。	4時間
第8回 先行研究の分析（3）研究方法について 研究方法に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究方法を考える。	4時間
第9回 先行研究の分析（4）研究の到達点について 先行研究での結論や考察の部分に着目し、先行研究を分析する。	先行研究を熟読し、自分の研究の到達点について考える。	4時間
第10回 研究テーマの設定 先行研究の分析に基づき、自分の研究テーマを設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第11回 仮説を立てる 設定した課題について考えられる原因と対策を挙げる。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回 研究の方法を設定する 仮説を検証するための、研究方法を設定する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回 発表会の準備 研究のテーマ、仮説、方法、予想される結果等研究デザインについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回 発表会 卒業論文の構想発表会を実施する。 期末レポートにおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り。	4時間

授業科目名	専門演習4【国観】				
担当教員名	松田充史・原田弘之・金蘭正・中野毅・西釜義勝				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松田・原田は本科目に関連した観光産業・まちづくりの実務経験を有している。実務経験を十分に活かしつつ、実践的教育をおこなう。				

授業概要

本授業では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を各指導教員の研究指導の下で学びます。専門科目の系統的な学修を省察するとともに、個々の研究テーマを明確にし、具体的な調査・分析や課題解決を図りながらその専門性を一層深めます。2年次から4年次の卒業論文の完成に至るまでの中間年度として、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開などについて学んだうえで、各自の関心・課題にもとづき、文献研究など主体的に学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. グローバル産業・観光関連産業におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解
2. DP2. 職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用

具体的内容：

現代におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる
観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識や事業遂行のための技能を身につけ、職務に係る問題解決のためにその専門性の基礎を学ぶ

目標：

先行研究・文献やインターネットの情報をもとに、グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織の動向を理解できる。

グローバル産業・観光関連産業・地域・自治体等地域組織における課題解決に向けた、仮説の設定と検証および、必要な裏付けとなるデータを収集することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見のための情報の収集・分析・活用

地域・自治体等地域組織における課題解決にあたり、必要な情報を収集・分析・活用することができる。

学外連携学修

有り(連携先：各テーマ関連)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

期末レポート

30 %

プレゼンテーション

20 %

受講態度

20 %

ポートフォリオ（学びの記録）

30 %

評価の基準

： 課題設定および仮説検証のプロセスが妥当かつ効果的であるかどうかで評価する。

： 自分の研究成果や研究デザインを分かり易くかつ聞く側に興味を持たせるような形でプレゼンテーション出来たかどうかで評価する。

： 演習への取り組み方、他の受講者の発表時の傾聴態度等により評価する。

： 「何を学んだかわかるものになっているか」、「学びのふりかえりができているか」を評価の基準とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

各自の卒業論文を完成させるための先行研究、引用参考文献などを自ら用意する。
教員からも随時、個々の学生の研究内容に合わせ文献、論文等を提供する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 松田/水3限、原田/ 、金/火3限
場所： 各研究室
備考・注意事項： オフィスアワー時間以外も、教員が研究室にいる時は質問に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、視光が直面している課題 本講義の目標、内容、卒業研究の進め方について確認する。 研究倫理、著作権と個人情報についての確認をする。	シラバスを熟読し、授業についての見通しを持つ。	4時間
第2回 研究テーマ・課題の共有 受講生各自の研究テーマや課題について構想を発表し、指導教員、ゼミ生と共有する。	構想発表会の資料をまとめる。	4時間
第3回 研究デザインの修正 構想発表会での質疑応答やコメントに基づき、研究デザインを見直す。	論文作成のための資料収集とノート整理	4時間
第4回 調査企画 仮説を検証するための根拠を探るための調査について、計画を立案する。 調査対象や調査項目など、実施計画を具体化させる。	調査方法について既習事項を復習しておく	4時間
第5回 調査票の作成 調査票を作成する。	調査方法について既習事項を復習しておく。	4時間
第6回 調査企画についての共有 各自の調査企画について発表し、実施可能性や問題点などについて議論する。	企画書の発表資料を用意しておく。	4時間
第7回 調査企画の修正 企画書発表会にて、出たコメントに基づき、調査企画を見直す。	発表時の質疑応答やコメントをまとめておく。	4時間
第8回 調査結果のまとめ①データ整理 調査データを整理する。	結果をまとめるのに必要な手法を確認しておく。	4時間
第9回 調査結果のまとめ②データ分析 調査データを分析する。	データ分析に必要な手法を確認しておく。	4時間
第10回 調査結果のまとめ③データ考察 調査結果の解析、考察を行う。	調査結果の考察について既習事項を確認しておく。	4時間
第11回 卒業論文の枠組みの構築 問題意識や研究の目的と調査結果を照らし合せて、卒業論文全体の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第12回 卒業論文の枠組みの修正 卒業論文の枠組みを構築する。	論文作成のための資料収集とノート整理。	4時間
第13回 発表会の準備 調査結果や卒業論文の枠組みについて発表するための資料を作成する。	発表用資料の準備、発表の練習をしておく。	4時間
第14回 発表会 調査結果と卒業論文の枠組みについて発表する。 期末レポートにおける課題提供をし、レポート作成時の注意点について指示をする。 特に研究倫理、著作権と個人情報についての説明を行う。	質疑応答の内容をまとめる。卒業研究進捗状況の振り返り	4時間